

特25-850



• 200807167419 •

寰瀛水路誌

露韓沿岸 自鴨綠江
至堪察加

第二卷第二版

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4

始



福祿壽喜

福祿壽喜

特 25
850

明治十九年十二月刊行

寰瀛水路誌 第二卷 第二版

海軍水路部

東洋水路誌

東洋水路誌卷二

明治十六年十二月發行

東洋水路誌卷二第二版序

東洋ノ水路氣象ノ經驗タル之ヲ大西洋印度洋ニ比スレバ未ダ以テ其十分ノ一ナル能ハズ支那沿岸ノ如キハ稍其全勢ヲ伺フニ足ルベシト雖モ露韓ノ沿海ニ至リテハ全ク然ル能ハズ本巻載スル所ノ地方區域大約北緯三十三度ヨリ六十二度東經一百二十四度ヨリ一百六十五度迄ヲ畫シ即チ西ハ朝鮮ノ鴨綠江口ヨリ東ハ露領ノ堪察加ニ至リ其沿岸勢曲折蜿蜒大約五千九百餘里ノ間精確ノ測量ヲ經タル處甚ダ少ク其未ダ全ク概測ヲモ經サルノ地猶ホ數百餘里ニ亘ル蓋シ其風土未ダ關ケス船舶跡ヲ尋カサルノ致ス所ナリ從フテ此巻ノ編輯ニ供スベキ資料ハ實ニ僅少ニシ且ツ粗略ナリト謂フベシ然ルニ明治十六年ニ於テ第一版ヲ刊行セシ後二三年間此地方ノ航海漸ク盛ニシテ其新記事ヲ得ルコト多ク且ツ從來露測ニ成レル精密ノ記事ヲ得ル亦少小ナラズ因ツテ今者前版ヲ訂正増補ノ第二版ヲ刊行スルコトヲ得タリ其全篇ノ改正増補ニ用ヒタル重ナル者ハ即チ一千八百八十四年改正刊行英國海軍支那

海針路誌第四卷一千八百七十二年露國海軍水路部刊行伯德大帝灣水路誌及
ヒ一千八百六十五年露人「サモフローロウ」編纂薩哈連海峽行船必携ナリトス
而シテ此他ニ引用セシ資料及原資ハ每編左ニ之ヲ列記シテ以テ參考ニ供ス
其第一編露韓沿海一般情勢ハ海軍海圖水路雜誌及ヒ英海軍海圖其他中外ノ
地誌諸記録ニ據ル

第二編即チ朝鮮西岸中大同及ヒ大東ノ二江ハ明治十五年九月天城艦乘員海
軍少佐五藤國幹ノ實驗筆記及ヒ明治十七年六月孟春艦長海軍少佐原田元信
其他諸士官ノ實驗記ニ取リ「フェルリールス」列島ヨリ江華漢江ヲ經テ揚花津ニ
至ルマデハ一千八百八十四年十二月朝鮮國稅關履ケアテイ「エフ、ゲエシュルツ」
ノ報道及ヒ一千八百六十六年佛國支那海艦隊ノ測量記事ニ據リ其中漢江口
ノ行船法程ハ明治九年日進艦乘員海軍中尉本宿宅命ノ實驗記ヲ取リ而シテ
南陽灣ハ明治十年高雄丸乘員海軍少尉兒玉包孝等ノ實驗記及ヒ明治十五年
九月天城艦乘員海軍少佐五藤國幹ノ實驗記ニ據リ牙山灣ハ朝鮮八域誌及ヒ

海軍海圖ヲ參酌シ淺水海灣庇仁灣長浦江及ヒ沃溝灣ハ明治十一年天城艦測
量ノ際海軍中尉吉田重親海軍少尉加藤重成等ノ實驗記及ヒ明治十七年六月
孟春艦長海軍少佐原田元信等ノ實驗記其他水路告示等ニ據ル

第三編即チ朝鮮南岸中其西部ハ明治十年海軍少尉兒玉包孝同高杉春棋ノ實
驗筆記及ヒ明治十八年八月海門艦ノ報告等ヲ取リ順天浦ヨリ巨濟島「プロ
ト」頭迄ハ明治九年鳳翔艦長海軍少佐山崎景則ノ實驗記及ヒ明治十七年六
月孟春艦長海軍少佐原田元信ノ實驗記其他英國水路雜誌等ニ據リ其釜山港
ハ明治八年第二丁卯艦回航ノ際海軍大尉青木住真ノ實測ト明治十三年天城
艦回航ノ際海軍少尉三浦重郷ノ實驗筆記ニ據ル

第四編即チ朝鮮東岸ハ釜山ヨリ永興灣ニ至ルマデハ明治十三年海軍少尉三
浦重郷ノ實驗記ヲ取リ而シテ一千八百五十四年露國「フリグート」形艦「バルラ
ス」號及ヒ一千八百五十六年佛國「フリグート」形艦「ザルジニ」號ノ航海筆記ヲ
抄録添補シ其永興灣内諸錨地ハ明治十一年海軍大尉山澄直清同十三年海軍

少尉三浦重郷等ノ實驗記其他水路告示等ニ據ル
 其第五編中「ボシエツト」灣ハ米國水路報告ヲ取り伯德大帝灣ヨリ黑龍江ニ至ル
 マデハ水路告示ヲ參酌シ樺太島ハ重ニ一千八百五年露人「クルセンスタルン」
 ノ實驗記事ト傍ハラ英國諸艦ノ記事ヲ取り黑龍江以北疇哥德斯科沿海ハ一
 千八百五十一年ノ頃露英ノ測量ニ據リ堪察加沿海ハ重ニ一千八百二十七年
 英人「ビーチー」ノ實驗ト傍ハラ露測ヲ取り又佛國水路告示及ヒ英人惹迷斯ノ
 堪察加記行等ヲ參考シ其中「アヅアチヤ」灣ハ明治八年日進艦乘員海軍中尉本宿
 宅命ノ實驗記等ニ據ル
 夫レ朝鮮沿岸ハ露領沿岸ニ比スレバ六分一ニ滿タズト雖モ其記事ノ新驗ノ
 モノ却テ多キハ前條ノ列記ニ因ツテ明ラカナリ之ヲ要スルニ本書ハ之ヲ第
 一版ニ比スレバ新且精ニシテ其航海者ヲ益スル更ニ大ナルベキヲ信スルナ
 リ今後此書ヲ用ユル者ハ尙實況ト比較シ正スベキハ之ヲ正シ補スベキハ之
 ヲ補シ精確ノ實驗ヲ舉ゲテ本部ニ報道センコヲ望ムト云爾

明治十九年九月

海軍水路部長海軍少將柳楢悅

凡例

- 一 方位ハ都テ磁針ニ取ルモノヲ用ユ其真方位ノモノハ一々真方位ノ語ヲ添フ
- 一 風及ヒ浪ハ其來ル所ノ方向ヲ指シテ某風或ハ某浪ト稱ス海流及ヒ潮流ハ之ニ反シ其往ク所ノ方向ヲ指シテ某海流或ハ某潮流ト稱ス
- 一 凡ソ某方向ヲ示スニ其方ニ偏ノ字ヲ冠スルモノハ此方向ノ數點以內ニ當ルモノヲ云フ即チ東ノ左右數點內ノ風ヲ偏東風ト曰フカ如シ
- 一 港灣等ノ岸ノ左右ハ海方ヨリ港灣ヘ向フテ稱シ江河ノ如キハ之ニ反シ其水源ヨリ下流ニ向フテ稱スルモノトス
- 一 卷中用ユル所ノ距離稱ハ陸里ト特記スルモノ、外ハ都テ左ニ從フ
- 一 一里ハ緯圈一度ヲ六十里トスル海里法ニシテ即チ六千〇七十五尺半ニ當ル
- 一 一鏈ハ一里ノ十分一ニシテ大約一百尋ニ當ル
- 一 一尋ハ六尺ニ當ル

一卷中露里ヲ用ユルモノハ特ニ露里ノ語ヲ添フ但シ一露里ハ約三千五百尺ニ當ル

一朝鮮地方地名ノ洋稱アルモノハ朝鮮ノ原名ニ之ヲ並記ス

一卷末ニ附記セル地名索引ハ洋稱ノ地名ハ勿論朝鮮ノ原地名ノ如キ總テ洋字ニテ之ヲ綴ル但シ朝鮮ノ原地名ハ讀易キヲ旨トスルカ故ニ朝鮮音ヲ取ラスシテ我國音ヲ用ヒテ之ヲ綴ル而シテ其兩名稱アルモノハ一地ニ付キ兩稱ノ索引表ヲ設ク譬ヘハ大同江口ハDノ部ニ *Daids-ko entrance* ト書シ即チ日本音又Pノ部ニ *Ping-Yang inlet* ト舉ク即チ洋稱ルカ如シ他ノ地方ノ如キモ此例ニ據リ以テ搜索ニ便ス

一本卷ハ内外海圖ニ就キ編纂スル處頗ル多キカ故ニ此書ヲ視ル者ハ宜シク其關係海圖ト之ヲ參照スベシ

寰瀛水路誌卷二

總目次

第壹編 總記

- 朝鮮國一般情勢 自一丁至九丁
- 黑龍沿岸州一般情勢 自九丁至十丁
- 樺太島一般情勢 自十丁至十一丁
- 荷哥德斯科海一般情勢 自十一丁至十四丁
- 堪察加半島一般情勢 自十四丁至十七丁
- 朝鮮西岸及南岸之風信天候 自十七丁至十九丁
- 朝鮮海峽之風信及天候 自十九丁至二十丁
- 日本海及朝鮮東岸風信天候及海流 自二十丁至二十四丁
- 黑龍沿岸州海岸之氣候及風信及海流 自二十四丁至三十丁
- 荷哥德斯科海之氣候風信及海流 自三十丁至三十四丁

堪察加南東岸ノ氣候風信及海流

自二十四丁至三十五丁

第貳編 朝鮮西岸及朝鮮叢島

朝鮮西岸 鴨綠江○パイラデス淺

灘○大同江口○許沙島○大東河

自二十七丁至五十九丁

口○サー、ゼー、ムス、ホール群島

漢江 撻河○濟物浦直路○江華

直路○孫石項○キンシヤン洲○

砲臺岬ノ泊地○ボテユナイ直路○

ソーマック直路○サク、コル直路○

自五十九丁至百二十五丁

ツォフル直路○マボ直路○マボ直

路ノ上部

フニルリールス列嶼○皇子叢島○

「チャッセリアウ堆○豐島○フリヴィ

ール列島○立波島○ヘンリール島

○ユゼニール島○兄弟岩○フォール

ニール嶼○濟扶島○大部島○小

自百二十五丁至百五十三丁

部島○南北兩ウオッチャース岩○ラ

ウンド島○圓錐岩○ヘイコックス

列嶼○エドモンド島○キッテン岩

○カット島○ヒューマン島○靈興島

○ウイットホール群嶼

「マリフォルチニ」叢島○永宗島○

「ボシエット」島○勿淄島○「マイユ

自百五十三丁至百七十二丁

ム」島○栗島○月尾島○濟物浦○

行船法程

南陽灣○馬山浦○牙山灣○「デセ

プシヨン灣 ○カロリン灣 ○ジョ
 ーチ灣 ○クリップフォールド列島 ○マ
 シヨリバンクス港 ○淺水海灣 ○
 星湖鼻 ○庇仁灣 ○長浦江 ○沃溝
 灣
 朝鮮叢島 隔音群島 ○馬鞍島 ○
 瘦瘠列島 ○梅加島 ○西草群島 ○
 沙置島 ○ハイドログラファ群島
 ○レイル岩 ○シングル島 ○小中
 關群島 ○黒山島 ○新伊爾群島 ○
 シルヴィア群島 ○ライラ島 ○ニム
 ロッド島 ○マルレイ浦 ○ピーアス
 島 ○モントリール島 ○行船法程

自百七十一丁至二百六丁

自二百六丁至二百四十七丁

○レヴェン礁脈

第三編 朝鮮南岸

朝鮮南岸及近傍諸島 華盛頓海灣
 ○長群島 ○鳩子島 ○ベート群島
 ○嶽與島 ○華島 ○濟州島
 グーバー港 ○所安群島 ○セルビ
 ー島 ○鹿島 ○竹島 ○牛島 ○草島
 ○大郎島 ○馬島 ○南點列嶼并北
 點列嶼 ○雲龍島 ○マウス列島 ○
 西中央及東ダルト島 ○角石島 ○
 阿久蘭土島 ○フーパー島 ○ソ
 ナンホー群島 ○鉢大合島 ○農夫島
 ○ナニホー群島 ○ハミルトン群島 ○圓

自二百四十九丁至二百七十四丁

自二百七十四丁至二百九十四丁

錐島○「ピール」群島○天冠山高角
 ○召山島○尖頂及城列島○順天
 浦○「シーン」列島○「スピンドル」嶼
 ○「スキーン」島○欲知島○「ダーヴ」
 群島○「インコグ」列島○「ブローク」
 ン」群島○國島○小知島○每武島
 ○内部及外部矮船列嶼○守兵島
 ○「アタラント」列島○「ベラム」水道
 「ウイルス」海灣○南海島○昌善島
 ○赤梁島○勤島○新壽島○「バル
 ヴイス」永門○蛇梁島○鳥島○「シャツ
 ドウエル」海灣○竜草島○竹島
 長江○巨濟島○古多太灣○加德

自二百九十四丁至三百二十一丁

自三百二十一丁至三百三十八丁

島○「ドーグラス」水門○「シルヴィア」
 内澳○「サー、エイチ、パークス」浦○
 熊川灣○「アシビ」水門○釜山港

自三百二十八丁至三百九十三丁

第四編 朝鮮東岸

朝鮮東岸及諸島 日本海○「リヤン

コールト」列岩○鬱陵島○冬外串

○迎日灣○寧海丑山浦○「ゾロッチ」

岬○「プロートン」灣○靈湖津又長

箭洞○「コドリカ」角

永興灣○元山津○大江半島○松

田灣○内湖灣○新浦錨地○雞冠

岩○「ゴシケヴィチ」灣○「シスロ」角○

豆滿江

自三百九十五丁至四百十四丁

自四百十四丁至四百四十九丁

第五編 黑龍沿岸州、樺太島、荷哥德斯科海及堪察加海岸

黑龍沿岸州 「ボシエツト」灣 ○「バルラ
 ダ」泊船處 ○「クラッペ」半島 ○「ヂユルハ
 ード」岬 ○「ポストワヤ」灣 ○遠征灣
 ○「ガモージ」灣 及「トリニタイ」灣
 伯德大帝灣 「ガモージ」半島 ○「コ
 ルサコヅ」列島 ○亞母爾灣 ○「スラ
 ヴ」アンスキ「灣 ○綏芬江 ○「レチ
 ノイ」島 ○波士弗爾東海峽 ○浦潮
 斯德港 ○「スクリプレフ」島 ○喀薩
 岬 及「カルリ」水道
 烏蘇里灣 ○「アスコルド」島 ○「スト

自四百五十一丁至四百八十二丁

自四百八十二丁至五百三十二丁

レローク灣 ○東灣 ○亞米利加灣
 ○「ウランゲル」灣 ○「ボヴォロツトニ」
 角 ○「チエニア」灣 ○「ザモック」岬
 「シニアウウフ」灣 ○「セーント、ヴァレン
 チン」灣 ○「セーント、ユースタフ、イ
 灣 ○「ラルガ」灣 ○「セーント、ウラジ
 ミル」灣 ○避風灣 ○「シビル」灣 ○「ピ
 キウ」灣 ○奄牛灣 ○失望岬
 韃靼海灣 「サツフレン」灣 ○「ベスチャニ
 ー」角 ○「バルラコータ」港 ○「加斯土
 里」灣 ○「加斯土里」灣以北沿岸ノ形
 勢
 亞母爾海灣 樺太好水道 ○北水道

自五百三十二丁至五百五十二丁

自五百五十二丁至五百七十三丁

自五百七十三丁至六百十七丁

○黑龍江○尼固賴斯克府○潮信
○行船法程

自六百十七丁至六百四十一丁

樺太島西岸 「カメンヲバスノスチ」

○「ノトロ岬」○「ト、モシリ島」○「シ

レトコ岬」○「アニワ」○「ボロ、トマ

リ」○「ツブート」○「コツ、ナイ泊

地」○「カルサコツ」○「コサケヱチ

灣」○「ドワイ」○「ジョンクイエル」○

「ヲブマン」○「ナデイダ」

自六百四十一丁至六百七十七丁

樺太島東岸 「ローウエンホルン」岬

○「トニン岬」○「シニアジン」○「ダ

ルリンブル」○「忍耐灣」○「ロッペン

島」○「ベルリングシャウセン」岬

自六百七十七丁至六百八十八丁

「デリスル、デラ、クロイエー」岬

トメロイ」岬

○「ロウエンスタルン

岬」○「エリザベス」岬

○「マリ」岬

○「北灣

荷哥德斯科海 「セーント、シヨナ」島

○「シャントルスキ」列島

○「セーント、ニ

コラス」灣

○「アカデミー」海灣

○「フ

ードスキ」灣

○「アイアン」嶽

○「ア

ルドマ」灣

○「荷哥德斯科港

○「北岸

○「ギジギンスク」灣

○「ベンジンス

ク」海灣

自六百八十八丁至七百二丁

堪察加西岸 「ラムゴン」岬

○「チギル」

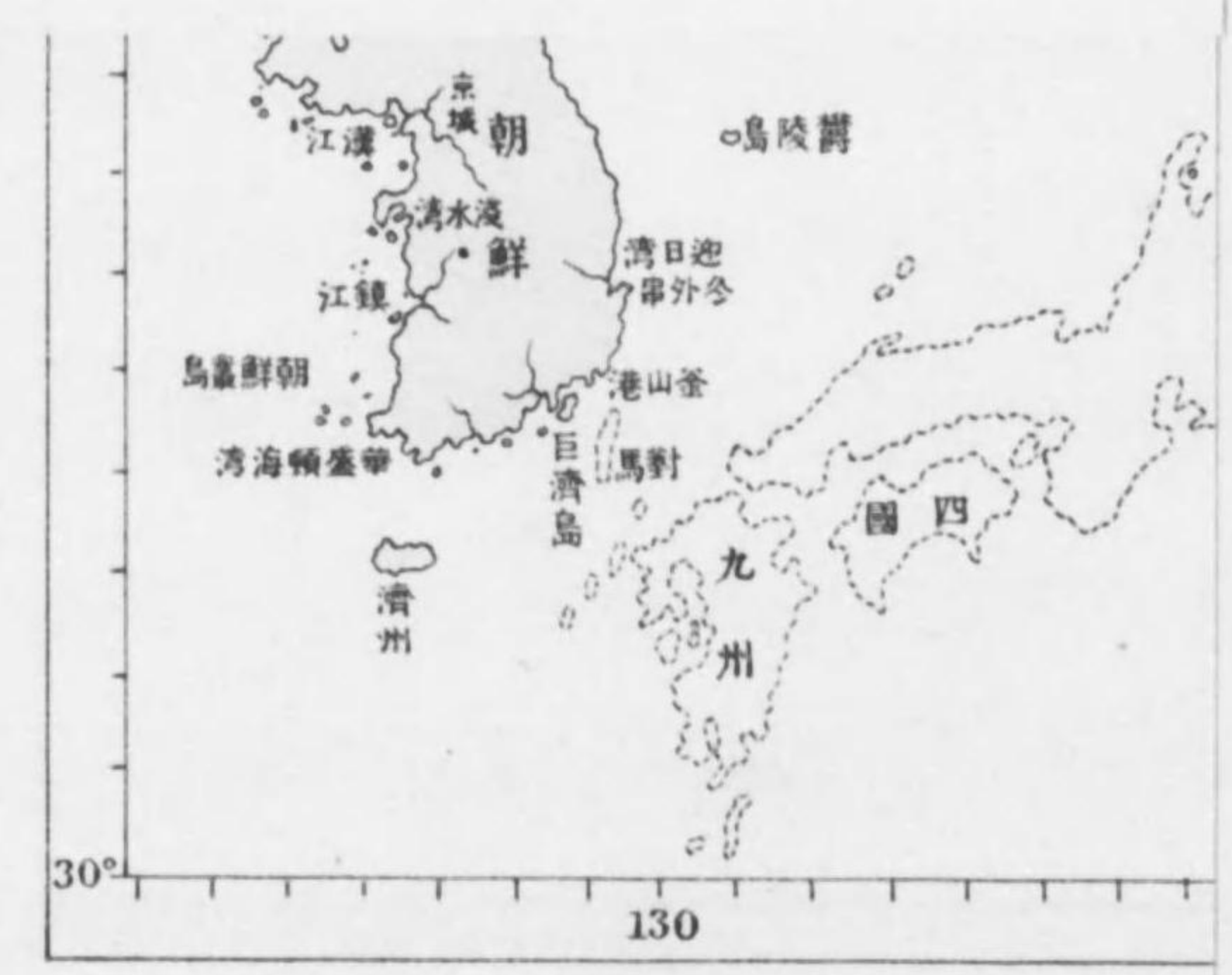
河」○「カリチニ」灣

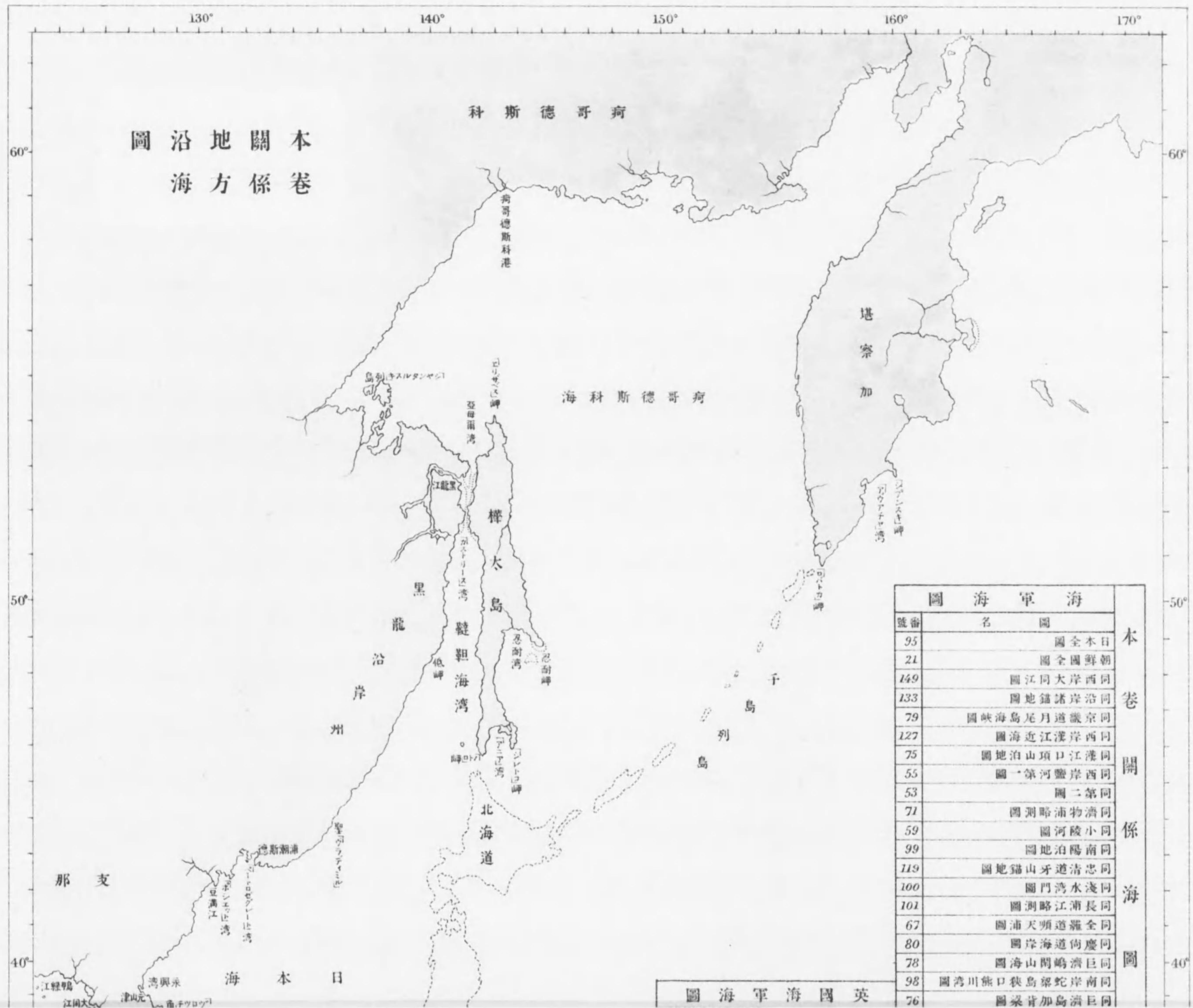
○「ロバツカ」岬

自七百二丁至七百十丁

堪察加南東岸 「チヨウツイ」岬○「ハ
 ドトカ」岬○「リストウエニ」チ「灣
 及「アホムテン」灣○「アツアチヤ」灣○
 「ベトロパウロヅスク」港○行船法
 程○堪察加河

自七百十丁至七百二十九丁

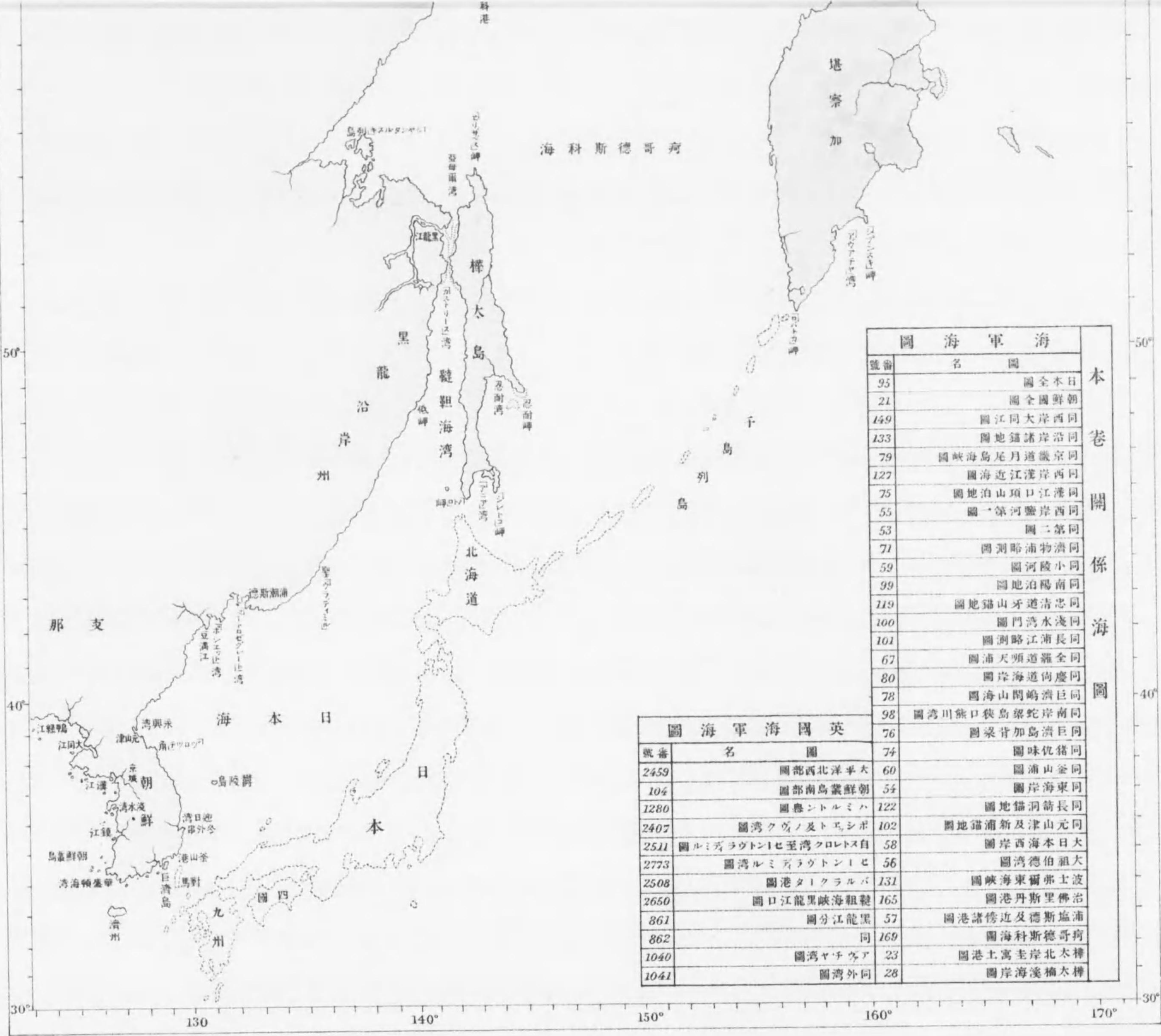




本 卷 關 地 沿 海
日 本 海 方 關 地 沿 海

海 軍 海 圖		本 卷 關 地 沿 海
號 番	名 圖	
95	圖 全 本 日	本 卷 關 地 沿 海
21	圖 全 國 鮮 朝	
149	圖 江 同 大 岸 西 同	
133	圖 地 鋪 諸 岸 沿 同	
79	圖 峽 海 島 尾 月 道 畿 京 同	
127	圖 海 近 江 漢 岸 西 同	
75	圖 地 泊 山 頂 口 江 漢 同	
55	圖 一 第 河 鹽 岸 西 同	
53	圖 二 第 同	
71	圖 測 略 浦 物 濟 同	
59	圖 河 陵 小 同	
99	圖 地 泊 陽 南 同	
119	圖 地 鋪 山 牙 道 清 忠 同	
100	圖 門 灣 水 淺 同	
101	圖 測 略 江 浦 長 同	
67	圖 浦 天 順 道 羅 全 同	
80	圖 岸 海 道 尙 慶 同	
78	圖 海 山 間 嶼 濟 巨 同	
98	圖 灣 川 熊 口 狹 島 梁 蛇 岸 南 同	
76	圖 梁 背 加 島 濟 巨 同	

英 國 海 軍 海 圖



本 卷 關 係 海 圖

圖 海 軍 海

號番	名 圖
95	圖全本日
21	圖全朝鮮
149	圖江同大岸西同
133	圖地錨諸岸沿同
79	圖峽海島尾月道畿京同
127	圖海近江淺岸西同
75	圖地泊山頂口江港同
55	圖一第河鹽岸西同
53	圖二第同
71	圖測略浦物濟同
59	圖河陵小同
99	圖地泊陽南同
119	圖地錨山牙道清忠同
100	圖門灣水淺同
101	圖測略江浦長同
67	圖浦天頭道羅全同
80	圖岸海道尙慶同
78	圖海山間嶋濟巨同
98	圖灣川熊口狹島梁蛇岸南同
76	圖梁背加島濟巨同

圖 海 軍 海 國 英

號番	名 圖	號番	名 圖
74	圖味仇猪同	60	圖浦山釜同
2459	圖部西北洋平大	54	圖岸海東同
104	圖部南島業鮮朝	122	圖地錨洞箭長同
1280	圖卷ントルミハ	102	圖地錨浦新及津山元同
2407	圖灣クウノ及トエシボ	58	圖岸西海本日大
2511	圖ルミヲラウトンヒ至灣クロトス自	56	圖灣德伯祖大
2773	圖灣ルミヲラウトンヒ	131	圖峽海東爾弗士波
2508	圖港タイクラルバ	165	圖港丹斯里佛治
2650	圖口江龍黑峽海粗韃	57	圖港諸傍近及德斯塩浦
861	圖分江龍黑	169	圖海科斯德哥荷
862	同	23	圖港土寓圭岸北太樺
1040	圖灣ヤチウア	28	圖岸海淺橋太樺
1041	圖灣外同		

寰瀛水路誌卷之二

海軍屬嘉納謙作 譯纂

露韓沿岸自鴨綠江至

第一編

總記 朝鮮黑龍沿岸州縣察加等海岸一般情勢及氣候風信海流等

朝鮮國一般情勢

朝鮮國ハ亞細亞ノ東部ニ在リ其地勢タル狹長ナル一大半島ヲ成シ群島嶼之ヲ圍繞ス其位置ハ北緯三十三度十五分ヨリ同四十二度二十五分東經一百二十四度三十分ヨリ同一百三十度三十五分ニ至ル而シテ全國ノ廣袤南北ハ大約五百里東西ハ一百八十里乃至九十里ニシテ其面積約八萬方里岸線ノ長サ一千七百里ナリ東ハ日本海ニ臨ミ西ハ黃海ニ面シ南ハ太平洋ニ臨ム而シテ我九州及ヒ五島ト朝鮮海峽ヲナシ南東ハ我對馬ト海水ヲ隔テ、西水道ヲナス對馬及ヒ九州間ノ水道ト曰フ水又北ハ長白山脈シヤンヤンアリ及ヒ源ヲ此山ニ發セル二大河ヲ以テ

支那及ヒ黑龍沿岸州ト界ス即チ其一ヲ鴨綠江ト稱シ支那ノ吉林盛京二省ニ
界ス其二ヲ豆滿江ト稱シ韃靼即チ露領^{ポシエツト}ト界ス鴨綠江ハ西流シテ黃
海ニ入り豆滿江ハ東流シテ日本海ニ落ツ國ノ西岸及ヒ南岸附近二十里乃至
五十里ノ地ニハ無數ノ島嶼散布シ其中ニ好避泊地ヲ有スル者アリ而シテ其
陸岸ニモ亦數多ノ良港及ヒ可航江河アリ然レモ其東岸ハ地勢高クシテ島嶼
港灣共ニ少ナシ海軍海圖第九十五號第二十一號及ヒ英海軍海圖第一千四百
號第三百五十八號國內八道ニ分ル其北道ヲ威鏡道平安道ト曰ヒ西道ヲ黃海道
京畿道忠清道ト曰ヒ東道ヲ江原道ト曰ヒ南道ヲ慶尙道全羅道ト曰ヒ北道ハ
樹木多クシテ人口少ナク南道及ヒ西道ハ富饒ノ地タリ長白山ノ大脈北ヨリ
南ニ向ヒ東岸ニ沿フテ走リ此山脈ヨリ諸山脈分派シテ全國ニ及ブカ故ニ八
道到ル處山ヲ見サルナシ其峯或ハ秃ナルアリ茂樹ナルアリ亦タ以テ海客ノ
目標トナスヘキモノ多キヲ知ル
州府郡ノ往還道路ハ稍廣坦ノモノアレモ概スルニ街路險惡運輸ニ不便ナリ

又江河ハ皆舟ヲ以テ之ヲ渡ル大小ノ川ニ至リテハ其深キ者ハ舟ニテ渡リ淺
キモノハ木橋ヲ架ス而シテ全國ノ河ハ橋道多ク津渡少ナシ其橋梁ハ甚タ拙
劣ノモノニシテ大抵丸石ヲ川底ニ駢置セル迄ナリ其他ハ杭ノ上ニ板ヲ並ヘ
タルモノニテ出水毎ニ流失ス只京城ニハ一ノ良石橋アリ通路ノ便否概テ此
ノ如シ依テ諸物ヲ運輸スルニハ皆牛馬人力ニヨラサルヲ得ス故ニ多人數往
來スルハ路ヲ沿海ニ取ルヲ善シトス
砲臺ハ或ハ方圓或ハ多角形ニシテ地上ニ突出スルヲ約二間其外面ハ磨石ヲ
以テ之ヲ覆ヒ恰モ城郭ノ如シ其上ニ方輒ヲ疊積シテ壁トナシ處々凹形及ヒ
方形ノ砲眼ヲ穿チ又外面ノ覆ヒタル處ニハ長方形ノ門ヲ穿ツ壁後ニ豎繩ヲ
以テ之ヲ壁内ニ固定シ砲尾ヲ支柱ニ掛ケ而シテ砲筒ヲ砲眼中ニ安定スルモ
ノアリ若シ又壁後ニ樹木アルハ砲尾ヲ之ニ懸ケテ以テ支柱ノ用ヲナサシ
ム但シ備砲ハ底裝ノ長筒ナリト云フ京畿道江華島ニ八個ノ砲臺ヲ設ク又漢
江ノ北岸江華ヲ距ル我ソウマクニ一整ヲ備フ戰艦ハ只木製ヲ用フ而シテ龜

船ハ戰艦ノ一種ナリ現今陸軍及ヒ水軍ノ兵員ハ未ダ全ク詳ラカナラス但シ
人ノ總員ハ大概二萬五千四百四十八
兵船七百三十七艘ナリト云フ

左ニ掲グル朝鮮風土ノ一斑ハ一千八百五十五年露國海軍日誌ノ抄譯ニ係
ル蓋シ外人ノ視察ナルカ故ニ或ハ事實ノ適切ナラサルモノ多シト雖モ海
客カ朝鮮沿革ヲ注視スルニ際シ之ヲ參考スレハ敢テ裨益ナシトセサルナ
リ

我艦ノ通過セル朝鮮海岸ハ其土瘠瘠ナリト雖モ凡テ朝鮮ノ住民多クシテ
村落モ多ク其中ニハ貧窶ナカラ人口稠密ナル市府モ數多アリ山地沙地ニ
テハ物ヲ運フニモ糧ヲ備フルニモ唯、一個ノ手段タル小舟ハ何レニテモ多
ク之ヲ見タリ陸ニ上ルコトハ極メテ稀ナリシガ偶、上陸セシ時ニモ馬其他一
切ノ家畜ハ之ヲ見ルコト稀ナリシ

朝鮮ノ舟ハ半ハ支那船ニ類シ半ハ日本船ニ似タルモノニテ櫓ハ一本ナル
モノアリ二本ナルモノアリ帆ハ筵ヲ日本様ニ方形ニ縫合セタルモノニテ

風ナキ時ハ船ノ側ニ長キ櫓ヲ架シ舟子ハ立ツテ之ヲ押スナリ

朝鮮人ノ着服ハ我輩ノ通過セシ海岸ニモ「ハミルトン」海ニテモ同一ニ白木
綿ノ長衣或ハ半衣ナリ朝鮮人ヲ一見スルルハ其帽子ハ抑、何ノ爲メニシテ
冠レルヤトノ疑ヒヲ起サ、ルヲ得サラシム何トナレハ其形チハ廣キ縁ア
ル高キ圓錐狀ノ帽子ヲ紐ニテ頭ニ結ヒ付ケタルニテ雨ヲ防クニモ適セス
風ニ逢ヘハ常ニ其飛去ランコトヲ恐ル、様ノモノナリ而シテ雨ノ降ル時ハ
其上ニ紙ノ袋ヲ掛ケ一層笑フ可キノ體ヲ加フルモノナレハナリ靴ハ支那
人ノ穿ツ所ニ似タリ帶ハ白木綿ヲ其マ、卷キタルマテノモノニシテ煙草
入燈袋ヲ之ニ掛ケタリ貴人ハ唯、其不潔ナラサル而已ヲ以テ區別スルヲ得
ヘシ「ラザレフ」港_{松田}ニテ見タル暹卒ハ紺色ノ服ニ同色ノ袴ヲ着シ通例ノ
帽子ニ異色ノ紐ヲ附シ鳥羽ヲ以テ裝飾セルヲ冠セリ
「アレフイー」島邊ヨリ北ノ地方ニ住セル朝鮮人ハ其衣服全ク變シ半長ノ裘
ヲ着シ毛皮ノ帽子ヲ冠レリ

其船モ全ク變シ支那ニモ日本ニモ似ス唯、獨木ヲ削リ窪メテ造レル小舟ニテ橋ハ絶テアルコナシ然レモ此邊ニテハ人口甚タ稀疎ナリ其稀レニアル村落ハ相互ノ往來通交モナサマルモノ、如シ

朝鮮人ノ住メルハ豆滿河ノ右岸ニ終ル此右岸ニハ朝鮮ノ村落數多アレモ朝鮮人ハ一步モ此河ヲ越エテ進ミ得ルモノナシ其左岸ニ村落ヲナセルハ清人滿人ノ漁獵採樵ヲ業トセル者ノ來リ住メルニテ是モ亦懼ル、ノ所アリテ絶エテ其右岸ニ足ヲスル、ヲ得ス此移住者ハ大國中ノ諸方ヨリ來レルモノナルヲ以テ其性質風俗ヲ約言スルヲ得ス其中ノ或ル人ハ何レニモ屬セヌ獨立民ナリト云ヒ又或ル人ハ滿州ノ南部ノ一縣タル吉林ニ貢ヲ納ル、ト云ヘリ是等ノ人ノ住セル最初ノ村ハ「ボート」タコツ「地峽」ノ岩ノ後方ニ在リ第二ハ「ボシエツト」灣ノ岸ニテ稍耕勸セル地ニ在リ此「ボシエツト」方ナルハ隨分富有ニシテ其上貿易ニ適スル性ヲ具セルカ如ク見ユ又或ル軍艦ノ艦長ノ話ニ嘗テ韃靼海岸四十三度ノ地ノ長灣ニ冬ヲ經ルコアリト語

レリ此長灣ト云ヘルハ即チ「ボシエツト」灣ナラン何トナレハ該灣ハ北緯四十二度三十七分ニ在レハナリ

飲水ハ到ル處汚惡ナルカ故ニ咽喉病神經病及ヒ腫骨病氣ヲクハ脚ヲ患フルモノ多ク又諸種ノ惡性病アリ夏ハ殊ニ甚タシ土人ノ説ニ據レハ水ノ惡シキニヨリ一種ノ癩病ニ罹ル者アリ此病ヲ水土ト曰フ又惡性ノ抱瘡流行ス如キノ地ニ出軍スルニハ其兵士ニ出故ヲ以テ死者甚タ多シ是レ殊ニ醫術ノ拙キト軍前悉ク種痘セシムルヲ要ス

看護ノ不行届キトニ坐セリ又一種ノ極惡性ノ熱病「ベスト」チ「フユス」アリ此病ニ罹ルモノ速カニ發熱セサレハ忽チ死ス虎列拉病モ亦甚ダ多シ斯ノ如キ氣ハ毎朝三乃至五「ゲレ」程「キニ」ネ此ノ如キ病ニ罹ルモノ多シト雖モ朝鮮ヲ服用シテ其病ヲ豫防センコトヲ要ス

人ハ自カラ其人口繁殖スト云フ而シテ西教弘法師ノ説ニテハ人口減少スト云ヘリ水田ノ近邊ニ陣ハ布クヘカラス必ラスヤ高キ地ヲ撰フヘシ而シテ清以テ遠

朝鮮ハ山嶽多クシテ平地少ナキカ故ニ氣候平和ナラス大抵冬ハ酷寒ニシテ

夏甚々熱ス北方豆滿江ノ如キハ氷合スルコト六閱月ニ至リ南方モ亦雪多ク且ツ久シ己ニ北緯三十五度ノ地ニ於テハ寒暑針攝氏氷點以下十五度ニ至リ北緯三十七度半乃至三十八度ノ地ニテハ同氷點以下二十五度ニ及フ南方全羅慶尙忠清ノ三道ハ氣候頗ル中和ト稱スレモ寒暖屢變シ易ク就中夏時尤モ多雨ニシテ冥霧四方ニ塞カリ咫尺ヲ辨セサルノ日多ク朝鮮海峽ヲ航スル船舶モ此患ヲ免カレ難シ只春秋二季ヲ中和ノ節トス夏ハ大雨多クシテ道路ヲ阻隔スルコト少ナカラス

慶尙忠清全羅三道ハ節候水土概テ我東京ト異ナルコトナシ江原道ノ中ニ於テ山ニ據ルノ府ハ冬時或ハ降雪アリト雖モ深サ尺寸ニ滿タス平安道其他各道ハ雪空中ニアリテ地ニ落ツレハ即テ消失ス大雪ノ年ニ當ルモ深サ二三寸ニ過キス咸鏡平安二道ノ住民ハ夏日三南道(慶尙忠清全羅)ニ到レハ暑ニ犯サレテ忽チ病ヲ發スルモノ多ク而シテ南人ハ北ニ行クモ別ニ病ヲ生スル者ナシ大同江黃海平安二道ノ界ニアリハ冬時暫ク結氷シ漢江京畿道ハ全ク結氷ス

ルコトナシ咸鏡道關北茂山以下ノ六邑最モ寒シ毎年十月ヨリ雪ヲ降シ翌年二月ニ至リ消融ス而シテ雪降ルノ時風ニ當リテ堆積スル處ハ深サ一丈餘ニ至ル積雪ハ風ノ爲メニ磨セラレテ堅硬ナリ故ニ堅氷ノ如ク馬車雪上ヲ通行ス大雪ニ際シ風ヲ受クルノ家屋或ハ埋沒セラレテ出入スルコトヲ得ス雪少シク消融スルニ從ヒ隣家ヨリ來テ僅ニ其門ヲ開クコトアリ然レモ毎年ノ積雪ヲ平均スレハ深サ約一尺乃至二尺ナリト云フ

黑龍沿岸州海岸一般情勢

英海軍海圖第二千四百五十九號ヲ參照スベシ

豆滿江口ヨリ黑龍江口ニ至ル迄大約九百五十里ノ黑龍沿岸州海岸ハ一般ニ北東ノ間ニ向ヒ其東面ハ日本國ノ中土及ヒ北海道ニ對ス而シテ其北端ハ樺太島西岸ニ接シテ荷哥斯德科海ニ入ルノ門口ヲ扼ス又其南端ハ朝鮮國ニ隣シ日本海ニ枕ム但シ北端ニ於テ樺太島ト相對シテ成ル所ノ海灣ヲ韃靼海灣ト曰フ元來此海灣地方ハ支那ノ屬地ナリシカ輓近ニ至リ豆滿河北ノ地ハ概テ露國ノ版圖ニ入レリ其地方廣漠ニシテ部落甚々少ナク人民亦野蠻ナリ

樺太島一般情勢

樺太島ハ北海道北見國ノ北西ニ在テ往時半ハ我邦ニ屬シ半ハ露國ニ屬セシ
カ明治八年洋紀一千八百七十五年五月兩國政府ノ條約ニヨリ千島叢島ト交換シ該全島
ハ露國ノ領スル所トナレリ
全島土人甚タ稀レナリ往時我邦人ノ此地ニ周歴スルモノアレ其地勢及ヒ
景況ハ未タ詳悉セシモノアラス土人ハ總テ愚直ニシテ小兒ノ如ク愛スベキ
ナリ爭鬪スルコトヲ好マス長老ナリトテ別ニ尊敬スルコトナク小弱ナリトテ更
ニ侮辱スルコトナシ又氣候ハ寒烈ナルカ故ニ五六月頃ニ至リ櫻花始テ開ク
ト云フ又外國人ノ此島ヲ周歴シ其形況ヲ記セシモノハ露人「クルセンスタ
ルン」氏ナリ同氏ハ該島ノ東部ヲ巡察セリ而シテ其航路誌第二卷ニ於テ此地
各部ノ特別ナル景況ヲ記載セリ即チ此土人ハ亞細亞東岸ナル「ジョッソ」ノ屬
島ノ土人ノ如ク亦「アイノ」人ト稱ス而シテ「エイリイクリール」人ト稱セシ者
「スバンベリ」ト「ト」同人種ナルコト明ラカナリト云ヘリ「アイノ」人ハ常人ヨリ身長

ケ甚ダ矮低ニシテ鬚毛ハ厚ク繁生シ暗黒ナル容貌ニシテ黒キ枝ノ頭髮直立
ス而シテ其頭髮ノ外ハ總テ堪察加人ニ似タリ婦人ハ醜惡ノ容貌ナレ其甚ダ
禮讓アリ土人ノ固有性質ハ善良ナリ其衣服ハ多ク海豹アザラシ及ヒ犬ノ皮ヲ用ユ就
中犬ノ皮ヲ用ルモノ最モ多シ蓋シ土人ハ此生活法ニ於テ最モ幸福ナル方法
ナリトシテ安ンスルモノ、如シ人口ハ「アイノ」灣ニ於テハ只三百人ニ過キサ
ルヲ實見セリト云フ故ニ他處ニ於テモ甚タ僅數タルヘシ食物ハ多ク魚類ヲ
用フルカ故ニ島内ノ陸方ニハ住居セサルモノト思惟セリ而シテ「クルセン」
タルン氏ハ此等ノ昔時ノ話即チ人種等ノ話ヲ確信セサリシト云フ
樺太島ノ南端及ヒ北端ハ一灣其端界ヲナセリ荷蘭人ハ島ノ最南端ノ灣ヲ稱
シテ「アイノ」灣ト曰ヒ「クルセン」タルン氏ハ北灣ト稱セリ

荷哥德斯科海一般情勢

荷哥德斯科海ハ大陸其北西二面ヲ圍繞シ千島叢島遼瀋水路誌第一卷下北海
道遼瀋水路誌第一卷下北海道ノ記事ヲ參觀スベシ
其南東一而ヲ擁スルカ故ニ殆ント陸地ニ周匝セラル、カ如シ其形狀恰モ北

米黑孫灣ニ似タリ

荷哥德斯科ノ南西岸ハ曾テ露人「サアリイツチーフ」及ヒ「トマイン」ノ二氏之ヲ
 測量セリ然レモ其筆記及ヒ事實ノ傳フルモノナシ又「ジャンタルスキ」列島ノ某
 部及ヒ樺太島ハ露人「プロートン」及ヒ「クルセンスタルン」二氏ノ詳細ナル實記
 ヲ存セリ一千八百四十九年及ヒ五十一年ノ露國海圖ハ之ヲ補加スルコトニ由
 テ稍細密ナル部アリ然レモ未ダ充分ナルモノニアラスト云フ
 此廣漠タル海面ノ海流水深等ニ係ルノ記事ハ僅ニ一二ノ精確ナル者アルノ
 ミ然レモ海面中心ノ水深ハ二百尋以上ニ至ラス又陸岸附近五十里ノ處ハ大
 約五十尋以下ニシテ一般海面ノ淺水ナルコトハ白令海ニ似タルコトヲ知レリ海
 濱ハ數河ノ水源ヲ起ス所ノ諸山其接近ヲ圍繞ス而シテ此數河ハ其中ノ一河
 ヲ除クノ外總テ皆狀勢幅員等ニ就キ航通ニ要用ナラサルモノナリ但シ此數
 河中ノ其一ハ黑龍江洋名「アムール」ト稱スルモノニシテ此海ニ於テ大ナル澳ニ注ク
 所ノ一河ナリ此河口ノ灣ヲ「アムス灣」ト稱ス即テ其東面ハ樺太島ニ擁蔽セラ

ル、モノニシテ河口ハ此海ニ開向シテ注入セリ

海岸遠隔ノ廣濶水面ニ於テハ鯨獵ヲ以テ一大利源トナス即チ曾テ此海ニ無
 數ノ鯨ヲ見出セリ而後米國ノ勇悍ナル鯨獵者ハ此處ニ來リ大ナル利得ヲ占
 メタリ但シ鯨獵船ハ七月上旬ヨリ十月上旬迄此處ニ航海ス時トシテハ僅ニ
 ノスルモ而シテ十一月ヨリ四月迄ハ海濱ハ結氷ス然レトモ中央ハ終年開流セ
 リ又其海面ハ屢起ル所ノ霧或ハ暴風アルニ係ハララス概テ顯然タル危險無ク
 深水ナルヲ以テ航海ハ安全ナリトス
 是ヨリ先キ數年ノ間米國ノ鯨獵船隊盛ニ鯨獵ヲ營ミ大ニ露米會社ロシヤンペリカニヤニノ鯨獵特
 權ヲ妨ケタルヲ以テ遂ニ露國政府ヲシテ亞刺斯加地方ヲ米國ニ讓與ス可キ
 ノ思念ヲ起サシムルニ至レリ此讓與後露領東西伯利亞州ノ知事ハ荷哥德斯科
 科海ヲ封鎖ノ海ト認定スルヲ以テ鯨獵ノ爲メ此海ニ入ルモノハ毎年七、八、
 プルノ稅ヲ收ム可シト布告セリ從來此海ニ入りテ鯨獵ニ從事セシモノ二百
 艘ヨリ五百艘ノ多キニ至レリト云フ

荷哥德斯科ノ地方ハ露國ノ管轄ナルカ故ニ土人及ヒ露國ノ殖民散居セリ然レ其人口ハ未ダ詳ラカナラス氣候ハ冬月間甚タ寒シ住民ハ犬及ヒ馴鹿ヲ畜養ス土人及ヒ露國ノ殖民ハ毛皮及ヒ材木ヲ以テ商交ヲナス而シテ多クハ魚及ヒ獵捕セル產物ヲ以テ生活スト云フ

堪察加半島一般情勢

堪察加ハ一大半島ニシテ北緯六十二度ト五十一度トノ平行緯圈内ニアリ此半島ノ最初發見者ノ名譽ハ一商人ナル「フイーデル、アレキスイフ」氏ニ屬セリ乃チ此人ハ概子一千六百四十八年ニ此半島ヲ發見セシモノナリト云フ其後一千七百六年ニ至リ露人之ヲ征服セシニヨリ露領「アイクック」ノ支配ヲ受ケ毛類ヲ貢納セリ一千八百四十九年十二月露帝ノ詔ニ因テ新服ノ地始メテ整定セリ而シテ堪察加海岸ノ管轄地方及ヒ荷哥德斯科ノ北東部ナル「ギイヂンスク」地方ノ部ニ之ヲ界入セリ

此半島ノ自然ノ限界ハ其最北部ノ東隅ナル「イルピンスキ」ノ西方一灣ニ於テ

之ヲ劃セルモノナリ又民區ハ「ヲクオートル」河ヲ超ヘテ擴張セリ土人ニ二種アリ「カムチヤダールス」人及ヒ「カリヤクス」人ト曰フ此等ノ土地ハ「ヲウキンスコイ」岬ニ於テ疆界ヲナセリ「カムチヤダールス」人ハ身體ノ組立ヨリモ生活ノ法頗ル特異ニシテ稍、蒙古人ト同類ナルカ如シ

此半島ノ地理ハ僅カ一二ノ記スヘキモノアルノミ該東岸中ハ「クーク」氏及ヒ他ノ航海者ノ概略ヲ觀察セシ數件ノ他ハ「ペーリング」氏ノ記述セル一二ノ概況書ノミ久シク傳來セリ一千八百二十七年及ヒ八年ノ間ニ於テ海軍大佐「リエートク」ハ「セニアッエン」號ニ乘シ此地ノ海岸ヲ精密ニ測量スルカ爲ニ「セント、ペー」トルスボルフ「ヲ出發セリ然ルニ事故淹滯等アリテ爲ニ此企業ヲ擴張スルコト能ハサリシ故ニ「リニートク」ヲシテ此穿鑿ヲ適當ニ施シタリトナサシムルノ件ハ只一二ノ特別ナル形勢ニ過キス而シテ此官吏ノ事業筆記ハ一千八百三十五年及ヒ六年ノ間ニ之ヲ刊行セリ其後博士「アドルフヘルマン」氏ハ種々ノ要點ニ就キ此地ニ遠征ヲナシタリ而シテ此等ノ事業ニ由テ製セル海圖ハ

一千八百四十九年及五十年ニ於テ之ヲ刊行セリ
 堪察加ハ高凸ナル火山成ノ國ニシテ地球上ニ於テ最高ナル某山ハ其諸山脈
 上ニ卓立セリ此等ノ諸山ハ南々西ノ方向ニ於テ不整ニ相連ナリ殆ト全陸表
 面ノ三分ノ二ヲ蓋フ此諸山脈タル多クハ著シキ噴火山ニシテ其山勢ハ亞刺
 斯加及ヒ「アリウシヤン」列島ヲ通過シテ廣延スル所ノ大ナル火山連帶ヲ起ス
 モノトセリ而シテ千島日本中土朝鮮及ヒ臺灣ヲ經テ亞細亞叢島迄ヲ連續ス
 ルモノ、如シ其北方ニ向趨セル一大山脈ハ噴火山口ヲ有シ吐焰ヲナスモノニ
 シテ十三ノ頂巔ヲ有シ該陸南端ナル「レバトカ」岬ヲ成ス又他ノ一山ハ高ク孤
 立シ陸ノ中央ナル山脈ノ西方ニ廣延ス諸山中最モ壯觀ナルモノハ「アツサア
 チュン」コイ高サ八千三百四十尺「アウアチヤ」高サ八千七百六十尺及ヒ「クルチイブスコ」高サ一萬六千五百十二尺トス一千八百二十八年ニ於テ「アツサアチュン」スコイノ破裂セシ時ハ燒石及
 ヒ灰ヲ八十里ノ距離ニ迄テ飛散セシト云フ
 堪察加ニ於テハ大ナル河ヲ有セズ此半島ノ地形ハ恰モ河流ヲ閉ツルカ如シ

而シテ其中堪察加河ナルモノ最モ大ナリ其上流一百五十里ノ處迄一百噸ノ
 船隻ヲ入ル、ニ適當ナリトス
 氣候ノ特ニ寒烈ナルハ人ノ言ヒ傳フル所ナリト雖モ天然美麗ノ狀ヲ呈セル
 山間ノ某地ニ於テハ寒氣甚タシカラスト云ヘリ國ノ東西ニ於テハ氣候著シ
 ク異ナリト雖モ此言タル殆ント日本及ヒ此半島ノ氣候ヲ記スニ適セリトイ
 フヘシ但シ日本ニ於テハ亞細亞大陸ノ氷及ヒ雪ヲ吹過シテ來レル西風ニ因
 テ大ニ氣候ノ差異ヲ生スルナリ
 農業ヲ營ムモノ僅數ナレモ此孱弱ナル殖民ハ僅ニ乏缺スルヲ知ルノミ而
 シテ熊、大野猫、水獺、馴鹿、狐等ノ物産ハ甚タ多シ此等ノ皮ハ重要ノ輸物タリ
 然レモ此地ニ到ル一二ノ船舶ニ供スルノミ
 朝鮮西岸及南岸之風信天候
 風信及天候
 朝鮮西岸及ヒ黃海ハ天候屢變シ四季偏盛風アリ概子左ノ如シ

一月ヨリ三月ニ至ルマテ北西風偏盛ス就中一月ハ屢北及ヒ北西ヨリ暴颯連吹ス黃海ノ西岸ニ於テハ風ノ方向ハ其海岸ノ曲折ニ從フ但シ北及ヒ北東風多シ

四月ヨリ六月ニ至ルマテ北東及ヒ偏東風偏盛ス此風北方ニ變スルハ風勢柔ラキテ細雨ニ伴フ又時トシテハ北東風勁吹スルコアリ但シ陸地ニ於テハ風向一ナラズ然レモ南西風ハ天氣ヲシテ晴朗ナラシメ南風ハ霧ヲ帶ヒテ來ル七月ヨリ九月ニ至ルマテハ風向一ナラズ而シテ偏南東風多シ此風起レバ好天氣トナル又時トシテハ俄然トシテ勁颯及ヒ雷雨ニ値フ就中八月下旬ト九月ヲ甚タ不定ノ氣候トス蓋シ支那海信風ノ變吹ハ此時ニアリ故ニ偏北風多クシテ動モスレハ雷雨ヲ起スノ患アリ

八月ヨリ十月ニ至ルマテハ山東高角ノ近傍ニ於テ大概北方ヨリ吹來スル所ノ烈颯起リ永ク地平線ヲ隱蔽スルコアリ

十月ヨリ十二月ニ至ルマテ北西及ヒ北風偏盛ス支那海岸ニ於テハ北々東風偏盛スハ且ツ十二

月ハ北及ヒ北西ヨリ來ル所ノ強颯ニ値フコ屢ナリ

朝鮮海峽之風信及天候

朝鮮海峽及ヒ朝鮮南岸ハ一月ヨリ三月ニ至ルマテ偏北風及ヒ偏北東風偏盛ス又時トシテハ偏北西風アリ而シテ此等ノ風通例暴吹シ且ツ北及ヒ北西ノ颯風屢起ル而シテ一月ニ於テハ之ニ伴フニ雪及ヒ寒ヲ以テス

四月ヨリ六月ニ至ルマテハ偏北偏北東及ヒ偏東風偏盛シ且ツ其北方ヨリ來ル時ハ或ハ風力増加シテ颯風トナリ又或ハ偏西風ヲ生スルコアリテ其風力通例緩ナリ五月中旬ヨリ六月下旬迄ハ晴天一日雨天二日ノ比例ナリ

朝鮮海峽及ヒ南岸ニ於テハ七月ヨリ九月ニ至ル迄偏北西風偏盛ス然レモ風力輕ク方向一ナラズ海岸ニ近キ處ハ屢無風ニ値フ雷雨屢起リ且ツ甚タ烈シ

十月ヨリ十二月ニ至ルマテハ北及ヒ偏北西風偏盛シ其風力通例勁烈ナリ又十一月及ヒ十二月ハ此方向ヨリ颯風起リテ雪及ヒ寒ヲ來タス

八月中旬ヨリ十一月中旬ニ至ルマテハ天氣最モ晴朗ノ候トス

霧

六月ハ霧屢起ル

日本海及朝鮮東岸之風信天候及海流

風信及天候

日本海ノ天候氣象ニ就テ測驗ヲ經ルコト今ニ於テ甚タ渺ナシ朝鮮海岸ハ特ニ然リ

露國人嘗テ黑龍江ヨリ豆滿江ニ至ルマテノ海岸ヲ測量セリ然レモ日本海
域内ノ偏盛風其他天候ニ就テハ未タ詳悉スルモノアラズ惟フニ風向甚タ
一ナラザルモノ、如シ然レモ實測ノ不足ナルノミナラズ彼此符合セザル
モノアリ因テ唯、四季ノ偏盛風其他天候ノ大略ヲ左ニ記スルノミ

露國海軍大佐「クルセンスタルン」氏ノ說ニ據レバ朝鮮東岸ニ於テハ一年ノ内
十ヶ月ハ北及ヒ北東風アリ偶、此時ニ方リ南風ニ變スルコトアルモ只暫時ノ間
ノミニシテ蓋シ之アルコト稀ナリ此說殆ント正シキモノ、如シ何トナレハ此

海岸ニ方テハ其方向ニ從テ一年過半ハ北西北及ヒ北東風偏盛シ且ツ北東ヨ
リ朝鮮海峽ヲ吹クコト疑ヒナキカ故ナリ

一月ヨリ三月ニ至ルマテ朝鮮海岸ニ於テハ偏北風盛ニシテ此風日本海ノ
中央ニ於テハ變シテ西風トナル黑龍沿岸州海岸ニ於テハ偏南風及ヒ南西風
多クシテ又日本海東岸ニ於テハ偏西風偏北西風或ハ無風ニ値フ

四月ヨリ六月ニ至ルマテ風向常ニ一ナラズ但シ北緯四十度ト四十五度トノ
間ニ於テハ偏南輕風ト穩天無風ニ會スルコト特ニ多シ日本海岸ニ於テハ風向
東方ニ變スレハ煙霧ヲ催ス時トシテハ此風勢ヲ増シテ暴風トナリ兼ヌルニ
北東ヨリ颯風ヲ來スコアリ然レモ天候ハ晴朗ナリ

七月ヨリ九月ニ至ルマテ朝鮮海岸ニ於テハ偏北風多ク其風力適宜ナリ而シ
テ九月ハ好天多シ日本海ノ北部ニ於テハ八月ニ至ルマテ常ニ雨或ハ霧アリ
且ツ霧ハ夏季ノ進ムニ隨テ益、稠密ト成ル然レモ南西風起レハ通例消散ス
霧

四月ヨリ六月ニ至ルノ間ハ全日本海特ニ朝鮮北岸及ヒ韃靼海岸ニ於テ煙霧起ル就中六月ヲ以テ最モ甚シトス此煙霧ハ通例甚タ寒冷ナル北東疾風或ハ偏南西ノ輕風ヲ伴フ而シテ此偏南西ノ輕風ハ特ニ朝鮮東岸ノ北部ニ於テ密霧ヲ起スヲ屢ナリ然レモ霧ハ南西ヨリ來ル疾風ノ爲ニ消散スルヲ通例ナリトス

雪

浦潮斯德ニ於テハ其日本海ヲ隔テタル對岸ニ於ケルヨリモ同季節中ノ降雪較少ナクシテ該地温度ノ我カ新潟港ヨリモ低キニ係ハラス其平均降雪日數ハ恰モ十五乃至二十ト三十二トノ比例ヲ爲セリ

驗風

晝夜平分時ニ及ンテ驗風暴發ス此風ハ大風ヲ兼ヌルニ非レバ通例日本海岸ニ於テハ南東ニ始マリ南方及ヒ西方ニ變轉ス大風ノ中心ハ通例日本以南ヲ經過ス是時ニ風向南ヨリ南東或ハ東ト北トニ變轉ス而シテ通例北西ヨリ來ル

ヲナシ此北風ハ通例甚タ烈シク且少ナクモ三日間連吹ス然レモ甚タ稀ナリ十月ヨリ十二月ニ至ルマテ北西風偏盛シ又時トシテハ強驗ニ値フ而シテ通例南ニ始マリ西ニ變シ北西ニ至テ止ム此風猛ナリト雖モ只短時間ナリ此數月ノ間天候通例晴朗ナリト雖モ偏東風ハ雨及ヒ雪ヲ帶ヒテ來ル十月ハ時トシテ七月ト九月ノ間ニ起ルカ如キ驗風暴吹ス蓋シ大風ノ外然レモ是レ亦甚タ稀ナリ

一千八百六十年露國人ノ黑龍沿岸州海岸ヲ測量スルヤ七八月ノ間天候晴朗ニシテ大抵偏南及ヒ偏東風ヲ生シ其勢力適宜ナリ南西風ハ稀ニシテ暴風霖雨モ亦少ナシ偶々之アルモ短時間ノミ温度ハ甚ク一定ニシテ極度ト雖モ通例華氏寒暑針ノ八十六度ニ過キス九月中旬ニ於テハ天候一ナラズセーント、ゲラジミル海北緯四十三度五十四分ニ於テハ華氏寒暑針低下シテ三十七度ニ至レリ九月初旬ヨリ北西及ヒ南西風ヲ吹キ且ツ烟霧多シ一千八百六十二年露國海軍雜報ニ據ル北東風或ハ東風或ハ南東風ハ通例霜霧ヲ帶ヒテ來リ又北西風或ハ西風或ハ

南西風ハ毎ニ好天氣ノ前兆ヲナス
海流

日本海流ノ餘派朝鮮海峡ヲ經テ日本海ニ入り北東ノ方位ニ流ル朝鮮海峡ニテハ其速力一時間ニ二里ヨリ二里半ニテ北三十八度ノ緯圈ニ至ル此ヨリ北方ハ一般ニ速力較緩ナリ

朝鮮東岸ノ陰晴風潮等周年ノ有様如何ヲ確實ニ今記ス能ハスト雖モ元此海ノ風ハ支那海ノ風ニ關シテ其變化ヲ生スルモノナルハ又疑フヘカラサルモノタリ就中北東ノ冷風南西ノ和風ハ常ニ雲ヲ起スモノニシテ其南西風ハ時トシテ濃霧ヲ起スコアリ此濃霧ハ此海ノ北部ノ一半ニ於テ最濃ナリ南西及ヒ北西ノ風ハ之ヲ和日ノ徵候ト云フテ可ナルモノアリ○此調査中潮流ハ常ニ等シカラザルヲ認メタリ但シ其潮勢ハ通常強カラス唯岬ナトノ邊ニ於テ少シク強キヲ見ル一千八百五十五年露國海軍日誌ヨリ抄出ス(水路雜誌第八號)

黑龍沿岸州海岸之氣候風信及海流

氣候

日本海北部ノ氣候ハ冬時甚タ寒ク一月二月ノ頃ハ最モ嚴寒ナリ北緯四十七度ノ地ニ於テハ此兩月中寒暑針氷點以下十七度ニ至レリカストリス海内ニ於テ四月及ヒ五月中ハ寒暑針三十度及ヒ五十度ノ間ヲ昇降シ六月及ヒ七月中ハ四十五度ヨリ六十度ニ至リ十月下旬ニ及ンテハ氷點ノ上ニ昇ルヲ稀レニシテ時トシテハ氷點ノ下十八度ニ降ルヲアリ一千八百五十三年五月ヨリ七月ニ至ル迄風雨針ハ二十九寸六五ト三十寸二八トノ間ヲ昇降セリ但シ南東強颯ニ會ヒシトハ降下シテ二十九寸ニ至レリ又冬期中ハ寒暑針常ニ昇騰シ時アリテハ三十寸五六ノ高度ニ達スルヲアリ

風候

一月ヨリ三月迄ハ偏北風多シ通例此風ハ變シテ北東ヨリ北西ニ至ル又屢颯風及ヒ暴雪風アリ三月ニ於テハ風向東方ニ變シ四月ヨリ八月マテハ南方及ヒ東方ノ風アリ而シテ四月及ヒ七月間ノ偏西風ハ南風及ヒ南東風ニシテ屢

東北東ニ變轉スルコアリ但シ此偏東風ノ後ハ濃霧ヲ催フス南々西風ハ時々前ノ風ノ休歇スル間ニ吹キ其勢力適宜ニシテ且ツ此風アレハ天候晴朗トナル時トシテハ一陣ノ南東風強吹スルコアリ又五月中偏南東ノ烈颯及ヒ暴雪風ノ偶然ニ起ルコアリ此等ノ風ハ曾テ十時或ハ十二時間連吹セシコアリシト云フ但シ此風ヲ催フスキハ必ラス前ニ張帆風東反ヒ南東ヨリ來リ或ハ風雨針忽然トシテ降下ス此暴風中ノ風ハ乍チ起リ乍チ息ム而シテ其風向ハ南南西西若シクハ北西ニ變ス蓋シ該時期中ノ北西風ハ其吹時甚タ短シ九月中ハ風向變シ易ク偏北東ノ諸風盛シナリ而シテ八月中旬後ハ天氣晴爽ニシテ風向ハ通例北西西及ヒ南西ニ轉ス而シテ三月以後殆ント絶ユルコ無キ霧モ此時ニ至テ悉ク消散ス晝夜平分時ノ頃ハ天候不定ニシテ屢々颯風起ル又十月ニ於テハ偏西ノ風盛ナリ此風ハ始メ南西ヨリ吹來スルモ忽チ正西ニ轉シ終ニ北西ニ變シテ止ム但シ此方向ヨリ吹ク所ノ風ハ通例強力ニシテ屢々二日乃至四日間連吹スルコアリ

一千八百六十六年九月カストロリス灣内ニ於テ強颯ノ旅吹セシコアリ蓋シ此颯ハ猛烈ナル大風ノ外界ナルヘシ此大風ハ其威力西ハ遠ク上海ニ達シ且ツ支那海北部ハ最モ烈シク暴吹シ長崎横濱及ヒ函館ニ大害ヲナセリ震瀛水路誌卷之一上第一編中大風ノ部ヲ參觀スベシ然レモ其風威ハ韃靼海灣ニ至ル迄ハ遠ク北ニ及ハザリト云フ

十月ヨリ十二月迄ハ北風及ヒ北西風偏盛ス又時トシテハ北東風起リ又兼ヌルニ暴雪風ヲ以テスルコアリ然リト雖モ冬期中風ノ方向ハ重モニ西北西及ヒ北西ナリ

春夏ノ二期中黑龍江ニ於テハ南東及ヒ東ノ風偏盛シ屢々霧及ヒ雨ヲ伴フコアリ又無風ハ稀ニシテ夏期中偏西風發ルルハ天氣快晴トナリ秋期中ノ風ハ西及ヒ北西ヨリ吹キ其力概シテ強烈ナリ

黑龍江畔ノ尼固賴斯克ニ於テハ霧及ヒ雨ヲ伴フ所ノ東方及ヒ南方ノ諸風偏盛ス又秋月中ハ北及ヒ北西ノ諸風アリ冬月中ノ風向ハ大概正西ナリ然リ

ト雖モ冬期中時アリテハ北西ノ諸風吹續キ大雪ヲ伴フコアリ
霧

韃靼海灣内ニ於テハ四月ヨリ七月ニ至ル間唯數日ノ快晴アルモ常ニ密霧多ク就中六月ヲ以テ最モ甚シトス而シテ不規則ニモ二十年來ノ驗測ニ依テ之ヲ見ルニ此等ノ數月間ハ南南東ヨリ東ニ至ル間ノ諸風ト共ニ霧起リ南ヨリ南々西ニ至ル間ノ諸風ヲ以テ淡霧ヲ催シ南西西及ヒ北西ノ諸風ニ依テ晴天トナル而シテ北東ノ諸風ハ雨ヲ來ス

該地ノ諸内灣ニ於テハ霧ノ起ルヲ稀ナリ而シテ八月中旬後秋期中ハ天氣定マリ快晴トナル

暴雪風

暴雪風ハ十月ニ始マリテ冬期中時々連吹シ其遲キハ翌年ノ五月ニ及フコアリ

結氷

黑龍江内ノ結氷ハ大概十月中旬ニ於テ始マリ忽チ南方ニ廣カル翌年五月ニ至ルマテ解セテ以テ通例風帆船ノ該灣内ニ泊スベキ時期ハ此時ニ於テ終ルモノト思考セザル可カラズ

海流

日本海流即チ黒潮ノ支流ハ高水陸路卷之一上第一朝鮮海峡ヨリ日本海ニ流入シ而シテ北東方ニ流ル此海峡ヨリ北緯三十八度ニ至ル迄ハ其速力毎時二里乃至二里半ナルヲ認知セリ北緯三十八度ニ至ル迄ハ其速力稍緩ニシテ津輕海峡ニ近ツク迄ハ漸次ニ減少ス已ニ津輕海峡ニ近ツケハ海流兩派ニ分レ一ハ勢力増加シ津輕海峡ニ向テ東流シ且ツ海峡ヲ流通スルノ際ハ其速力益々大ナリ同上津輕海峡海流又一ハ速力大ニ緩カニシテ北海道ノ西岸ニ沿ヒ尙ホ依然トシテ北東方ニ流レ宗谷海峡洋名拉伯ヨリ太平洋ニ流入ス同上宗谷海峡海流ノ部ヲ但シ此海流ハ其方向及ヒ速力ヲ變スルヲ甚タシク且ツ大ニ偏盛風ニ感スル者ノ如シ乃チ支那海ニ於テ吹ク所ノ南西信風時ニ當リテハ其速

力最モ大ナリ又四月並十月即チ此信風ノ變換スル時ハ其速力弱クシテ且ツ變シ易ク日本海ノ偏北及ヒ偏西風時及ヒ支那海ノ北東信風時ニ於テハ南方ニ流ル

然リト雖モ朝鮮及ヒ韃靼ノ沿岸ニ於テハ海流ノ方向一ナラズ偏ニ風ノ方向ニ隨フモノ、如ク其速力モ亦タ風ノ速力ト共ニ増減ス

韃靼海灣内宗谷海峡以北ノ海流ハ潮流ニ從フヲ以テ海流ヲ生スルヲ稀ナリ黑龍江ヨリ此海灣ニ流入スル所ノ海流ハ海灣ノ中央ニ於テ南流トナル然レモ北緯五十度ノ以南ニ至レハ其餘勢アルヲ稀ナリ此海流タル偏北強風ノ起ルモハ實ニ雄壯ニシテ南風起ルニ及ンテハ其勢力微小ナリ

荷哥德斯科海之風信氣候及海流

風信及氣候

此海ノ北濱及ヒ西濱ニ於テハ六月ヨリ八月ニ至ルマテ勢力適宜ナル偏盛風アリテ南方及ヒ東方ヨリ來リ霧或ハ雨ヲ伴ナフ但シ此風他ノ方向ヨリ吹ク

ヲ稀ナリ九月中ハ終日南風吹キ日没ニ至テ西若シクハ北西ニ變シ夜ニ入り尙ホ此方向ニ止テ勁吹ス午前凡十時頃ニ至リ南方ニ變シ其風力軟輕ナリトス九月上旬若シクハ中旬ニ於テハ偏南颯ニ値フコアリト云フ然レモ八月ニ比スレハ好天ナリ

十月中旬ヨリ十二月ニ至ル迄ハ東風及ヒ南東風吹クノ時ニ天候險惡ニシテ必ラス颯風起ル若シ北風及ヒ東西風吹ク時ハ後チ好天トナル

十二月ヨリ四月ニ至ル迄ハ天候晴朗ニシテ強風北或ハ北東ノ間ヨリ來リ若シ東風ニ變スルモハ雪ヲ降ス

四月五月中晝ハ南風ニシテ夜ハ北風輕吹ス

霧
荷哥德斯科海内霧ハ殆ント絶ルノ時ナシ南東風若シクハ偏東風起レハ最モ濃密ナリ但シ向海風アルモハ即チ消散ス

堪察加ノ南西海岸ニ於テハ九月ヨリ五月ニ至ル迄偏西風多シ又偏東輕風ハ

北東ト南東トノ間ニ變轉ス又夏季ハ無風多シ冬季ハ數月間偏西風常ニ暴吹ス夏季ニ偏西風アレハ冬ニ至リテ通例好天多シトス又偏東風ハ雪及ヒ雨ヲ帶ヒテ來ル

千島列島附近ノ地ニ於テハ夏數月間ハ風向一ナラス故ニ其偏盛風モ方向ヲ定ムルコト甚タ難シ而シテ南々東ト南々西間ノ風起レハ通例靄霧天ヲ蔽フ然レトモ濕氣ヲ含ムコト少ナキヲ以テ仰ヒテ日光ヲ望ミ得ヘシ東風及ヒ北東風ハ雨ヲ來タシ且ツ天候險惡ナリ北北東ト北北西間ノ風起レハ天候晴朗ニシテ寒氣甚タシ北々西ヨリ西南西ニ至ルノ風モ亦タ寒冷ニシテ空氣濕ヲ帶ヒス而シテ靄霧アリ南々西ト西南西間ノ風起レハ天氣晴朗ニシテ烟霧ヲ生セス

海流

荷哥德斯科海ニ於テハ海流ノ方向未タ確實ナラス但シ其勢力ハ陸ニ近ツクニ隨テ増加スルモノ、如シ樺太島北東岸ノ岬「エリザベス」岬ト黑龍江海灣ト

ノ近傍ハ狂浪激潮最モ烈シク往々行船ヲシテ進退維谷（記）マルノ境ニ陥ラシム意フニ此狂浪激潮ハ上層ノ海流ニ由テ生スルモノニシテ其原因タル黑龍江ヨリ流出スル所ノ水勢直チニ樺太島附近ノ碍物ニ衝突シテ曲折シ此海灣ニ沿フテ海中ニ流出シ而シテ此島ノ北端ヲ廻リ海岸ニ近ツキテ流レ且ツ偏南東若シクハ偏東風起レハ「エリザベス」岬附近ノ海濱三四里以内ニ於テ危險ナル駛潮ヲ生スルヲ殊ニ甚タシキニ至ルナラン

此海流ハ樺太島ノ東岸ニ沿ヒ南方ニ強流シ之カ爲メニ距岸若干里ノ間タ海水色ヲ變ス而シテ「シレトコ」岬附近即テ宗谷海峽（洋名）ヨリ東向海流ニ合シテ千島列島ノ諸島間ノ水門ヨリ南東ニ流通シ竟ニ太平洋ニ入ル此海流ハ國後ト北海道ノ間ナル北海道海峽ヨリ南ニ流ル、其ハ其速力甚タ強シ

結氷

十一月ヨリ四月ニ至ルノ間荷哥德斯科海灣ノ岸ヲ距ルヲ頗ル遠キノ處ニ至ルマテ氷結海面ヲ蓋フ然レ其本口ハ終年結氷スルヲナシ而シテ「シヤンタ

ルスキ近傍ニ於テハ「アイアン」嶼ニ於ケルヨリモ其溶解期節較短カク七月ニ於テモ尙ホ距岸數里以内ニ船ヲ近ツクルコトヲ得ズ

堪察加南東岸之氣候風信及海流

氣候及風信

「ベトロパウログスク」港ノ地タル十月十五日前ハ通例天候晴朗ナレトモ此期ヲ越レハ陰濕ノ天氣トナリ積雪地ヲ埋メ五六月ニ至ル迄融消スルコトナシ十一月十二月及ヒ一月ニ於テハ猛烈風アリ好天ノ時朝ハ風北ヨリ北々西ニ變シ午前九時乃至十一時迄連吹ス是レヨリ西及ヒ南ニ遞次ニ變シ午後一時或ハ二時ニ至テ靜穩トナル又海上ヨリ來ル軟風ハ南ヨリ變シテ東トナル

結氷

冬月間ハ寒氣酷烈積雪常ニ家屋ノ高サニ等シ然レモ通例結氷ハ海濱ヨリ一鏈以内ニ在テ錨地ノ如キハ全ク凍ルコト稀レナリ但シ海上ヨリ來ル所ノ風ト西風及ヒ北風トニ由テ險惡ノ天氣トナル時ハ氷塊岸ヲ離レテ此錨地ニ流入

ス冬時ハ一般ニ海門灣河等ヲ閉塞スル所ノ氷極メテ厚カラサルヲ以テ直チニ之ヲ破碎シ航路ヲ開クヲ得ベシ

海流

亞細亞諸海ノ冷水ハ堪察加ノ南東岸ニ沿ヒ又千島列島及ヒ北海道ノ東岸ニ沿ヒ南方ニ流レ黒潮ト共ニ此諸島ノ間ニ寒帶潮流ヲナスモノナリ

上第一編 堪察加海流ノ部ヲ參觀スヘシ

第一編 海流ノ部

第二編

朝鮮西岸及朝鮮叢島鴨綠江ヨリ全羅道ノ南西海角ニ

磁針差 明治十七年洋紀八千八百八十四年 四度廿分西 其差每年一分小青島近傍

同 明治十四年洋紀八千八百一十一年 三度卅五分西 其差每年一分漢江口

朝鮮西岸海軍海圖第二十六號及ヒ英國海軍海圖第二百五十八號ヲ參照

朝鮮西岸ハ平安道ノ鴨綠江ヨリ以南ノ沿岸ヲ稱スルモノニシテ平安、黄海、京畿、忠清ノ四道及ヒ全羅一道ノ西岸ヲ抱括ス其間々海岸西ニ面スト雖モ或ハ凸出シ或ハ凹入シ地勢一ナラス平安道ノ沿岸ハ鴨綠江ト大同江トノ間タニ凹灣ヲナシ黄海道ハ最モ突出シテ鴨綠江口ト相對ス而シテ黄海道ヨリ京畿、忠清、全羅ノ三道ニ至ル迄ハ沿岸概ネ一樣ニシテ西方ニ面ス全岸大同江口、大東、河口、漢江、淺水灣等ノ諸港灣アリ蓋シ朝鮮國ノ沿海ニ於テ船舶港泊ノ

要處多キコ西岸ニ如クモノナキナリ

鴨綠江

朝鮮國ノ北西ハ鴨綠江ヲ以テ清國ト境界ヲナス而シテ此江ハ長白山ヨリ南西ノ間ヲ曲折流行シテ黃海ニ入ルノ一大河ナリ其江口ハ大約北緯三十九度五十分東經一百廿四度十分ニ位ス江頭ニ義州ノ首邑アリ北境ノ要路トス江ノ上浜ヨリ二大湖水南西ニ向流シテ此處ニ至リ別レテ三又トナル水潦漲キル毎ニ混シテ一江トナリ海ニ入ル其水中ニ一島アリ威化島ト曰フ鴨綠江ヨリハ海岸東方ニ向ヒ大同江口ト相對シテ一大灣ヲナス此近海ニ於テ數多ノ島嶼連接スルアリト雖モ未ダ盡ク點檢スルヲ得ス又一淺灘アリ此等ノ島嶼ヨリ海中ニ蔓延スルコ數里而シテ沙堆岩堆水面ニ突出ス故ニ此地ヲ航スルノ船舶ハ深ク注意セサルベカラズ

パイラデス淺灘

此淺灘ハ北緯三十八度五十五分東經一百二十四度三十九分ニアリ此處ヨリ

南東ニ距ルコ約十二里ニシテ一群島アリ其島皆高シ此淺灘ハ此群島ト相連絡スルモノナリ

大同江口 洋名[ピンヤン]水門○海軍海圖第一千二百五十七號ヲ參照スベシ

大同江ハ黃海平安兩道ノ西岸ニ界スル一大江ニシテ其北岸約北緯三十八度五十分東經一百二十五度一分ノ處即チ平安道三和府管下ノ貴林串ト之レニ相對セル姉妹島此島ハ[ドウチ]島ニトノ間ヲ以テ江口トナス此處ヨリ曲折シテ東方ニ向ヒ船路凡ツ三十里ノ上流ニ至リ江身分レテ二支トナル一ヲ平壤川ト曰ヒ一ヲ濟堂江ト曰フ此江ハ最も狭キ所ニ至ルモ其幅尙ホ一里乃至八鏈ニ下ラズ江内ニ入ルニ及デハ水而怡モ黃金ノ如ク實ニ黃海道ノ名ニ背カズト謂フベシ又潮退キ盡ルルハ其兩岸ニ紅色ヲ帶タル沙泥ヲ露ス該江ノ潮勢ハ干滿トモニ甚ダ急ナリト雖モ洞程線三節以上ヲ見ルコナシ漸ク浜リテ岩角ト平島トノ間ニ近ツケハ潮流左右ノ淺洲ニ激シテ自ツカラ界線ヲ現ハシ海客ノ警戒ニ便ナリ

南浦

南浦ハ大同江ノ北岸ニアリ平安道龍岡縣管下ノ地ニシテ山ヲ負ヒ水ニ面シ人家約二百戸人口凡ソ四百人此餘ハ商人舟子等ニテ不詳及ブト云フ平壤ノ南西四百五十里韓里ノ地ニ在ル一村ヲ落ニシテ其濱ヲ遠淺トス故ニ千潮ノ時ハ約二鏈半ノ間干涸トナル人氣温和ニシテ言語京城ニ似タリ專バラ農耕ヲ勉ムト雖モ米麥ニ乏シク只粟、蕎麥ヲ産ス其他雜穀多シ此村管テ里正村長ナク只年長ノ者ヲ崇敬スルノ慣習ナリト云フ

添傭品 楓井村ニ井泉ニアリ人口ニ比スレバ其水量不足ノ患ヒナカルベシ其他流水ヲ見ス土人ノ常食ハ米野菜魚肉ニシテ米ハ黃海道安岳ヨリ輸入シ野菜ハ大根、唐菜、唐辛ナリ魚ハ河水深ク流勢急ナルヲ以テ河流ニ漁スルコト稀ナリ多クハ湖水ニ入りテ漁シ之ヲ沿岸地方ニ輸送ス又當村ニハ菓實稀少ニシテ少シク桃、林檎等ヲ産シ鷄豚ノ如キ家畜モ亦甚ダ少ナシト云フ

梨花洞俗ニ梨洞ト稱ス

梨花洞ハ南浦ノ上流約六里ノ處ニ在リ龍岡縣下ノ一小河ニシテ農家二十戸アリ隣村ヲ新村ト曰フ三十年來新タニ一村ヲ落ヲナセシモノニシテ人家凡ソ十二戸アリ人氣ハ南浦ニ同シ此地ニ一井アリ其水極メテ清淨ニシテ且ツ甘味ヲ含ミ水量亦多シ滿潮時ニ當テハ之ヲ端艇ニ汲入スルコト容易ナリト雖モ千潮時ニ於テハ大約三町間ヲ相隔ツニ至ルト云フ此時ニ當テハ平泥現出スルコト二町餘又錨地ノ潮流ハ速率五里ナリト云フ

平壤川

此川ハ大同江ノ上流ニシテ源ヲ平安道東界ノ諸山ニ發シ南流シテ鐵島ノ北ニ至リ其本流ニ入ル而シテ鐵島ヨリ平壤ニ至ルマデハ河幅概テ二鏈半ニシテ水深一ナラズ鐵島對岸ノ少シク上流ニ位セル東津近傍ニ於テハ十尋及ビ十二尋ナルモ稍進メバ七八尋トナリ此ヨリハ漸ニ由テ淺ク五六尋ヨリ變シテ一二尋ニ至リ平壤近傍ニ至レバ四分尋ノ一トナリ底質ヲ紅色沙泥ノ合質トス平壤以上ハ河水ヲ以テ飲用ニ供スルヲ得而シテ韓舟ハ陽德或ハ孟山ニ

至ルマテ沂行シ得ベシト云フ蓋シ該川沿岸ハ濟堂江ニ比スレハ部落多ク土地膏腴ニシテ耕種半嶺ニ及ヒ寸地ヲ餘サズ其出ス所ノ者ハ重モニ五穀トス鐵島嶼

此嶼ハ黃海道ノ北陽黃州府有戸四千ヲ距ル三里ノ地ニアリテ北東ハ平壤川ニ臨ミ南東ハ濟堂江朝鮮八城誌ニ作ルニ瀨ス其位置ハ北緯三十八度三十九分二十秒東經一百二十五度三十六分八秒明治十七年孟春ニシテ南浦ヲ距ル凡ソ九里ノ地トス而シテ此嶼ハ山ヲ背ニシ水ニ面セル一高角ニシテ高サ三十尺ノ斷崖上ニ長サ一里ノ聖堞ヲ繞ラレ又砲門ヲ備ヘ一城砦ヲ成ス即チ黃海道兵馬節度使及ビ黃州牧使ノ居ル所トス城内人家凡ソ四千戸アリト云フ然レトモ城邊ニハ人家甚ダ稀少ニシテ只急報ニ使役スル者ノ家屋アルノミ此地ノ常備兵ハ我陸軍ノ一大隊程ニシテ豫備兵ヲ合算スレバ一萬餘アリト云フ氣候ハ南浦ニ同シク九月ヨリ三月迄陰曆寒氣強ク積雪ハ江岸ニ近キ處二尺乃至三尺ニ及ビ山地ニ至レバ尙ホ之ヨリ一層深ク河水ハ氷ヲ結ベ陰曆潮流干

滿ノ爲メ船路ヲ遮ギルニ至ラズ寒氣ハ元山津德源府ニ同シ該地ヨリ京城ニ至ル里數四百里韓里通路山岳皆峻峻ナリ然レ非非常ノ急報ハ三日ニシテ達スト云フ又平壤ニ至ル里程一百里ニシテ河流ニ沂ルニ七十五噸積ノ船ハ此地ヨリ五十里ノ處ニ至ルコトヲ得ルト云フ故ニ小蒸瀛船ハ能ク平壤ニ至ルコトヲ得ベシ

泊地 船舶ハ該島下ヨリ上流ニ向テ排列セバ即チ數隻ヲ碇泊シ得ベシ但シ濬通りハ避ケザル可カラズ此近傍潮退キ盡クル時ハ到ル處泥灘露出スト雖モ此灘ヲ徒涉スルコト十五六歩ニシテ上陸スルヲ得可ク又岩礁アル近傍ニ於テハ水中二三歩ヲ經テ岸ニ達シ得可シ

添備品 此地一小山ヲ越ヘテ平地ニ石疊井アリ其水質佳ナリト雖モ相距ル五六町餘ニシテ運送ニ不便ナリ又該地住民ノ常食ハ米ヲ用ユト雖モ米穀不足ニシテ常ニ食ヲ安岳其他黃海道ノ各地ニ仰ク魚ハ湖水ヨリ漁シ來ルモノニシテ漁舟ニ就テ購求シ得ベシ野菜ハ菜ト大根ノ外他物ヲ種エルヲ好マズ

綿ハ黃海道并ヒニ平安道及ビ此地方ノ産物ナリト云フ

濟堂江一作ハ江

此江ハ大同江ノ支流ニシテ鐵島鎮ヨリ先ツ一里半ノ間ハ南東ニ向フ此處濶サ一千二百碼測ニシテ水深四尋ナリ又此ヨリ旋行スルコト一里半ニシテ江流ニ支トナル西支稍狹ク濶サ大約五百碼東支殆ト之ニ倍シ先ツ南微東ニ向ヒ水深二尋乃至二尋半アリ大約四里ニシテ兩岸ニ草舎アリ各二十戸許江ヲ挾ンテ相對ス之ヲ鳳山郡石海浦トス石海浦ヨリ南東微東一里半ニシテ右岸ニ小溪口アリ溪口ノ北又民舎アリ大約五十戸トス此ヨリ江ハ折レテ南西ニ向ヒ又轉シテ南東微東ニ向フ其距離各一里半濶サ減シテ二百碼ヨリ三百五十碼ニ至ル而シテ石海浦ヨリ里程大約四里ノ處兩岸民舎アリ各十戸ニ過ギス此邊江水ハ鹽分ヲ包含スルコト甚タ少ナシ此ヨリ上流四里ニ至ルマデハ一段ノ直路ニシテ大約南ニ向ヒ濶サ三百碼深サ二尋ヨリ二尋半ニ至ル該直路ノ上端右岸ニ一小溪口アリ此ヨリ以上江勢偏北ニ却趨シ再ビ偏南ニ向テ迂回

ス即チ該直路ヲ過クレハ折レテ西微南ニ向ヒ七鏈ニシテ北々西二分一西ニ轉シ一里ニシテ又西微北二分一北ニ趨リ八鏈ニシテ左岸ニ民舎二戸アリ雙洞浦ト曰フ大約水深一尋半ヨリ二尋ニ至リ濶サ二百碼ヨリ二百五十碼ニ至ル而シテ左岸ニ石堤アリ蓋シ堤以内ニ村落アルモノ、如シ該浦ヨリ南西微西五鏈ノ處ニ至テ左岸ノ石堤盡ク此ヨリ以上ハ江ノ濶サ頗ニ減縮シテ一百碼ニ過ギス水深二尋ヨリ一尋半ニ至ル而シテ其形勢ハ石堤ノ上端ヨリ南々東二分一東ニ向趨ス五鏈ニシテ南折シ四鏈ニシテ左岸ニ二小山アリ山脚ノ江ニ瀕シテ民舎大約一百餘戸アリ載寧海茶浦ト曰フ其前面舟舶輻輳ス但シ該浦ニハ官吏ヲ置カズ而シテ載寧府ヲ距ル二十里二里ナリ我陸里但シ此ヨリ該府ニ至ルマデ舟路通セズ唯此ヨリ水程二十里同上ヲ溯行セバ載寧唐灘ニ達ス可シト云フ又該浦ハ長淵ヲ距ル一百二十里我陸里十三里信州ヲ距ル四十里我四里鳳山ヲ距ル五十里五里ニ黃州府ヲ距ル七十里七里安岳ヲ距ル四十里四里十ナリト海茶浦ヨリ江ハ大約東スルコト五鏈而シテ南西ニ迂廻スル

一里即チ一小溪口アリ此ヲ經過セハ又一段ノ直路ニ至ル直路ハ大約南東ノ方向ヲ取り長サ二里トス蓋シ海蒼浦ノ稍上流ニ於テハ滿潮ノ時江水鹽分ヲ包含セズト雖モ濁水ニシテ汚水ヲ混シ到底飲料ニ供シ難シ而シテ該直路ヲ經過スレバ江水又分レテ二支トナリ其南支較大ナリ然レトモ此ヨリハ流勢疾クシテ艇舟ヲ行ルニ困難ナリ

安岳

安岳ハ黃海道黃州府ノ西、鐵島ヲ距ル四里梨花洞ヲ距ル三里沿江一説ニ江岸ノ陸地ヲ隔繁華第一ノ地ナリ人家八百戶地勢平坦ニシテ田畑多ク諸穀物ニ富ミ近郷山間ノ各村ハ皆食ヲ此地ニ仰クト云フ

錨地

該江内最好ノ錨地ハステーション島ヲ北微西ニ又、コイス角ヲ西微北ニ望ムノ處即チ水深九尋海底泥質ノ處ニアリ但システーション島ハ北緯三十八度四十二分三十秒東經一百二十五度十分ニ位ス

潮信

大同江口ニ於テハ潮候時七時四十五分大潮漲二十一尺ニシテ小潮漲ハ十四尺ナリ

行船法程

大同江ニ入ラント欲スル船舶行キテ岩角ヲ過レハ航路益狹窄トナリ左舷ニ方テハ岩礁灘瀨多ク又、コイス角ニ接シテハ淺洲アリテ角ノ東端ニ擴延ス依テ、コイス角ヲ距ル七、ペド一島ヲ距ル三ノ比例ヲ以テ其間ヲ進航シ已ニ此處ヲ過クレハ右舷ノ方海岸ノ一寒村ニ併行シテ進ムベシ該處ニ至レバ漸ク恐懼ノ思ヒナキニ至ル此地ヨリ平壤河口マデハ江ノ中界ヲ航スルハ危険ナシ

海岸

大同江口ヨリ、ハムボック岬ニ至ル間ノ海岸ハ南西ニ伸延シ此岬附近ニドゥンエント名ツクル一島ヲ有ス此島ト陸岸ノ間ニ水道アリ其淵サ一里四分一水

深十尋又ハムボック角ヨリ「フエランス」角ニ至ル十七里間ノ海岸ハ南西方ニ綿延ス此二角ノ中間ニ許沙島アリ此島ト陸岸トノ間ニ深水ノ「フエビゲルス」水道アリ其潤サヲ四里トス

許沙島

此島ハ樹木繁生シ耕業モ亦開ケタリ島ノ南濱ニ一小曲灣アリ灣中又矮船港一及ヒ小村ニ有ス島ノ西角此島ノ近傍ニ小嶋アリヨリ南約一里ノ處ニ廣潤ナル淺沙堆アリ南西ニ斗出スルコト五六里ナリ然レモ未ダ其確潤ヲ得ズ

佛國軍艦「ゾールシニ」號ハ數回朝鮮近岸ニ進航シ其海邊北緯三十六度五十五分ノ處ヨリ三十七度三十分及ビ三十八度七分ノ處ニ至リ水深ヲ探測セシニ四十四尋ヨリ減シテ十四尋ニ至レルニ由リ近岸ニ進ムコトヲ得サリシカ一千八百五十六年八月三十一日終ニ許沙島ノ西傍北緯三十八度二十七分東經一百二十四度二十七分ノ處ニ達スルコトヲ得タリ

泊地

此淺沙堆ノ北端ト小嶋ノ間ニ在ル所ノ水道内水深八尋ヨリ十尋ニ至ルノ處ニ泊地ヲ求メ得ベシ北東ニハ許沙島アリ西ニハ淺沙堆アリテ以テ之ヲ保庇ス故ニ此處風潮ノ患ナシ此曲灣ノ沿濱ニ數村アリ皆好ク耕種セリ

潮信

一千八百五十六年九月三日及ヒ四日月晦ノ後三日及ヒ四日ニ當ル許沙島ノ南邊ノ灣内ニ於テハ高潮時八時四十分ニシテ潮漲ハ十尺ナリシ是ニ依テ之ヲ推算スルモハ其潮候時約六時二十分ニシテ大潮漲ハ十一尺乃至十二尺ナリ

海岸

「フエランス」角ヨリ大東河口ニ至ルノ海岸十七里間ハ南々西ニ伸ビテ「チワンシヤン」ナル高角ヲ成ス一千八百三十二年英艦「アムヘルスト」號此地ニ來リ「ダニール」島ノ名ヲ下シタレモ此地ハ朝鮮大陸ノ一部タルヤ明ヲカナリ然レモ此地尙ホ未ダ測量ヲ經ス陸地ニハ艸叢高林アリテ之ヲ蔽ヒ又海墻卑低ノ處ハ開墾耕種ノ地ニシテ數多ノ家畜及數村落アルヲ見ル

○第一〇〇二項

海軍海圖第一二八號第二一號實瀛水路誌第二卷第二版四八丁ニ關係ス

朝鮮西岸 黃海道

「ヘビジル」水道附近ニ於テ淺洲ノ發見

今般海門艦長海軍大佐尾本知道ノ報道ニ據レハ該艦ハ本年九月五日午後零時二五分朝鮮西岸「ヘビジル」水道ヲ拔錨シ仁川港ヘ航行中午後二時頃水深二尋二分一ノ淺洲ヲ發見セリ該淺洲ハ南北ニ長クシテ洲上水面少シク赤色ヲ呈ス是ヨリ方位ヲ取ル左ノ如シ

許沙島西端

北微東四分一東

全 東端

北微北二分一東

「ペランス」岩

東微北四分三北

又該淺洲ヨリ北山角ヲ南々西四分三西ニ望ミタリ但シ英海軍海圖第一二五六號ニ據レハ該角ハ南二分一東ニ方ルト云フ

方位ハ磁針ニ取ル其差四度四十分西

右告示ス

泊地

此淺沙堆ノ北端ト小嶼ノ間ニ在ル所ノ水道内水深八尋ヨリ十尋ニ至ルノ處ニ泊地ヲ求メ得ベシ北東ニハ許沙島アリ西ニハ淺沙堆アリテ以テ之ヲ保庇ス故ニ此處風潮ノ患ナシ此曲灣ノ沿濱ニ數村アリ皆好ク耕種セリ

潮信

一千八百五十六年九月三日及ヒ四日月晦ノ後三日及許沙島ノ南邊ノ灣内ニ於テハ高潮時八時四十分ニシテ潮漲ハ十尺ナリシ是ニ依テ之ヲ推算スルハ其潮候時約六時二十分ニシテ大潮漲ハ十一尺乃至十二尺ナリ

海岸

「フエランス」角ヨリ大東河口ニ至ルノ海岸十七里間ハ南々西ニ伸ビテ「チワシヤン」ナル高角ヲ成ス一千八百三十二年英艦「アムヘルスト」號此地ニ來リ「ダニール」島ノ名ヲ下シタレ此此地ハ朝鮮大陸ノ一部タルヤ明ラカナリ然レ此此地尙ホ未ダ測量ヲ經ス陸地ニハ艸叢高林アリテ之ヲ蔽ヒ又海墾卑低ノ處ハ開墾耕種ノ地ニシテ數多ノ家畜及數村落アルヲ見ル

大東河口 海軍海圖第一千二百五十七號及ヒ英海軍海

黃海道ノ西岸ニ突出シタル「チワンシヤン」高角ヨリ大東河ニ至ルノ海岸ハ東方ニ伸テ深入ノ曲灣ヲ成シ大東ノ河流此灣ニ注グ此河ノ上流ハ深水ナリト雖モ河口淺洲多クシテ大船ノ通行甚ダ不便ナリ然レモ吃水三尺ノ船ハ牧洞ヨリ四十里韓ニ泝ルコト得是ヨリ上流ハ滿潮ノ時ニ非ザレバ泝行スルコト能ハズト云フ而シテ該河口ノ陸地ハ岸ヲ距ル里許ニシテ山岳相連ナリ皆峻峻ナリト雖モ其岸邊ハ岩礁或ハ涉地ニシテ干潮ノ時ト雖モ端艇ヲ以テ此涉地ヨリ上陸セント欲セハ徒涉僅ニ五六歩ニシテ陸岸ニ達スベク又滿潮ニ當テハ隨意ニ艇舷ヲ寄セ得ベシ

該河口ノ北岸牧洞ニ隣リテ一灣アリ灣内ニ浦アリ一ヲ九美浦ト曰ヒ民舎三十戸アリ一ヲ古泳浦ト曰ヒ民舎四十戸アリ但シ該灣内ハ水深二尋ニシテ碇泊シ難ク又該河口ノ南岸ニ交井ト稱フル一村落アリ瓮津縣下ニ屬ス此地牛馬ハ勿論其他魚菜ノ如キモ甚ダ少ナシ按スルニ該河口タル登陸ノ便宜アリト雖モ驛路遠クシテ食品ヲ求ムルニ由シ無シ之ヲ要スルニ僻陬ニシテ無用ノ地ト云ハザル可カラス而シテ艦船碇泊ノ如キニ至テモ亦完全ト爲スヲ得ス唯北風ヲ避シニハ牧洞ヲ以テ良トシ南風ヲ避ケンニハ青石洞ヲ以テ宜シス土人ノ言ニ據レハ毎年一月二月九月十月ノ四ヶ月間西風最モ烈シク寒氣甚ダ強ク九月ヨリ三月マテハ堅氷結合シテ人馬氷上ヲ行クト云フ

牧洞

牧洞ハ大東河口ノ北岸ヲチユセツト灣内ニアリ此地ハ黃海道長淵郡管下ニシテ水ニ面シ山ヲ負フ人家僅ニ二十戸牛馬稀ニシテ小舟少ナク又畑多クシテ田地無シ故ニ野菜多シ且ツ寒中ニ至レハ海魚ノ漁獲多シト云フ人心風俗共ニ温和ナリ海上ヨリ此地ヲ望ムニ吾人ノ眼ニ觸ル、モノハ唯濱ノ汀沙磧然一白十里宛モ碎玉ノ如キモノアルノミ故ニ該地ニ來ル者ノ好目標ナリ且ツ清泉アリテ山ヨリ流出ス川流廣キハ一丈餘狹キハ六尺ナリ然レモ旱魃久シキニ涉レハ水源盡ク涸ル又一井アリ平地ヨリ低キコト三尺ニシテ水ニ達シ

水質最モ好良ニシテ何レモ飲用ニ適ス東方ノ岬ニ烽燧臺アリ又土人ニ長淵ニ至ル迄ノ里數ヲ問フニ六十里^{里韓}アリト云フ蓋シ牧洞ノ前面水深三尋半海底泥質ノ處ニ投錨スルヲ得ベシ

牛島^{洋名ニ}

此島ハ大東河口北岸ノ牧洞ト相對シ約一里ヲ隔テタル小島ニシテ即チ牧洞ノ外村ナリ人家凡ソ七八戸島内ニ畑アリ田地ナシ只蕎麥粟等ヲ作ルト云フ井泉二ヶ所アレモ皆^アンモニヤ^{多ク}シテ飲料ニ適セス山岡高キ處ニ一瓦屋アリ之ヲ土人ニ問フニ祭典ノ用ニ供スルモノナリト云フ

青石洞

牧洞ヲ距ル南方九里ノ處ニ一灣アリ灣内水深四尋ヨリ三尋半ニ至ルノ處ニ投錨スルヲ得ベシ此地ハ青石洞ト稱ヘ人家三十戸アリ

潮信

大東河口ノ北側ニ位セル牛島ニ於テハ潮候時六時三十分潮漲約十三尺ニシ

テ大概干潮ハ東方ニ流レ滿潮ハ西方ニ流ルト雖モ潮ノ勢力及ヒ方向ハ甚タ不定ナリ

行船法程

船行キテ大東河口ニ入ラント欲セハ白翎島^{一説ニ白翎島ト作ス}「サア、ゼー」ムス^{ホー}ル^ト群島^{北ニ位スルモノ}リノ北角ヨリ一里半以内ヲ經過シ是レヨリ「子」島^ト大地ノ間ニアル水道ノ中央ニ至ルマテハ針路ヲ北東微東ニ取テ進行スベシ此水道ヲ經過スルノ後ハ正ニ海圖ニ就テ航スルヲ得ベシ土人曰フ大東河内ニハ本土船及ヒ端艇ノ航スベキ水道アルノミト

「サア、ゼー」ムス、ホー」ル群島

此群島ハ三箇ノ島ヨリ成ルモノニシテ大東河口附近チワンシヤン^{高角ノ南}約十里ヲ距ルノ處ニアリ芝罘其他支那北部ヨリハ年々此地ニ數多ノ支那形船ヲ出シテ漁業ヲ營ム島内人口僅少ニシテ皆貧困ナリ

白翎島^{一説ニ白翎島ト作ス}「サア、ゼー」ムス、ホー」ル群島

此島ハ、サー、ゼー、ムス、ホール群島中ノ最大島ニシテ北方ニ位ス其高サ約六百尺東西長サ約六里幅四里ナリ島ノ北西角ハ峻峻直立シ其高サ約三百尺ニ達ス此岬端ヲ少シク離レテ高サ一百八十三尺ノ一岩アリ其形チ錐ノ如ク又指ノ如シ因テ之ヲ指岩ト名ツク

此島ノ北西側ニハ二三ノ散岩アリテ濱ヨリ擴布スル一鏈ニ及フト雖モ其西側ハ多崖ニシテ附近絶テ散岩無シ又其南岸及ヒ東岸ハ多沙ニシテ數多ノ灣澳及ヒ岩角ヲ成ス

明治十七年孟春艦ハ該島南岸ノ一灣内ニ入り水深六尋海底泥質ノ處ニ投錨セリ此時先ツ端艇ヲ卸シテ灣岸ヲ錘測セシニ岸附近ト雖モ水深二尋ヲ得タリ且ツ該岸ハ一帯ノ沙石ニシテ端艇ヲ寄スルニ宜シ此ニ一村ヲ落アリ長村ト曰ヒ民舎大約三十戸ヲ有ス

此島ノ後部ニアル數小山ハ皆頂巔平滑ニシテ其上ニ雜草繁茂セルヲ以テ南東方ヨリ近ツクハ容易ク之ヲ識別シ得ベシ

中央岩

此岩ハ白朗島ト大青島トノ中界ニアル顯著ノ一雙岩ニシテ高サ七十尺ナリ該岩ヨリ西微北ノ方二里半ノ間ニ水深不一ノ一堆擴延ス其他中央岩ト白朗島トノ間ニ數多ノ岩石散在ス又其南半里ヲ距ルノ處ニ低潮ニ蕩滌スル一岩アリ

大青島ダイキント稱ス

此島ハ白翎島ノ南四里ニ位ス其巔ハ高サ約一千百十九尺ニシテ顯著ナリ西方ヨリ之ヲ望ムルハ其形チ圓錐ノ如シ

此島ハ北東ヨリ南西ニ至ル長サ約三里幅二里ニシテ島岸ハ大概子石崖ナリト雖モ其北濱ノ處々ニ澗大ナル白沙地アリ

淺灘

大青島ヨリ偏北西ノ方約三里ニ一淺灘ノ擴延スルアリテ其處々ヲ水面上ニ露出ス

錨地

大青島ノ東側一小村落^{トハチンフオ}附近ニ礫濱ノ一灣アリ灣内底質泥及ヒ沙水深六尋乃至八尋ニシテ其東角ヲ北微東四分一東村落ノ中央ヲ南西微西四分三西ニ望ムノ處ニ錨地アリ此錨地ハ南南西ヨリ西ヲ經テ北微東ニ至ル間ノ風浪ヲ障護シ又小青島ニ依テ南方ヨリ來ル所ノ大浪ヲ遮隔ス故ニ之ヲ該島南灣内ノ錨地ヨリモ優レリトス

「バルレン」島

此島ハ高サ一百四十六尺ノ多岩島ニシテ大青島ノ南西角ヲ距ル西方約一里ニ在リ又此島ノ北四分里一ヲ距ルノ處ニ高サ二十四尺ノ一岩アリ

小青島^{シヨセンダウ}ト稱ス

此島ハ大青島ノ南東約二里ニアル一島ニシテ高サ五百七十五尺東北東ヨリ西南西ニ至ル長サ二里半幅半里アリ其南西角附近ノ岩脈ハ高サ九尺乃至十尺ニシテ約半里ノ間南微西ニ向テ擴延ス

此島ノ南東角ハ其前面ニ白色ノ石崖アルヲ以テ顯著ナリ此角ノ東南東大約四分里一ヲ距ルノ地ニ圓錐形ノ一尖岩アリ又島ノ北東端ヲ距ル三分里一ノ處ニ高サ六尺ノ一岩アリ

小青島ノ正東約二里ノ地ニ水面下三四尋ノ一淺灘アリ

錨地

小青島ノ南側ニ二村落ヲ有セル一灣アリ灣内水深六尋ノ處ニ於テ錨地ヲ得ベシ此灣ハ西南西ヨリ北ヲ經テ東微北ニ至ル間ノ風浪ヲ遮隔スト雖モ南方ハ全ク露開セリ

小青島ノ北西角ヲ距ル北微東一里ニ五尋小灘アリ此小灘ハ未ダ充分ノ驗測ヲ經ザルモノナルヲ以テ航者宜シク之ヲ避クベシ

潮信

此地近傍ニ於テハ潮流ノ方向一般ニ海岸ト平行シ滿潮流ハ北方ニ流レ干潮流ハ南方ニ流ル而シテ小青島ト大青島間ノ水道内ニ於テハ滿潮流北東ニ流

レ千潮流南西ニ流ル

大青島ト白翎島間ニ於テハ一時間約二里ノ速率ヲ以テ滿潮流ハ北西方ニ流レ千潮流ハ南東方ニ流ル而シテ此地ノ潮候時ヲ六時三十分調概トス

海岸

大東河ヨリ漢江口ノ延平島ニ至ル約四十五里間又夫ヨリ南東方鹽河口ノモウラク島ニ至ル約二十五里間ノ海岸ハ未ダ一八八〇年ニ於テ測量ヲ施サズ長山串

大東河口ノ南頃角タリ其附近ハ海汀皆沙ニシテ岸沙極メテ細ク金色アリ日ニ映シテ閃鑠スルヲ凡ソ數里常ニ風潮ニ隨テ遷徙シ浮動定マラス實ニ奇觀ナリト云フ

延平列島一ニチアトフト稱ス

此列島ハ二箇ノ島ト其間ニ散在セル數多ノ斷嶼及ヒ岩石ヨリ成ル其北島ハ較大ヒニシテ見ル所平坦ナルガ如シ又其南島ト曰フハ大約北緯三十七度

三十四分東經一百二十五度四十分ニ位シ圓錐形ノ頂巔ヲ有ス而シテ此等二島ノ間ハ深水ナルガ如シ○小延平島ノ南二里ヲ距ルノ處ニ一蕩岩アリト云フ

堆
一千八百八十二年英艦「ゲイシラント」號ハ漢江口ノ西約三十三里北緯三十七度二十分東經一百二十五度十五分調概ノ地ニ在ル一堆上ニ於テ錘測ヲ施セシヲアリ而シテ其報導ニ曰ク該堆ノ廣袤ハ二里乃至三里ニシテ堆上水深ハ七尋乃至九尋ナリト又該艦ノ此堆上ヲ經過セシハ殆ト其高潮時ニ際セルモノト假定スルモ其潮漲恐ラクハ十二尺ナリシヲ以テ該位置ノ最淺處ハ低潮ノ時尙ホ五尋ノ水深アルナルベシト英海軍大尉「リ」ノ報導ニ係ル

漢江海軍海圖第一〇二七號及英海軍海圖第一〇二七號此江ハ源ヲ江原道ノ諸山ニ發シ北西ニ向流シ漢城ノ南ヲ過キ江華島ニ至リ分レテ二派トナル一ハ江華島ノ北岸ヲ過キ黃海道ノ南岸ニ沿フテ海ニ入り一ハ江華島ノ東岸ト京畿道ノ西岸トノ間ヲ流ル即チ鹽河ト稱スルモノニシ

テ「マリフォルチユニ」叢島及ヒ皇子叢島ヲ經テ黃海ニ入ル江中又源ヲ黃海道ヨリ發スル所ノ長端河ヲ合ス總テ此江ハ潮ノ干満ニ由テ生スル所ノ流勢及ヒ深淺ハ甚タ整一ナラズ江中又危險多シ

一千八百八十四年朝鮮國稅關雇「カアテイシ」エフ、ヴエ、シユルツ」ハ漢江内行船ノ難易及ヒ一般情勢ニ關セル報道ヲナセリ即チ載セテ之ヲ左ニ掲ク

近時ニ至ルマテ航海者ハ朝鮮國河海ノ行船法程ヲ知ル者稀ナリシカ故ニ不幸ニモ其航海ノ危險ヲ談スルモノ當ヲ失シテ無根ノ風聞ヲ傳播シ遂ニ此國ノ貿易上ニ關シ大ヒナル障害ヲ與フルガ如キ報告ヲナスニ至レリ然レモ今ヤ其妄ヲ去リ正ニ就カンコ切ニ希望スル所ナリ何トナレハ此等ノ報告タル該國港口ニ通商スル船隻ノ保險上ニ有害ナル影響ヲ及ボシ爲メニ該河ヲ遡行セント企望スル所ノ艱難ハ其保險ヲ得ル能ハザルヲ恐ラクハ之アラシク或ハ言フ該地方ニ於ケル潮ノ漲落ハ船隻ノ航行ニ危險ナリト但シ其最大潮落ハ濟物浦ニ於テハ大潮ノ時廿九尺ト三十尺ノ間ヲ出テス漢江口狹窄部近傍

ニ於テハ約廿四尺小陵近傍ニ於テハ約七尺ニシテ其近地ノ小潮漲ハ大約之ニ半バズ然レモ斯ノ如キ大漲落アル地方ニ於テ爲メニ格別ノ困難ヲモ感ゼスシテ商業ノ中心トナリタル處世上又渺ナカラズ其二三ヲ舉クルニ「リヴァーブール」ニ於テハ漲落廿七尺「ミルフォード」島ニ於テハ三十六尺「プリストル」ニ於テハ四十尺「キンゲス、ロード」ニ於テハ四十六尺「ジョルジ」ニ於テハ三十六尺「モント、セーント、ミシューール」ニ於テハ五十四尺「ボントタルソン」ニ於テハ四十尺其他一層大ナル漲落アルノ地方ニ於テモ猶且ツ熱鬧ノ市場アルヲ記載シ得ベシ其市輿ニ於テハ漲落六十尺ヨリ七十尺ニ至リ且ツ朝鮮地方ノ河海ニ比スレバ潮流ノ速率較大ナリ故ニ朝鮮地方ト雖モ潮ノ漲落ノ爲メニ危險ヲ恐ル、ノ理無キハ他處ト異ナラス又保險會社ノ之ヲ畏懼スルハ其理由無キナリ又朝鮮ノ事情ニ通ゼサル者ハ該地方ノ多霧ナルヲ喋々論ズレモ今ヤ該地三ヶ處ノ條約港ニ於テ施セル一年間ノ洞候驗測ニ據レハ其支那及ヒ日本ヨリモ多カラザルヲ證明シ得可シ而シテ該地洞量ノ正鵠タル已ニ進ミテ洞候ノ

點ニ及ベル如ク其沿岸諸海圖ノ如キハ將サニ完全ヲ告ントス但シ是レ重モ
 ニ英國測量士官ノ絶ヘザル勉強ト熱心トニ職由スト謂ハザル可カラズ
 佛版水路誌中ニハ該地方ニ斯ノ如キ非常ナル潮ノ漲落アルハ其海岸ノ前面
 ニ於テ一大障礙ヲ成セル淺灘ニ原由ス云々ト論シ朝鮮西岸ニ於テ潮ノ漲落
 大ナルハ經驗ニ富マス且ツ怯心ナ列島ノ北ニ在ル數堆灘ニ原
 因スルモノト爲セリ然レモ若シ此自信記者ノ說ノ如ク漲落ノ非常ニ大ナル
 ハ諸堆灘ノ存在ニ因ルモノトセバ黃海ノ支那沿岸各處ニ於テモ亦之ト等シ
 キ潮ノ漲落ナカラザル可カラズ何トナレバ揚子江ノ直北ニ方リテハ朝鮮西
 岸ニ在ルモノニ相似タル數堆灘アレハナリ是ニ由テ之ヲ見レバ朝鮮ニ於テ
 潮ノ漲落ノ大ナルハ沙堆ニ非スシテ其他ニ原因アルナラン恐ラクハ是レ揚
 子江ノ南ニ隣セル杭州灣内ニ於テ潮ノ漲落大ナルノ原因ト同一ナラン乃チ
 該灣内乍浦ノ上部二十五里ヲ距ルノ處ニ於テ一時間潮流ノ速率ハ大潮ノ時
 十一節小潮ノ時八節ニシテ其漲落ハ四十尺ナリ卷ヲ參觀スベシ但シ乍浦ハ

上海ヲ距ル約四十四里ノ地ニ在リ

杭州灣内ニ於テ潮ノ漲落大ナル所以ノモノハ灣形ノ特別ナルニ因ルヲ疑ヒ
 ヲ容ル可カラズ該灣タル宛モ窄囊ノ如ク而シテ此ニ迫入スル所ノ滿潮浪ハ
 常ニ其幅ヲ縮少シ而シテ其浪脈ノ長サヲ減スルカ故ニ勿論灣内ノ水量ハ之
 ニ應シテ其高サヲ増サマル可カラズ而シテ該浪脈タル斯ノ如ク特別ニ狹窄
 ナル灣頭ニ向テ愈進メハ愈狹少ナル限界内ニ相迫リ其浪脈各部愈一點ニ集
 合シ恰モ海浪相集リテ其浪峯ノ高起スルニ異ナラス即チ是レ波浪ノ疊重ヲ
 生スル所ノ單純ニシテ能ク知ラレタル法理ニ職由スルナリ而シテ斯ノ如ク
 進潮浪漲キルヲ非常ナルカ故ニ退潮浪千潮ヲモ亦其比例ヲ以テ低落スルヲ
 非常ナラザル可カラズ是レ杭州灣ノ如キ地方ニ於テハ潮ノ漲落ニ非常ノ大
 差アル所以ナリ
 以上ノ説明タル能ク朝鮮地方ニ適當セリ前記ノ如ク該地方ノ漲落大ナルハ
 即チ海圖ヲ見テ一目瞭然タリ然レモ朝鮮河海ノ潮流タル漢江ノ狹窄部ヲ除

クノ外之ヲ他ノ地方ニ比スルニ必シモ其速率大ナリトシテ考フ可カラザルナリ例之ハ揚子江附近舟山羣島近傍ノ如キ東海ノ各處ニ於テハ潮流及ヒ海流共ニ朝鮮海岸ニ比スレハ疾キヲ甚クシ

是レヨリハ余ガ屢該河ヲ上下スルノ際ニ於テ檢察セル二三ノ總説ヲ記サンニ該河内何レノ處ニ到ルモ高潮ノ時ハ吃水十尺以下ノ船隻ヲ通セサルノ地無シト雖モ其水量ハ常ニ同シカラス假令バ大雨後ノ如キ場合ニ於テハ吃水十尺餘ノ船隻ヲ通スベシト雖モ又時トシテハ非常ニ水量ヲ減スルコトアリ故ニ絶ヘズ此河ヲ航通スル船隻ハ吃水六尺ヲ越ユ可カラス而シテ現今京城ヨリ數里以内ノ地ニ在ル「マボ」ト定期ノ貿易ヲ爲セル朝鮮國ノ西洋形兩桅船ハ吃水約八尺ナリ

大雨後ハ該河ノ氾濫甚ク強キカ故ニ「セマルボ」及ヒ「マボ」間ヲ往返センニハ最も強力ナル汽船ヲ用フベシ而シテ單螺旋艇或ハ舳輪船ヨリハ雙螺旋艇或ハ外輪船ヲ以テ優レリトス

該河ノ兩岸ハ行人ヲシテ最モ愉快ノ感覺ヲ生ゼシム其土壤到ル處膏腴ニシテ耕藝ノ道開ケ且ツ貿易ノ市場多ク其人民ハ暴行無禮怠惰ノ風無ク農業其他多クノ業務ヲ營ム外ニ大艇ヲ以テ魚類ノ販易ヲ爲スモノアリ又佛版水路誌ニ該河ノ各處ヲ記載シテ曰ク此河ハ好ク耕作ヲ施セル米田ノ中央ヲ流レ其兩側ハ水最モ淺シ但シ此米田間ニハ住民多クシテ皆其業務ニ汲々タリト又曰ク此地ニ樹木茂生セル數小山アリ此山ヨリ河岸ニ至ルマテ菓木ヲ培養ス凡ソ此等ノ筆記其他等シキ記事ハ又之ヲ京城近傍ノ地ニ用ヒテ以テ一層力アルモノトス唯「マボ」對面ノ潤大沙濱ハ河底ノ一部ニシテ河水屢其上一ニ漲溢スルコトアルヲ以テ此記ノ如クニアラザルノミ

余ハ該河ヲ航上スルノ許可ヲ得タル支那及ヒ日本形諸船隻ノ無難ニ之ヲ通過セシヲ聽キ欣喜ニ堪ヘサルナリ何トナレハ若シ汽船ヲ以テ之ヲ航スルハ尙ホ好結果ヲ得ベキヲ信スレハナリ

余ハ今該河内二三ノ地ヲ除クノ他ハ何レノ處ニ於テモ其諸狹窄水道ヲ指導

セングガ爲メ或ハ諸岩石及ヒ諸礁脈ヲ避ケンカ爲メ濱岸上ニ指導標ヲ建設スルヲ得ベシト云フヲ得ルヲ欣喜ニ堪ヘザルナリ而シテ斯ノ如キ濱上ノ指導標ハ浮標ヲ設クルヨリモ其費用少ナクシテ且ツ久シキニ堪ヘ其他冬期中氷ノ爲ニ之ヲ撤去スルヲ要セザルノミナラス或ハ流失シ或ハ沈没スル等ノ憂無キナリ

余ハ今此等ノ記事ヲ終ルノ前ニ於テ余ガ謹慎ヲ以テ施セシ該河内種々ノ險測ヲ簡單ニ再記センコトヲ乞フ該河内ニハ尋常航海上ノ熟練ト警戒トニ依テ避ケ得可カラサルカ如キ甚シキ障礙ナシ而シテ不便ナル土人ノ艇舟カ容易ク該河ヲ航シ得ルト該河ヲ上下スル支那形及ヒ日本形諸船隻ノ曾テ過キ無キト此地引水者ノ信スベク且ツ依頼ス可キニ依テ該河ニ汽船ノ航通ヲ開キ特ニ黒龍江ニ用ユルガ如キ吃水淺キ外輪船此船ハ吃水約二尺半ナリト雖モ噸百噸ヲ積載スルニ足ルト云フ若シクハ雙螺旋艇ヲ用ユルハ必ス好結果アルベシ是レ余ガ確認シタル所ナリ

該河ノ下部セマルボ直路ヲ航スルニ十二月中旬ヨリ二月中旬ニ至ル冬期間ニアリテハ時々浮氷ノ爲メニ障礙セラル、トアリト雖モ唯暫時小艇ノ互市通商ヲ妨クルニ過キズ而シテ較大ナル船隻ノ發着ヲ妨クルガ如キヲ決シテ之レ無キナリ然レモ冬期中該河ノ上部ニ於テハ結氷ノ爲メニ船隻ヲ通シ難シ○朝鮮沿岸ニ於テハ支那及ヒ日本近海ニ於ケルカ如ク霧潮流及ヒ海流ノ爲メニ船隻ノ危険ヲ感スルガ如キヲ甚タ少ナシ

又一千八百八十四年八月二十一日ノ日附ヲ以テ「エンシニアン」ノ税關長ニ宛テ大佐「エフ、ヴェニールツ」ノ送致セシモノハ左ノ如シ

余ハ漢江ノ航行ニ關シ豫シメ其報道ヲ閣下ニ呈セントス余ヤ貴論ニ從テ七八兩月間當譽ヨリ京城ニ至ル間ノ該河線ヲ再三検査シ其知り得タル所即チ左ノ如シ

第一 漢江ハ等級アル船隻ノ安穩ニ上下スルヲ妨クヘキ何等ノ障礙無シ
第二 該河内ニ於テハ尋常航海上ノ熟練ト警戒トヲ以テ容易ク避ケ得可カ

ラサルカ如キ危険絶テ無シ

第三 大約十噸ヨリ一百噸餘ニ至ル土人ノ船ヲ始メトシテ其他外國製造ノ各種船隻ニ朝鮮ノ國旗ヲ掲ケ自國ノ士官及ヒ水夫ヲ用フルモノ常ニ該河ヲ通行シ而シテ更ニ危険ナシ○又支那及ヒ日本形ノ諸船隻其他當譽ニ通商スル風帆船ハ概子^ソン、ガイ^イ或ハ^ヨン、サン^マニ至ルマデハ該河ヲ派航スルノ許可ヲ得テ之ヲ進行スト雖^レ該河航派中未ダ一回ノ過失アリシヲ聞カズ

第四 拙造ニシテ脆弱ナル土人ノ舸艇ヲ以テ安全ニ貿易ヲ行ヘル該河ニ外國ノ航海者ガ外國ニ於テ製造セル船隻特ニ漁船ヲ浮ベ之ヲ航通スル^レハ又何ソ恐ル、ノ理アラシヤ

第五 引水者ハ凡テ信任且ツ依頼スベキ人民ニシテ該河ノ形勢、潮信及ヒ海流ヲ熟知ス

第六 好時機ニ際シ清國直隸海灣内太沽欄口堆ヲ横過シ得ベキ吃水ノ船隻ハ小陵ヲ距ル約三里以内、^ヨンサン^ニ至ルマテ進行スルヲ得ベシ然^レモ斯ノ

如キ種類ノ船隻ハ數回ノ潮時ヲ失フコアルヲ以テ恐クハ二三ノ地ニ於テ高潮ヲ待ザル可カラス

第七 該河ニ用フル汽船ハ惟フニ黑龍江ニ於テ用フル汽船ニ等シキモノヲ以テ最モ適當トス該汽船ハ吃水約二尺半平底且ツ外輪ニシテ數百噸ヲ積載スヘシ楮テ余ハ載貨セル^レ吃水六尺餘ニ及ベル汽船ヲ以テ日々定期ノ航通ヲ爲スノ不可ナルヲ斷言ス可シ何トナレバ淺處ニ船ヲ止メテ潮ヲ候シ爲メニ延滞スルコアレハナリ云々

漢江口近傍淺難

小延平島ノ南角ヲ距ル南微西二分一西十里四分一ノ地ニ於テ水深二尋ヲ得タリ

漢江口

延平列島ノ北方及ヒ東方即チ漢江ニ至ル水道ノ北側ニ接シテ數多ノ島嶼岩石散布ス但シ漢江口ハ「^ラン^デ」島^南東延平島ノ東ト其南南東約六里ニアル

一小嶼^クロダ^ク島トノ間トス而シテ此處ヨリ北堆上ノ圓錐島ニ至ル九里ノ間ハ水道北北東ニ走リ水深ハ一ナラス六尋ヨリ九尋ニ至ル又夫ヨリ折レテ七里ノ間北東微東ニ走ル其潤サ平均一里半ニシテ深水ナリ又是ヨリ以內ノ水道ハ陸岸ニ接セルヲ以テ北濱^カ岸ノ^クチン^クシャン^ク角ト高潮ニ隱没スル危險ノ低岩礁^ガイ^クヨ^ク一^ク及ヒ黍島ヨリ擴延セル一沙堆トノ間ハ縮窄シテ其潤サ僅ニ一二鏈トナル但シ黍島ハ該水道ノ南側ニアル一島ニシテ^クチン^クシャン^ク角ノ方ニ向テ殆ト水道ヲ橫斷ス但シ朝鮮國ノ首府タル京城ハ此角ヲ距ル大約五十里ノ地ニアリ

喬桐錨地^{海軍海圖第一百三十號ヲ參觀スベシ}

此錨地ハ喬桐島ノ南邊ニ在テ松家島及ヒ黍島其前面ヲ擁ス明治十二年高雄丸實洞處ハ喬桐ノ南邊即チ松家島ノ對面ニシテ北緯三十七度四十五分三秒東經一百二十六度十六分十八秒ニ位ス
喬桐島ハ江華島ノ西岸ト一浦ヲ隔テ、相對スルモノニシテ其西面ハ黃海道

ノ白川延安ト浦ヲ隔ツ朝鮮政府ハ此島ニ水軍節使度ヲ置キ黃海、京畿、平安三道ノ水軍ヲ統ヘ以テ海防ニ備フ此島及ヒ江華島ハ土地多瀾民皆魚鹽ヲ以テ生ヲ營ム周圍皆田野ニシテ中央ニ華蓋山ト稱フル一山アリ其高サ八百三十二尺松家島ト對スル處ニ一小松山突起ス之ヲ鎮山ト曰フ傍ニ一廳アリ殆ト荒廢セリ此間礁アリ潮ノ干満ニ由テ隱見シ船ヲ寄スルニ便ナラスト云フ唯鎮山ノ前灣太狹シト雖モ水深四五尋アリ若シ水路ヲ探リ瀕標礁標ヲ設ケテ能ク之ヲ導カハ一時避泊ノ地トナスニ足ラン

松都江

此江ハ京畿道ノ豐徳ト黃海道ノ白川トノ間ニアリテ陂塘環海水ヲ抱キ一大湖ヲナス喬桐ヲ距ルコ水程概子七鏈江口ヲ昌陵ト曰ヒ其前灣ヲ靈湘江ト曰フ昌陵ヲ過クレハ即チ松都江ニシテ土人曰フ湖口ニ石橋ヲ架ス甚々大ニシテ海潮往來船舶ヲ容ル、ニ足ルト此湖ノ南面ハ江華島ヲ以テ之ヲ擁圍ス行船法程^{明治九年日進艦ノ朝鮮ニ航スルノ際其乘員本宿宅命ノ際實測筆記ニ係ル}

南方ヨリ延平島洋名「チア」島ニ航進シ「フェルリール」列島ノ西方ニ到ルハ必ス此諸島ノ北方ニ高山ヲ見ルナラン是レ延平島ノ北方ニアル陸地ノ山ナリ漸々此山ニ向テ航進セバ延平島ヲ認メ得ベシ此島ハ頂上尖銳ナリ此ヨリ尙ホ航進セバ「ランディ」島及ヒ其南々東二分一東ニアル方形ノ小島ヲ見ルナリ余之ヲ小方形島ト名ツケリ此島ヨリ「フェルリール」列島ニ至ルマテノ間ハ水面下一尋ヨリ三尋ニ至ルノ堆アリ須ラク遠避シテ航スヘシ既ニ「ランディ」島ヲ北東微北ニ見ルノ地ニ至ラハ此島ト小方形島トノ中央ニ向進シ兩島ノ直線ヲ經過スルノ後チ徐々ニ圓錐島ニ向フベシ「ランディ」島ト「スト」角間ノ距離ハ皆英海軍海圖第一千二百五十八號セリ

圓錐島ノ東側ニ屹立シタル二座ノ尖岩アリ「ランディ」島ト此島ノ直線以西ハ沙堆アリ又小方形島ヨリ沙堆延蔓シテ此島ノ近傍ニ至ル故ニ此處航路最モ狭シ而シテ水深カシ此島傍ハ岸ニ接スル處モ尙ホ七尋ノ深サアリ但シ東方北方及ヒ西方ハ直チニ沙堆ニ接セリ此島ヲ航過セシ後ハ「ボールドブラフ」ニ

向テ直航スベシ但シ左右ニ廣大ナル沙堆アルカ故ニ細カニ注意シ潮流ノ爲メニ淺處ニ近ツク可カラス

「ボールドブラフ」ハ其名ノ如ク嵯峨タル岬ナリ此岬ノ北方ニ幅半里許ノ航路ヲ隔テ、沙堆アリ之ヲ避クルニハ喬桐島ノ最モ著シキ雙頭山ヲ北東ヨリ以東ニ見ル可カラス

喬桐島ノ「スト」角ハ甚ダ低クシテ遠方ヨリ認メ難シ角端ニ小丘アリ三角形ニシテ恰モ假山ノ如シ角ノ南方ニ常ニ露出スル岩礁アリ角ト礁トノ間ハ水深クシテ通航無難ナリ英人「ゼ」ムスノ一千八百六十七年間此地ヲ測量セシトハ角ト礁ト泥堆ニ由テ連續シ礁ノ南方ニ於テ航路アリシト云フ「スト」角ヨリ「クラギ」角ニ至ルマテハ喬桐島ノ海岸ニ接近シテ航スヘシ江華島ノ邊ハ水淺シ「クラギ」角ト其對岸トノ間ニ高キ尖岩アリ此岩ト「クラギ」角トノ間ハ無難ナリ此邊潮流頗ル猛烈其速力一時間八里ニ至ル此角ヲ過キシ後ハ其北東方ニアル喬桐島ノ角ニ向テ直航スヘシ此角ノ東面ニ大部落ア

リ是レ即チ喬桐縣ナリ
 江華島ノ「バルリール」岬ノ西方ニ位スル「バルリール」礁ハ干潮ニ露出スト聞キ
 シカ余ハ滿潮ノ時航過セシヲ以テ之ヲ見ルコト能ハザリキ又潮流ノ激スルモ
 見サリキ喬桐島ノ角ニ近ツキテ航スルカ故ニ此礁ハ避クルヲ得ルト云ヘリ
 「バルリール」角ノ砲臺ハ華江沿岸第二ノ砲臺ナリ此角ヲ過キシ後ハ北東ノ大
 地ニ見ユル漏斗形山「ファンチル」ニ向ヒ第三砲臺ヲ右舷ニ見ル迄航進シ然ル後
 第三砲臺ニ向フベシ此ノ如クシテ航セバ江華島岸ヨリ斗出シタル淺堆ヲ避
 クルコトヲ得ヘシ第三砲臺ヨリ「タルン」エバウト「角」ニ至ルマテハ江華島岸ニ密
 接ノ航スヘシ「タルン」エバウト「角」ヲ過シ後モ亦江華島岸ニ沿フテ航進シ以テ
 北東岸ノ泊地ニ達スト云フ余ガ到リシハ「タルン」エバウト「角」マテニ其泊地
 ヲ涉歴スルコトヲ得ザリキ故ニ今爰ニ其實況ヲ記スル能ハス蓋シ此泊地ハ水
 深一尋餘ニシテ潮流猛烈安穩ノ錨地ニ非ルナリ漢江口ノ「シヤノイン」島ハ此
 泊地ヲ距ルコト二里半ナリト雖モ此間船舶ノ通行スヘキ航路ナシト云フ

江華島北東岸ノ泊地ハ項山島ニ比スレハ其險易日ヲ同フシテ語ル可カラス
 此地ハ淺クシテ且ツ潮流猛烈其速力一時間八里ニ至ル又此泊地ニ達スルノ
 水路ハ廣大ナル沙堆中ニ通シタル狹隘ナルモノニシテ滿潮ノ時ハ擱觸膠着
 ノ恐レアリ而シテ強烈ナル潮流ノ爲メニ亦屢其形狀ヲ變スルコト必然ナリ故
 ニ其測量圖モ年々改正スルニ非レハ亦必ラス畫餅ニ屬スベシ且ツ「ランデー」
 島ヲ過キテヨリ泊地ニ達スルマテノ間ハ假泊ニ便宜ノ地ヲ得ルコト能ハサル
 ナリ項山島ノ泊地ハ之ニ異ナリ喫水十七八尺ノ船舶ヲ泊スルコトヲ得而シテ
 潮流ノ速力ハ北東岸ノ半ニモ及ハス其泊地ニ達スルノ航路モ亦々恐ルヘキ
 ノ淺灘暗礁ナシ假令ヒ一二ノ險アルモ尙ホ容易ニ之ヲ避クルコトヲ得ヘシ加
 之豊島ヨリ泊地ニ至ルノ間ニ數所ノ假泊地アリ故ニ兩地ノ險易同日ニシテ
 語ルヘカラサルコト知ルヘキナリ
 鹽河海軍海圖第五十三號及
第五十五號ヲ參照スベシ
 小部島ノ西邊及ヒ「ラウ」島ノ東邊ヨリ永宗島ヲ經テ漢江ニ到ル迄ノ航路

之ヲ鹽河ト稱ス乃チ此河ハ漢江ノ支流タリ勿淄島ヨリ漢江迄ノ航路ハ干潮ノ時ハ恰モ綱索ノ如キ沙洲ヲ以テ連絡シタル小島ノ中間ニアリ此海峡ニ於テ干滿潮時間ノ差違ハ漢江ヨリ生スルモノナリ

「ラウンド」島ト勿淄島トヲ連絡セル一直線ノ西方ニ軟泥沙ノ洲多クシテ航海ノ妨害ヲナス時日ニハ其洲ノ界限ハ水色ノ變易ニ依テ辨知スルコトヲ得ベシ又此洲ハ接近シテ通航スルヲ得然レモ激浪ノ時ニハ注意測量シ且ツ「ラウンド」島ヨリ月尾島ニ向ヒ月尾島ヲ少シク左舷ニ見ユル様ニ航行スベシ月尾島ノ地ニシテ其頂ニ樹木一但シ航行ノ始メ直チニ勿淄島ニ向テ航スヘカラサ

「ラウンド」島ト勿淄島ト「ラウンド」島トノ間ノ狭路ハ無難ナリ故ニ中央ヲ通航スルコトヲ得ベシ

鹽河内月尾島ヨリ漢江ニ至ルノ間ヲ分テ二直路トナス即チ其第一直路ハ月尾島洋名「ゴ」「ゴ」島「ゴ」島「ゴ」島トノ間ニシテ之ヲ濟物浦直路ト曰ヒ其第二直路ハ狹窄部ヨリ泥角附近ノ堆ニ至ルノ間ニシテ之ヲ江華直路ト曰フ

濟物浦直路

永宗島ヨリ北ノ方九里ヲ隔テタル江華島ニ至ル間ノ水道ハ曲折迂廻シテ無數ノ小島岩石及ヒ沙堆間ヲ通シ其水深ハ一ナラズ諸嶼間ノ狹窄航門ニ於テハ五尋及ヒ十尋アルモ水道ノ較「濶」キ部ニ於テハ二尋及ヒ三尋アリ而シテ勿淄島碇泊地ヨリ江華島ノ南東岬ニ赴ク所ノ狭路中ニ一難所アリ之ヲ「ブリモゲ」淺灘航路ト稱ス此淺灘ハ立標ヲ以テ之ヲ示ス此處迄砲艦ノ類ハ海圖海軍海圖 第五十三號ニ記セル航路ヲ行クハ安全ナリ尙ホ孫石頂洋名「ソント」ト稱スル河角ニ至ルマテハ大概直線航路ナリ晴天ノ時砲艦ノ類ハ「ブリモゲ」島ヨリ頂山島一名「ハ」マテノ航路中便宜ナル泊地ヲ得ベシ頂山島ヨリハ水深不同ニシテ岩石多シ此岩石ノ間ニ滿潮ノ爲メニ押流サレタル泥沙アリ依テ泊地トナシ得ヘキ安穩ノ處ナシ「ヂ」ユ「ピ」ロ「」島ト頂山島トノ間ハ沙洲連續シ其砂中ニ大ナル圓石ノ混交スルモノアリ此大石中最モ航路ニ障礙アルモノハ該兩島ヲ連結セル一直線中ニアリ又頂山島ト「ブリモゲ」島淺灘トノ間ニモ沙

洲アリ其洲端ニ大ナル圓石數箇アリテ干潮ノ時ト雖モ海水ニ覆ハル而シテ河水ハ急流ニシテ此等ノ石ニ激衝シテトリコルト島ト江華島トノ間ナル海腕ニ入ルナリ此海腕ト據河トハ沙洲中ノ處々ニ小溝ヲ通徹ス滿潮ノ時ハ此溝ノ水溢レテ該海腕及ヒ據河内ニ滿ツ朝鮮ノ最大ナル船會テ佛國艦隊ヲ認ハルハ則チ江華島南岸ノ航路ナリ

孫石項洋名「ソント」ハ據河ノ幹口ニシテ其江華島ト陸岸トノ間ハ一千三百尺乃至三千九百尺ノ狭キ水路ナリ此河常ニ烈風ヲ受クルニヨリ其水面時々甚々變ス潮流ノ運積シタル沙處々ニ其航路ヲ擁塞スレテ滿潮ノ時江華島泊地ニ於テハ潮ノ漲ルコト十三尺乃至二十三尺ニ及フヲ以テ小船ハ容易ニ此河ヲ上訴スルコトヲ得ベシ

此浦ヨリ京城ニ至ルノ道路二アリ一ハ仁川府ヲ經テ生麻浦ニ出ツ其路程七里我里一ハ富平ヲ經テ楊花渡ニ出ツ其路程共ニ幅凡九尺ヨリ六尺ニ至ル項山島洋名「ルイス」一名「ハムクタイ」○海軍海圖第七十五號ヲ參觀スベシ

此島ハ江華島草芝嶺ノ前面近附ニアリテ江中ニ屹立ス上ニ砲臺アリ之ヲ漢江ニ入ルノ第二門トナス此島ハ高サ一百七尺ニシテ頂上ニ一本ノ大樹アリ其下ニ草木アリ以テ目標トスベシ

月尾島ヨリ項山島ニ至ルマテノ水路ハ容易ニ航過シ得ヘシ「シーロー」島ノ北東ニ位スル小岩嶼ハ察スルニ四方峻ニシテ深水ナラン

項山島ニ於テ我艦隊ノ碇泊セシ地ハ島ノ東方ナリ此島ノ高サ一百七尺頂上ニ一本ノ大樹アリテ其下ニ草屋アリ以テ目標トナスベシ島ノ南東角ニ舊堡アリテ其下ニ小村落アリ曩ニ雲揚艦附屬ノ端舟江華島草芝砲臺ヨリ砲撃ヲ受ケシ後チ我兵此島ニ上陸シ放火セシヲ以テ今ハ唯「虛屋」一字ヲ存スルノミ艦船ヲ泊スヘキノ地ハ島ノ北端ヲ西ニ見ルノ處ヨリ始マリテ島ノ南ナル松樹アル小嶼ヲ西ニ見ルノ處ニ終ル其水深三尋ト四分一ヨリ五尋ニ至リ底質ハ大概粗沙ナリ但シ松樹アル小嶼以南ハ磐石ニシテ泊地ト爲スヘカラス潮候時ハ大約五時干滿差ハ二十九尺兩弦ニハ十八尺ナリ潮流ハ滿潮ニ弱ク干

潮ニ強シ其最大速力ハ一時間一里ト四分三ナリ
此島ノ北岬ヨリ西ニ方リ鬩ニ孟春艦ノ擱着セシ粗沙堆アリ堆上ノ水深一尋
蓋シ此島ヨリ延伸スルモノナラン

ブリモゲ一洲

項山島ヲ航過セシ後但シ此島ハ其近傍一離リ直チニブリモゲ一洲ノ狭路ト
距テ、通行シ得ベキナリ稱セル難所ニ到ルナリ此處ハ甚タ狭クシテ但シ其幅約ニ百六十二尺江華島ヨリ出ル所
ノ洲頭ニ立標ヲ樹テ以テ此難所ヲ示ス航海者ハ宜シク項山島ヲ過キタル後
チ此標ニ向テ直チニ航進スヘシ此處ニ於テ航路ニ障礙アル者ヲ三箇ニ分ツ
乃チ左ノ如シ

其一 岩灘

此灘ハ三角形ヲナシ其下邊ハ江華島ノ地ニ接シ其頂ハ狭路ノ中央迄斗出
スルコト約九百十九尺ナリ即チ其頂ニ上ニ記シタル立標ヲ樹ツ但シ此標ハ
藪ヲ以テ包
ミナリ此岩灘ハ滿潮ノ時ト雖但シ全ク海水ニ覆ハル、コナシ

其二 一孤岩

前記立標ノ東約一百九碼ニ在リテ滿潮時後三十分ヲ經テ海水ニ覆ハル、
カ故ニ甚タ危險ナリ佛國砲艦ルポロトト號ハ此岩ニ乗リ上ケタリ故ヲ以
テ此岩ヲルポロトト名ツケリ

其三 廣濶ナル岩灘

此灘ハ亦狭路ノ如ク北々西ヨリ南々東ニ列スルモノニシテ平行ナル諸灘
ヲ集合シテ成レルモノナリ總テ其形狀ハ三角ニシテ其底邊ハ海濱ニ接近
ス而シテ其頂ハ稍圓凸ヲナシテルポロトトノ孤岩ニ接近シ滿潮時後一時
間ヲ經テ海水ニ没ス又其陸岸ニ近キ岩ハ滿潮ノ時ト雖但シ海水ニ覆ハル、
コナシ

ブリモゲ一航門一名狹窄部ハ、チヨ、チヤ、ト、イン、ヤ、兩砲艦ノ間ヲ日フ而シテ
ヨリ佛人ハ之ヲ、レ、
ブレソント名ツク

前示ノ三危險ハ狭路ヲ擁シ且ツ此處ノ潮流ハ最モ強烈ナルカ故ニ干潮ノ時

砲艦ノ通行シ得ベキ處ナシ又此等ノ岩灘ハ潮流ヲ支フルヲ以テ干潮ノ終時ニ至レハ潮流ノ速率毎時六七里ナルヲ以テ砲艦ハ此海流中ニ航路ヲ取リ難シ立標アル岩ノ近傍ニハ憩潮ノ時間アルヲナシ而シテ干潮ノ終リ及ヒ滿潮ノ始メハ「ルボロト」岩ノ海水ニ覆ハレシ後チ流勢ノ變遷ヲ以テ纔カニ知リ得ベキノミ

此灘所ニ於テ潮ノ漲ル高サハ約二十六尺ニシテ砲艦ハ滿潮時後一時間ヲ經ルニアラサレハ此狹路ヲ通行シ得ベカラス又前述ノ如ク此狹路ノ中央ニ坐スル「ルボロト」岩ニ衝突セザル様ニシ乃チ立標アルノ岩ヨリ約三十尺ヲ隔テ、通行スヘシ

此狹路ノ諸岩間ニ於テハ錘鉛ノ索常ニ渦潮ニ放棄セラル、ヲ以テ容易ニ錘洞ヲ施スヲ能ハス然レモ佛艦「ラゲリエル」號ノ瀛艇ハ平穩ナル時ニ乗シテ此岩ノ下邊近傍ニ止マリ但シ岩ノ長サノ二分一程ナリ投鉛シテ十一尋ニ至ルモ未ダ底ニ達セザリシ是レ或ハ潮流ノ爲メニ其海底ニ穴ヲ生シタルナラン又此處

ヨリ少シク離レテ錘測セシニ甚タ水深ノ變スルヲ視タリ乃チ船ノ左右舷ヨリ測ルニ從ヒテ一ハ二尋半一ハ五尋ノ如キ不同ノ水深ヲ得タリ是ニ由テ此ヲ觀レハ則チ此處ノ海底ハ甚タ凸凹ナルヲ知ルヘシ

滿潮時後一時間ヲ過キ勿湍島ヨリ出帆スルニ於テハ滿潮ノ流勢最大ニシテ狹路ノ中央ヲ向流スルカ故ニ狹路ヲ通航スルニ便宜ナルヘシ前ニ述ヘタルカ如ク「プリモゲ」洲ヨリ孫石頂角マテ即チ一里半間ノ海底ニハ尖岩多クシテ碇泊ニ安寧ノ處ナシ航海者宜シク立標ノ岩ヲ過キシ後チハ「プリモゲ」洲ノ端ニアル岩ニ沿フテ行カンカ爲メニ孫石頂角洋名「ソク」ヲ船ノ左舷ニ少シク準眸スル様ニ航スヘシ

又洋紀一千八百八十四年朝鮮國稅關履「エフ、ヴエ、シユルツ」ハ該航門ニ關シ左ノ如キ報道ヲナセリ曰ク余ハ朝鮮及ヒ日本ノ小艇ニ搭シテ屢、此航門ヲ往來シ丁寧ニ之ヲ檢セシニ該航門ノ現狀ハ十八年前佛人ノ記錄セシヨリハ遙カニ優レリ惟フニ是レ佛國ノ測量以來潮勢強キニ因テ絶ヘス該水道ヲ壅塞シテ益、

深ク且ツ廣濶ナラシメ自カラ改良ヲ加ヘタルナラン而シテ余ハ大低潮ノ時其本水道内ニ於テ四尋以下ノ水深ヲ得ザリシ是レ余ガ該水道ノ錘測ヲ施ス前ニ當リ土人ノ引水者ヨリ聞キタル水深ト異ナルヲ無カリシ潮流ハ該水道内ヲ直流ス然レモ船隻ハ唯其最狹部ヲ經過シタル後チ宛モ漏斗ヨリ流出スルガ如ク岩石ノ間ヲ經テ衝出スル所ノ強旋流中ニ入り易ク暫時ノ間ハ船ノ進退人意ノ向フ所ニ任セザルコアリ佛版水路誌ニ依レバ此水道ノ濶サ約八十七碼半ナリト雖モ余ハ八月廿日ノ低潮時四月最近時ヨリニ於テ本土船ノ狐疑無ク本水道ノ東ニ在ル岩石間ノ諸水道ヲ航過スルヲ目撃セリ故ニ現今此水道ヲ通行スルハ一千八百六十六年ノ頃ニ於テ佛人ノ思慮セシガ如ク困難ナラズ願フニ是レ當時土人ニ敵意アリシヲ以テ其困難ノ虛説ヲ傳ヘタルナラン又前記ノ月地最近時ニ於テ該本水道ノ縁邊ニ在ル岩石ハ高潮ニ隱没佛版水路誌ニ記載セリト雖モ該水道ノ江華側ニ在ル「チヨ、チヤ」礁脈上ニ立標スル所ト相反スノ設ケアルヲ以テ其位置ヲ識別シ得可シ而シテ該水道内ノ好通路ハ其南方

大約四分里三ノ地ニ在ル項山島ノ北端ニ設ケタル示導標ニ依テ容易ク之ヲ知り得ベシト

航門ノ角標

此航門ノ角ヲ航過セントスル時ハ左舷ニ群立スル岩ヲ準眸スベシ但シ此群岩ハ概子河ノ中央ニ座シ且ツ航門ト平行シテ列スルモノナリ此岩ノ頂ニハ常ニ識別スルヲ得ベキ目標ヲ樹テタルカ故ニ航門ヲ行クノ船ハ容易ニ此難處ヲ避クルヲ得ベシ

江華直路

此直路ハ勿淄島ノ北十里江華島ノ東濱ト陸岸トノ間即チ「ブリモグ」航門ヨリ泥角附近ノ堆ニ至ル大約九里ノ間ヲ言ヘルモノニシテ其濶サ二鏈ヨリ一里ニ至リ其大半ハ岩石沙堆充滿シ航路ノ水深モ亦淺シ而シテ其兩岸ニハ米田多ク陸地ハ多山ニシテ江華島沿岸ニ在ル數多ノ小突出角上ニハ砲臺ノ備アリ又大潮漲ノ時其諸狹窄部ニ於テハ潮流ノ速率一時間八節ナリト云フ

洋紀一千八百八十四年朝鮮國稅關履^{エフ、ヴエ、シユルツ}ノ報道スル所ニ依レバ該直路内航法ノ如キハ此地ノ引水者ニ依頼スルヲ得ベシト雖^モ佛國ニ於テ出版セル該直路ノ水路誌モ亦信スルニ足ルナリ而シテ該直路内各處ニ於テ其好通路ヲ示明スル所ノ指導標ハ意ニ隨テ之ヲ建設シ得可キナリ

佛版水路誌ニ依レバ朔望潮ノ時^{ツン、トル、モック}通路^{ソソ、トル、モック}ヲ流ル、所ノ潮流ハ其速率七節ナリト云フ然レ^モ土人ノ船ハ潮ノ干満ニ係ハラス若シ頻流ニ會シ或ハ逆潮ナルモ頻風ヲ得ル^モハ通路ヲ航過スルニ何タル妨碍ヲモ感セザル者ノ如シ此地ノ引水者其他土人ハ江華ヲ呼ンデ^{カン、ハイ}ト稱スルモノアリ

孫石項 洋名「ソント」
ルモ「ソント」

滿潮流ノカヲ藉テ狹路ヲ上訴スル船舶ハ成ルヘク無難ナル孫石項角ノ最近地ヲ通行シ蒸氣ノ全カヲ用ヒ急速ニ航進ス可シ然ラサレハ滿潮ノ激勢ニテ生スル烈シキ渦流中ニ入りテ容易ニ航進スルコトヲ得サルヘシ此角上ニアル

砲臺近傍ノ渦流ハ河ノ中央マテ水ヲ搖起スルカ故ニ航海者ノ始メテ此地ニ至ルモノハ岬或ハ島岸ヨリ斗出スル岩脈ナルカト思想スルナラン然レ^モ此處ヲ實驗セシニ岩脈ノ如キ者無ク唯逆行スル潮流激シテ該角ノ第一曲處ニ衝入シ海岸ノ形勢ニ應シテ二流ニ分カレ二個ノ小岩ヲ激過シ砲臺ノ岬ニ衝突シ爲メニ此ノ如キ渦流ヲ生セシナリ^{但シ此二小岩ハ角ノ附近ニアル}

前ニ述ヘタルガ如キ航路即チ孫石項岬ノ最近ヲ通行セスシテ此狹路ニ入ルノ船ハ流勢ニ由テ速カニ河ノ左側ニ向テ橫傍ニ押サレ竟ニ角ノ端マテ壓流セラル、ニ至ラン此ノ如クナル^モハ船甚ダ運轉ヲ施シ難シ是ヲ以テ航海者ハ宜シク前文ノ航法ヲ用ヒ注意行進シテ其航路ヲ確定ス可シ然ル^モハ烈シキ渦流ヲ避ケテ河ノ中央線ヲ離レスシテ此角ノ第二曲ノ端末迄容易ニ達スルヲ得ベシ尙ホ角ニ進入セシ後チハ速カニ河ノ右側ニ近寄ル可カラス其故ハ河ノ右側ニ砲臺ヲ有セル江華島斗出岬ニ對シタル淺灘並ニ大岩灘アレハナリ船若シ滿潮時後一時半ヲ經テ勿湍島ヨリ出帆シ江華島泊地ヲ滿潮時後

三時ヲ過キテ出帆スルハ障碍無ク此河角ヲ通行スルヲ得ヘシ
 干潮流ニ浜行スルノ船ハ障碍ナク此河角ヲ通行スルヲ得ヘシ唯毎時三里乃
 至五里ノ速率アル流ニ溯行スルニハ障碍アリ而シテ楫ノ運動ヲ支ヘルノ渦
 流ナシ此ノ如キ時モ亦タ角口ニ在ル所ノ立標岩ニ激スル流勢ヲ避クルカ爲
 メニ孫石項ノ近傍ヲ通行ス可シ
 満潮流ノ力ヲ藉リ即チ満潮ノ始メ三時間ニ河ヲ浜行スルノ船ハ容易ニ河角
 ヲ通行スルヲ得ヘシ而シテ河ヲ下行スルノ船ハ乃チ然ラス孫石項ノ砲臺ア
 ル岬ニ激スル渦流強クシテ楫ヲ使用スルヲ得ス之ニ加フルニ船ノ蒸氣力能
 ク流勢ニ逆浜スルニ足ルヤ否モ亦量リ難シ是ヲ以テ河ヲ下リテ勿湍島ニ歸
 着セントスル者ハ満潮ノ終時カ或ハ干潮ノ始時ニ際シテ角ヲ通行スル標ニ
 爲スベシ若シ干潮ノ始時中ニ角ヲ通行スル時ハ此角ノ南口ニ在ル立標岩ニ
 激スル大流ノ線ヲ避クル爲メ成ルベク角ノ最近ヲ通行スヘシ但シ河角ニ於
 テ干満潮ヲ問ハス此大流ノ方向ヲ一定シタル時ヨリ潮ノ變換時迄ノ速力ハ

概子少ナクモ毎時三里ニシテ是レヨリ甚シキ差異アラサルナリ
 孫石項ヲ通行スルニハ前ノ如ク河ノ左側ナル海岸ニ近寄ルヘシ即チ船ハ海
 岸線ニ沿フテ海岸ヨリ約一百十碼ヲ離レテ通航スヘシ但シ江華島ノ「ボチ」
 村ノ沼澤ノ對面ニ到レバ乃チ河ノ右側ニ赴キ中央線ヲ續キ航スヘシ朝鮮ニ
 日ク孫石項ハ江上第一ノ險所ナリ江ノ如サ凡六七町江底暗礁起シ潮勢ニ
 ニ激シ滿潮旋轉一渦シ下ル勢ヒ懸瀾ノ如ク舟右岸(川源ニ向テテ左右ヲ稱セシ
 モシ潮ニ隨テ上ル是所謂左岸トス若シ然ラステ進ミ江勢曲ノ中ニ至リ樹折
 轉シ潮ニ隨テ上ル是所謂右岸トス若シ然ラステ進ミ江勢曲ノ中ニ至リ樹折
 艦砲擊ニ遭フ所是レナリ
 潮信

孫石項ニ於テハ大潮漲三十尺潮候時五時五十分ナリ干潮ノ終ニハ二十分
 時間ノ憩潮アリ勿湍島ノ満潮時ニ比スレバ此河角ノ満潮ハ三十五分時程遅
 シ潮流ノ速率ハ毎時六里餘ナリ平時ノ時間ニアラスシテ角ヲ通行スル
 ハ危険ナリトス満潮ノ流勢最モ急ナルハ満潮時後二時ヲ經タル時ニシテ干
 潮流ハ満潮流ヨリ平穩ナレモ永ク續キテ流行ス干潮流ノ最モ急ナル處ハ即

チ砲臺角ノ南方テ於テ標ヲ有セル洲ノ近傍ナリ此處ニ於テ海ニ流行スルノ河水ハ分レテ二派トナル

「キンシヤン」洲

此洲ハ河ノ左側ニ沿フテ北々東ヨリ南々西ニ蜿蜒スル者ニシテ其長サ一千五百三十碼幅約二百六十二碼ナリ此洲ノ東方ハ潮流ノ運積シタル軟沙ヲ以テ成ルモノニシテ此洲ノ西方ニアル圓石或ハ岩ニ粘着スルナリ此洲ノ爲メ船路ノ幅頗ル減縮ス

見ル所ニ依レハ此洲ハ漸ク南方ニ伸出スルカ如シ而シテ其伸延ハ當時河ノ右側ノ「ボシエ」村ノ對面ナル「キンシヤン」岬ヲ過キササルナリ船ハ「キンシヤン」角ト東西線ニ直列セサルノ前ニ河ノ右側ニ近寄ルコト約一百十碼ノ距離ニ於テ通行スヘシ河底ハ江華島ニ近キ處ヲ以テ平坦トス然レモ洲ニ近寄ルニ從ヒ水深俄カニ減淺スルカ故ニ洲ニ近ツキテ探錘スレモ洲ニ近キノ兆ヲ明示スル能ハス

「キンシヤン」洲狹路ノ最狭ナル處ハ著シキ樹木アル「ヒューマン」砲臺ノ對面ナリ然レモ前ノ如ク通行スルモハ大概二尋以上ノ水深ヲ得ベシ此砲臺ノ對面ハ干潮流毎時約五里ノ速率ニシテ「キンシヤン」洲ノ水上ニ現出スルノ時ヨリシテ烈シキ渦流ヲ生スルナリ此洲ハ滿潮時後二時間ヲ經テ全ク隱沒ス且ツ其洲ノ最低處即チ南方ノ沙堆部ハ滿潮時後一時十五分ヲ經テ隱沒ス是ニ由テ此ヲ觀レハ此淺洲ハ水面ニ見ヘサルノ部多キカ故ニ航海者ノ爲メニハ容易ナラサル險處ナリト云フヘシ又河ノ左側ト洲トノ間ノ狹路ハ只本土船ノ航路タルノミ

行船法程

「ヒューマン」砲臺ヨリ「スエンソン」砲臺マテノ航路ハ常ニ河ノ右側ニ沿ヒ約一百十碼ヲ隔テ、行クヘシ「マルリヤブ」砲臺ノ對面ニ好泊地アレモ此處ニ於テハ多ク漁柵ヲ設ケタルニ由テ碇泊ノ船ヲシテ廻轉ニ自在ヲ得サラシム此處ニ於テ河流ハ別ニ疾激ナラス「スエンソン」砲臺及ヒ「デホセ」砲臺ノ岩塊ヨリ

約一百十碼ヲ隔テ、廻行シ然ル後チ「スエ」ンソシ「砲臺」ヲ船ノ西方ニ準眸スル時ニ到リ河ノ左側ニ在ル險阻ナル黒岩ニ向ヒ直航スヘシ然ルハ江華島ニ在ル僧院ヨリ北東ニ突出スル所ノ大岩灘ヲ避ケ得ヘシ但シ此岩灘ハ凡ソ河幅ノ半ヲ減縮ス

此岩灘ノ近傍ハ深水ニシテ航海者ハ之ニ近寄ルコトヲ前知スル能ハサルカ故ニ甚タ危険ナリトス又此岩灘ハ滿潮時後四時間ヲ經テ水面下ニ隱没スルモノニシテ其中最モ久シク水面ニ見ユルモノハ狹路ニ最近ナル一岩ナリ

船若シ南西方ニ僧院ヲ望見シタルハ既ニ此岩灘ヲ過キシト知ルヘシ然ル後チ「ス」ツド「砲臺」ヲ大概北西ヨリ稍北ニ望テ進ミ砲臺ヲ距ルコト約一鏈ノ地ニ到レハ乃チ針ヲ約北二分一東ニ折リテ進ムヘシ然ルハ狹路中ニアル危險ノ白岩ヲ避ケ得ベシ此岩ハ水面上ニ露出ス其後チ「カブ」コット「橋」ノ對面ニ到ルマテハ河ノ右側ニ傍フテ航スヘシ此對面ニ泊地アリ潮ノ干滿ヲ問ハス兩舷ニ鎖ヲ繫ヒテ碇泊ス可シ此處ハ即チ一千八百六十年九月十月中佛艦「デル」レット「號」ノ

碇泊シタル處ナリ

江華島泊地

此泊地ノ近傍ニ於テハ河ノ左側ハ總テ岩石ト混シタル沙洲ナルガ故ニ船ノ泊スヘキ處ハ河ノ右側ノミトス而シテ此右側ハ水深八尺乃至十尺底質泥沙ニシテ能ク錨爪ヲ爬入ス

江華島泊地ノ北ハ「タル」ヂ「洲」ノ伸延スルニヨリ川幅減縮セリ佛艦「タル」ヂ「號」ノ碇泊中船體ヲ運轉スルニ依テ此洲ニ乗リ上ケタリ然レモ別ニ損害ヲ蒙ラサリシト云フ其最モ深水ノ處ハ河ノ右側ニアリ故ニ航海者ハ皆河ノ右側ニ近接シテ通行スルナリ又鎮海門ト「ベ」ナセ「間」ナル灣ノ北ニ碇泊スルハ該灣ノ南ニ碇泊スルヨリモ可ナリ何トナレバ潮流ハ「ソ」リテ「ル」岬ヲ遠廻セシ後チ鎮海門南方ノ砲臺マテ半月形ニ激入スルヲ以テナリ尙ホ「タル」ヂ「洲」ノ東方ニ砲艦ニ適セル泊地アリ然レモ未タ驗測ヲ施サズ

江華島泊地ハ各方ノ風ヲ保障ス乃チ鎮海門近傍ナル村ノ右側ノ小山並ニ共

左側「ムンスサンツン」小山ハ西方ヨリ北東方ノ暴風ヲ防クヘシ
江華島泊地ヲ出帆シ河ヲ沂行セントスルハ「ソリテール」小山ノ最近地ヲ通
行シ又左側ノ邊ニ於テ河ノ通船ヲ妨クル所ノ岩石淺灘ヲ避クルカ爲メニ北
砲臺ニ到ルマテハ河ノ右側ニ沿フテ行クヘシ

潮信

江華島泊地ニ於テハ潮候時六時四十分ナリ乃チ勿淄島「ホイ」ニ比スレハ一時
二十分遅シ滿潮ノ時間ハ唯五時間ノミナリ滿潮時後二時及ヒ三時間ハ每時
潮流ノ速率約三里ト五分ノ四又干潮ニハ約二里ナリ潮ノ漲ル高サハ日月相
對スル時ハ約二十一尺六地球ノ日月ト直角點ニアルノ時ハ約十一尺四八ナ
リ然レトモ干潮ノ時ハ水面ノ漲ル高サ大概一ニシテ變セズ

添備品

「ベナゼ」門並ニ南砲臺ノ小村ニ在ル處ノ井戸ヨリ水ヲ汲ミ得ヘシ江華島ニ
於テハ鵜牛米及ヒ野菜多少アリ

京城ノ通路

江華島鎮海門ノ對面即チ陸岸ニ控海門アリ文珠城ノ西門ニシテ此兩門相扼
シテ漢江ニ入ルノ第三門ヲナス此間タ渡舟アリ往來日ニ織ルカ如シ控海門
ヲ過グレバ南墩町ニシテ文珠南門アリ蓋シ文珠山ハ江華島ト江ヲ狹テ對峙
ス朝鮮人ノ所謂文珠守ヲサレハ江華守ルヘカラスト曰フハ實ニ故アルナリ
控海門ヨリ文珠南門ヲ過キ行ク一里ニシテ通津府ニ至ル府内人家二百餘
此府ハ京城ヲ距ルコ凡十三里路幅一丈狹キモ五六尺ニ下ラス之ヲ通京ノ大
路トス

北砲臺ノ洲

此洲ハ北砲臺ヨリ北方約一里ト四分一ニ廣延セル岩石ノ一灘ナリ其西面ハ
泥沙洲ニシテ此岩灘ト江華島岸トヲ連絡ス此洲危險ニシテ船一タヒ之ニ乗
リ上クルハ容易ニ出ル能ハス故ニ航海者ハ北砲臺ノ對面ニ到レハ乃チ河
ノ左側ニ沿フテ行クヘシ

行船法程

北砲臺迄ハ船常ニ河ノ右側ニ沿ヒ河ノ左側ニ於テ容易ニ見ユル所ノ淡黒ナル嶮崖ニ向テ進ミ而シテ北砲臺ヲ南微西二分一西ニ望ムノ處ニ到レハ乃チ針ヲ北西二分一北ニ折リ河ノ左側ニ傍ヒ以テ北砲臺ノ岩灘ヲ避クベシ而シテ泥土ノ低岬ヲ約二百二十碼ノ距離ニ於テ通過シ再ヒ河ノ右側ニ近寄ルヘシ此岬ノ北ニアル「デルレット」洲ハ河幅ヲ縮減シテ其三分二トナス故ニ漢江口ニ入ランニハ曲路ヲ通行セザル可カラズ此邊右側ノ水深ハ少ナクモ一尋半乃至二尋ナリ此右側ニ於テハ砲艦容易ニ碇泊スルヲ得ベシ然レモ此處ノ潮流ハ其方向時々同シカラス低泥角ノ西北西「デルレット」洲ノ南ニ最モ便利ナル泊地アリ此洲ハ流勢ヲ支ユ又航路ハ河ノ右側ニアリ
漢江ニ入ラントスルノ船ハ「ジョアン」砲臺ヲ過クルマテハ河ノ右側ニ沿フヘシ己ニ茲ニ到レハ乃チ左側ニ近寄ルヘシ然レモ其間ノ航路ハ甚タ狭キカ故ニ注意航行スヘシ又江華島ノ北方並ニ南方ヨリ出ル所ノ二潮流ニ會スルカ

故ニ「デルレット」洲ノ近傍ニ生スル所ノ渦流中ニ航路ヲ取ラント欲セバ急速ニ通航セザルヘカラス
江華島ノ砲臺岬ト北方陸岸トノ間ノ河ハ許多ノ大ナル沙洲ニ擁塞セラル、モノニシテ其洲ノ間ニアル狭溝ハ水流甚タ急ナリ

砲臺岬ノ泊地

砲臺岬ノ附近ニ泊地アリ佛國ノ砲艦「タルヂ」號ハ十五日間此岬ノ北西ニ碇泊セシニ其錨鎖僅ニ流勢ヲ支フルヲ得タリ加之ニ砲臺岬ノ對面ハ船路甚タ狭クシテ船ハ滿潮時後二時間ヲ過クルニアラザレバ此狭路ヲ通航スル能ハス

項山島泊地ヨリ漢江口ニ至ルノ法程

此水路ヲ洋人「サリ」リ「ヴァ」リ「鹽河」ト名ツク然レモ是レ固ヨリ河ニ非ラス江華島ト大地ノ間ナル海峡ノ河狀ヲナセル者ナリ韓人ハ之ヲ内洋ト唱フ又漢江(ハンカン)ハ洋人之ヲ「セヨル」河ト呼フ按スルニ「セヨル」ハ韓語ニテ京城

ノ義ナリ上流ニ京城アルヲ以テ此名ヲ附セシモノナラン
海軍海圖第五十三號及ヒ第五十五號鹽河圖ヲ參觀スヘシ但シ此圖ハ佛ノ
測量ニシテ第五十三號ハ北堡砦以北第五十五號ハ「コード」堡砦以南ニ於テ
方向距離ニ大ナル謬誤アリ

項山島泊地ヨリ漢江口ニ至ルノ水路ハ陸岸ト江華島トノ間ニシテ河狀ヲ成
セル海峡ナリ此海峡ニ入ル前ニ草芝砲臺ノ角ト其東ノ大地トノ間ニ連亘セ
ル危険ノ岩礁アルヲ見ル此岩礁ハ三箇ニシテ西方ノ礁即チ草芝砲臺ノ角ニ
アル者ハ二頂ヲ有シ頂上各立標ヲ設ク滿潮時ニハ唯僅ニ此二頂ヲ露ハスノ
ミニシテ餘ハ皆水面下ニ沒ス干潮ニハ兩頂間ニ唯端舟ヲ通スヘキ淺狹ナル
水道ヲ殘シテ草芝砲臺ノ角ニ連結ス東方ノ礁即チ大地ニ近キモノハ滿潮時
後凡二時間ヲ經テ其頂ヲ露ハシ干潮ニ至テ其全體ヲ露ハシ泥堆ニ由テ大地
ト接続ス中礁ハ最モ低クシテ且ツ最モ大ナリ其最高部ハ滿潮時ノ後凡ソ五
時間ヲ經テ露出ス滿潮時及ヒ其前後四五時間ハ草芝角ト大地トノ間ハ廣キ

航路ノ如シト雖此潮ノ低下スルニ隨ヒ漸々岩礁ヲ露ハシ干潮ニ至レハ水面
ノ五分四ハ岩礁トナル故ヲ以テ潮流頗ル強ク通常ノ小汽船ハ平常ノ速力ヲ
以テ航過スルコト能ハス之ヲ通航スルニハ西礁ト中礁トノ間ヲ好シトス此水
道ハ干潮ノ時ト雖モ四五尋ノ水深アリ蓋シ中礁ノ未タ露出セサル前ニ非サ
レハ潮流甚タ強キヲ以テ此處ヲ航過スルコト能ハサルナラン航客能ク注意シ
立標ヲ距ルコト六十間餘ノ處ヲ迅速ニ航過スヘシ東礁ト中礁トノ間ハ水深シ
ト雖モ礁間ヲ過ルノ後ハ海底淺クシテ海峡ニ入ルヘキ水道ナシ西礁ト中礁
ノ間ヲ過クルノ後ハ水深一尋ト四分一乃至二尋ト四分一ノ水道アリテ海峡
ニ通ス

江華島ノ海岸草芝ヨリ北ハ砲臺相連リ寸地ノ空隙ナク守備嚴密ナルカ如シ
然レモ其壘壁ハ皆廢頽ニ屬シ之ニ備ヘタル砲モ亦皆粗造ナリ此草芝砲臺ハ
曩ニ我雲揚艦ヲ砲撃セシ處ナリ此北ニアル砲臺ニハ一樓門アリ題シテ鎮海
樓ト曰フ又其北ノ砲臺即チ「コード」砲臺ノ角ハ大地ノ角ト相對シテ海峡ノ門

口ヲナス此門口ハ屈折甚ク鋭尖ニシテ潮流激怒シ潮ノ干満ヲ論セス常ニ旋
渦アリテ航濟至難ノ處タリ此處ヲ航過センニハカメテ孫石頂角ニ接シテ航
シ此角ヨリ「キンシヤン」角ニ至ルマテハ大地ノ岸ニ沿フテ航スヘシ是レ江華
ノ岸ハ礁石多ク中流ハ潮勢強キヲ以テノ故ナリ「キンシヤン」角ヨリ北ハ大地
ノ岸ニ接シテ「キンシヤン」沙堆アリ故ニ江華ノ岸ニ沿フテ航進シ「スエンツン」
砲臺ノ下ニ至ラハ直チニ其北方大地ノ岸ニ向テ航進シ此岸ヲ距ル「半鏈」ノ
地ニ至ラハ「スツド」堡砦ニ向テ航進スヘシ「ボンゼリ」ノ前ニアル岩礁ハ滿潮
ニハ僅ニ其上部ノミヲ露ハシ餘ハ皆水中ニ潜伏ス故ニカメテ遠避シテ航ス
ヘシ又「スツド」砲臺ノ下ニアル暗礁ハ于潮前後ニハ波浪ノ激スルヲ見テ避ケ
得ベシト雖「滿潮」前後ニハ恐ルヘキ者ナリ海軍海圖第五十三號ニハ「スツド」
砲臺ノ東ナル大地ノ岸ニ大岩ヲ記シ又大岩ノ北方ニ岩石ヲ記セリ然レモ余
ハ曾テ之ヲ見サリキ又同圖ニ江華ノ岸ニ上陸所ト書シタル處ノ樓門モ亦鎮
海樓ナリ此ハ曩ニ我黒田井上兩公使ノ上陸セシ處ニシテ此ヨリ江華府ニ通

スルノ道アリ又其對岸ニ上陸所ト書シタル所ノ樓門ヲ控海樓ト曰フ即チ文
珠山城ノ門ニシテ門内ニ文珠山村アリ又此ヨリ京城ニ至ルノ道アリ
「スツド」砲臺ヨリ北砲臺マテハ江華ノ岸ニ沿フテ航シ北砲臺ヨリ北ハ中央ヲ
航スヘシ蓋シ北砲臺ノ北ナル大地ノ角ハ相距一鏈ノ處ヲ通航スルヲ得ヘシ
此角ヨリ北ハ大地ノ岸ヲ距ル「一鏈」乃至二鏈ノ處ヲ航シ海軍海圖第五十三
「ヨア」砲臺トノ間海岸ニ沿フテ東方ニ廻航シ「シヤノイン」島第五十三號圖「ジ
ノ沙堆」ハ現今ナシ海岸ニ沿フテ東方ニ廻航シ「シヤノイン」島第五十三號圖「ジ
ヲ過クレハ即チ漢江ニ入ルナリ」シヤノイン」島ト「シヨロン」砲臺ノ間ハ小船モ
尙ホ通スヘキ水道ナシ第五十三號圖ニ載セタル航路「シヤノイン」島ト海岸ト
ノ間ハ其距離ノ凡ソ三分一乃至四分一海岸ニ接近シテ航スヘシ然ルニアラ
サレハ此島ヨリ大地ニ向テ斗出セル暗礁ニ撞觸スルノ恐アリ
「ボテ、ナイ」直路
此直路ヲ以テ「セフル」河即チ漢江ノ第一直路トス鹽河ハ唯本流ノ南支ニシテ
江華島ノ北端ヲ過キテ黃海ニ注入スルモノナリ

此直路ハ泥角ヨリ漢江ニ注入セル長端河口ニ至ルノ間ニシテ其本水道ノ長サヲ大約十里トス

此區漢江ノ現時ノ海圖中ニハ錯誤甚タ多シ而シテ其重要ナルモノヲ「マ、デイ」島一名「シャ」及ヒ其南東端附近ニ在ル數危險礁脈ノ錯位トス特ニ其礁脈ノ如キハ島ヨリ殆ト南島ニ向ヒ約半里ノ間ニ擴延セルヲ現時ノ海圖中ニハ之ヲ該島ノ殆ト正東ニ置ケリ故ニ該礁脈ト陸岸トノ間ノ水道ハ海圖中ニ示セルヨリハ甚タ狹窄ナリ而シテ正サニ此狹窄水道ヲ標示セント欲セバ濱上ノ指導標ヲ用ヒ得ベシ

「マ、デイ」島一名「シャ」近傍ノ礁脈

一千八百八十四年八月十八日新月ノ前ノ低潮時ニ於テ該礁脈ノ諸處ニ數多ノ墨岩頂ヲ現ハセリ而シテ其本水道内ニ於テハ河水殆ト停止セリト雖モ該岩近傍ニ於テハ干潮流ノ勢力尙ホ甚タ強ク礁脈ヲ横キリテ北西方ニ流ル是レ恐ラクハ此時潮ノ爲ニ該河ノ北支流ト南河鹽河ト其水準面ヲ異ニセシニ

因ルナラン而シテ該岩ノ東方ニハ五尋ノ水深アリシ又其最外諸岩ニ接近ノ處ニ於テ左ノ諸方位ヲ取レリ

該礁脈ノ東部ヨリ「マ、デイ」ノ北端ハ北西四分一北ニ又同島ノ南端ハ西北西ニ方ル但シ艇舟ヲ其適當ノ位置ニ置クコト甚タ困難ナリシカ故ニ概測ノ方位ヲ以テ満足シ而シテ該艇ヲ最南諸岩ノ方ニ變移セリ此處ヨリ「マ、デイ」ノ北東端ハ北西微北ヨリ稍北ニ偏シ又同島ノ南西端ハ北西微西八分三西ニ方レリ此礁脈ハ「マ、デイ」ノ南東ニ於テ殆ト半里ノ間ニ擴延シ水道ヲシテ狹窄ナラシム依テ其好通路ハ濶サ僅カニ一鏈許ニ過キス

行船法程

漢江ニ入ラントスル者ハ「デルレット」洲ヲ廻行セシ後チ「シャ」ノ島ニ向進シ之ヲ少シク左舷ニ準眸シテ漸次ニ河ノ左側ニ近寄り而シテ此島ノ東岬ヨリ突出セル岩灘ヲ避クヘシ此通路中ノ河底ハ甚タ深シト雖モ不整ナリ又流勢強キカ故ニ此邊ニ碇泊スルコト能ハス

「シヤノイン」島ノ對面ナル陸岸ニ識別シ易キ茂樹ノ小山アリ之ニ向テ通行セシ後ハ河底減淺ス是レ他無シ陸地ヨリ伸出スル所ノ砂石ノ洲アルカ故ナリ但小岩ノ上ニ立標ヲ船此洲ヲ過クレハ直チニ河底ハ甚タ増深セシヲ見ル之ヲ以テ此洲ハ甚タ廣延セサルモノト思ハル又南側ノ河底モ甚タ深シ船ハ此南側ノ近傍ヲ通行スヘシ但シ此南側ハ嶮岨ナル岩山ナリ而シテ通船ニハ安寧ナルヘシト思ハル然レモ此側附近ノ孤岩ニ注意スヘシ又此孤岩ノ處ニ大ナル渦流アリ

前述ノ如ク通航スルニ於テハ陸岸ニ近寄ルニ從テ河底愈々深シ然レモ之ニ反シテ河ノ右側ハ砂ノ淺洲多クシテ「シヤノイン」島ノ北方通路ヲ障蔽スルカ故ニ之ニ近寄ル能ハサルナリ但シ此淺洲ハ滿潮ニ隱沒スルカ故ニ洲上朝鮮帆船ノ狹通路アリ是レ「グロトリア」岬ヨリ河ノ北側ニ傍ヒ人家繁盛ナル處ノ對面ノ好泊地ニ赴ムクベキ通路ナリト思考ス

南側ニ傍フテ通航スル時「カンチヨ」ト曰フ大村ニ着ス此大村ノ河側ハ灣ヲ成

シ其前面ハ常ニ帆船ニ便宜ナル泊地ナリ此處ヲ鍾測スルニ河底稍々深シ砲艦ハ潮流ノ勢力ヲ避ケンカ爲メ陸岸ニ直接スルニ於テハ便宜ナル泊地ヲ得ヘシ此泊地ヲ過キシ後右側ニアル花崗石ノ山ニ向テ通航スヘシ此山ノ斷崖ハ河ニ臨ミ前述ノ砂洲並ニ淺瀬ト接續シタル險惡岸脈中ノ東方岬ニ聳立ス船ハ滿潮流ノ方向ニ順ヒ斜メニ河ヲ渡ルヘシ然レモ未タ測量ヲ經サル左右ノ洲間ヲ通航スルカ故ニ深ク注意セサルヘカラス已ニ花崗石山ノ近傍ニ到レハ船ノ沿行セシ河側ニ伸出セル砂洲ノ端ヲ避クルカ爲ニ河側ニ近接シテ行クヘシ但シ此砂洲ハ東ヨリ西ヘ伸列スルモノナリ此洲ト河ノ北側トノ間ハ即チ「ボテユナイ」泊地ナリ

「ボテユナイ」泊地

船若シ河ノ右側ニ傍フテ通行スルキハ「ボテユナイ」小村ノ對面ニ達スベシ八百六十六年九月二十三日午後佛艦「タルゴ」號及ヒ「デルレット」號ノ此處ハ能ク錨爪ヲ爬入ス然レモ滿潮ノ初メ三時間即チ洲ノ水面ニ見ハルノ間ハ河ノ

右側ニ烈シキ流勢但シ毎時ノアルニ由テ安穩ナラス又此村ノ東岬ニ約一百十碼ノ距離迄突出セル大岩脈アリ但シ佛國艦隊ノ砲艦ハ流勢ヲ受ケサルノ泊地ヲ探索スルカ爲メ陸岸ニ沿フテ行ク時滿潮ニ乗シ此岩上ヲ通行セリト思ヘリ

添備品

「ボテユナイ」河側ハ傾斜シタル沙濱ナルニヨリ上陸スルコト容易ナラス此村ニテハ少量ノ野菜鶏肉等ヲ需メ得ベシ

潮信

「ボテユナイ」泊地ニ於テハ潮候時七時二十分ニシテ滿潮流ハ五時間ナリ但シ河水ノ終時ニ於テモ飲料ニ供スル能ハズ

「ソシ、ニウ、ガエ」礁脈

佛人ノ「ボテユナイ」錨地ト稱フル灣内ニ險惡地アリ濱ヨリ大約四分三ノ間該水道ニ向テ擴延ス其黑色數岩ノ頂ハ潮退クコト四分三ニ及ヘハ水面上ニ露出ス而シテ「ボテユナイ」峻壁ノ西大約二鏈ノ地ニ在ル一小山上ノ赤色ナル石崖地

ヲ北北東ト北北西トノ間ニ望ムノ地ニ到レバ此險惡地ヲ避ケンガ爲メ「ボテユナイ」峻壁ノ南端ヲ東微北ヨリ以東ノ方ニ望ム勿レ土人ノ小舟ハ低潮ノ時該峻壁ヲ距ルコト少ナクモ一鏈餘ヲ以テ度トナスガ如シ該岩石上ニ於テハ河流急ニシテ激烈ナル狂浪ヲ生ス而シテ此等岩石ノ若シ水面下ニ隠没シタルトハ宜シク濱上ニ指導標ヲ建設シテ以テ之ヲ避クベシ

行船法程

「ボテユナイ」ヲ出帆スル船舶ハ前文ニ述ヘタル洲ヲ廻行シ漸次ニ河ノ右側ヨリ東南東ニ赴ムクヘシ此ノ如クスレバ漢江ト長嶺河トノ間ナル廣キ港灣ニ達スルナリ但長嶺河ハ北東乃至南西ニ流布ス

此兩河ノ會流スル處ニ到リ土地ノ景況全ク變ス即チ「ボテユナイ」迄河ノ右側ニ接列セル花崗山ハ北方ニ遠サカリ河ノ兩側ニ豐饒ノ田圃アリ又處々丘陵ノ上ニ杉林耕田アルヲ見ル而シテ前ノ如キ花崗石ノ山稀ナリ河ノ兩側俱ニ低クシテ耕業ニ從事スル住民多シ

佛國艦隊ノ砲艦ノ再ヒ通行セシ航路ハ河幅ノ三分一ノ距離ニ於テ河ノ左側ニ傍フ處ナリ此航路中水深一尋半乃至二尋底質泥沙ノ處ニ好泊地アリ此左側ニアル「キオアニユ」村ノ對面ニ浮標アリ孤岩ノ上ニ設置ス此孤岩ハ陸岸ノ近傍ニアルカ故ニ容易ニ之ヲ避クルヲ得ヘシ而シテ後竟ニ河ノ最モ通航シ難キ處ニ達スルナリ此處ハ河ノ兩側ニ最モ長キ泥砂洲アルニ由リ其間ノ航路甚タ狭ク之ニ加ルニ其狭路中引水標トナルヘキ物ナキカ故ニ通航シ難シ爾來益々朝鮮京城ニ赴クノ通船繁盛ナルノ時ニ際シ必ラス此處ニ標的ヲ設置セサルヘカラス此處ニ於テ通航スルヲ得ベキ狭路ハ河ノ右側ニアレ此側ニアル不毛ノ小山ニ注意シテ之ヲ廻行スベシ但シ此小山ノ斷岸ハ河ニ臨ミ而シテ此山ノ下ニ意外ニ砂洲アリ佛國ノ砲艦「タルヂフ」「デルレト」ノ二號ハ二回此洲ニ乘リ上ケタリ航海者ハ之ヲ通航スルニ當リ鍾洞ノ水深少シク増スニ至レハ乃チ已ニ此難所ヲ過キシト知ルヘシ然ル後直チニ右側ニ近寄り而シテ南東方ノ河道曲折スル處ノ森林アル小山ノ對面ニ到ル乃チ其右側ニ傍

フテ通航ス可シ其後ハ「カンバオーイ」泊地迄河ノ横ニ列スル長キ砂洲ヲ避クルカ爲メ河ノ左側ニ近寄ルヘシ

「ソーマツク」直路

長崎河口ヨリ「マ、ウイ、ユム」嶼ニ至ル約九里ノ間ヲ「ソーマツク」直路ト曰フ該水道内ノ好通路ハ佛人ノ測量以來大ヒニ變更セシヲ以テ引水者ノ助ケアルニ非ザレバ之ヲ航スルヲ困難ナリトス而シテ佛國ノ航海報告ニ依レハ此區ノ航海甚タ困難ニシ砲艦ハ其上下兩航共ニ此地ニ膠着セリト言フト雖モ平時熟練ナル引水者ヲ雇フテ航スルハ膠着ノ懸念ナク砲艦ヲ上下スルヲ得ベシ一千八百六十六年ニ於テハ「ソーマツク」ノ對面ニ可航水道アリシモ現今ハ其中央ニ一大洲ヲ生シ其東側ニ唯一條ノ淺水道ヲ通スルノミ然ルニ其本水道ハ該河内ノ西堆ニ接シテ今尙ホ存在ス然リト雖モ其最新海圖ノ出版後ニ生スル該河ノ變易ハ其他ノ諸河假令ヘハ揚子江ノ如キニ於ケルヨリモ非常ニ少ナシ而シテ該河内ノ西堆上ニハ「サヤ」岩及ヒ「ソイヤ」ト稱フル岩礁此岩礁ハ從來海圖及ヒ

水路誌等ニ記
載セルヲ見ズアリ

「カム、バ、ウイ」泊地

此泊地ハ「カム、バ、ウイ」村ノ對面ニ在テ能ク錨爪ヲ受ク前述ノ長砂洲ハ延伸シテ河ノ半バニ及ベルヲ以テ立標ヲ建テ、之ヲ示明ス此標ノ南西約一百十碼ニ於テ底質泥沙水深二尋ト四分三ノ泊地ヲ得ベシ而シテ此泊地ハ「ボテユナイ」泊地ヨリモ便利ナリ然レモ滿潮ノ流勢ヲ受クルコト多シ

潮信

「カム、バ、ウイ」泊地ニ於テハ潮候時ハ七時五十分ニシテ滿潮流ハ三時三十分間ナリ

「ソン、ヤ」礁脈

此礁脈ハ大約一百十碼ノ間該水道ト直角ヲ成シテ延伸セル一石陂ニシテ南濱ノ「カム、バ、ウイ」ヲ距ル北西約一里ノ地ニ在リ其北東端最近ノ路ニヨリ各處ノ方向ヲ測リシニ「マ、ウイ、ユム」嶼ハ甚タ正形ナル一隔小山ノ頂巔ト直線ヲ成シ

テ南六十三度東ニ又該礁脈ノ殆ト對面ニ於テ濱岸ニ密接シタル赤色奇石崖ノ西面ハ南五十九度西ニ方レリ而シテ該礁脈ト「カム、バ、ウイ」トノ間ニ低潮ニ露出スル一大沙堆アリ現今ノ海圖水路誌中ニハ未タ此礁脈ヲ記載セズ而シテ其近傍及ヒ水道内ニハ殆ト常ニ強烈ナル駛潮アリ

「マ、ウイ、ユム」嶼

此嶼ハ滿潮ノ時四周ハ水ヲ以テ圍繞セラレ航海者ノ爲メ好目標タリ且ツ河ノ左側ニアル所ノ低キ砂山中ヨリ容易ニ之ヲ辨知スルヲ得ヘシ

金浦

金浦ニ郡廳アリ西方山ヲ帶ヒ東ニ面セル高所ニアリ山頂望遠臺ヲ設ク人家一百六七十戸アリ廳ノ東方二丁許ニ川流アリ是レ即チ漢江ノ支流ナリ岸上楊柳ヲ併植ス

行船法程

「カム、バ、ウイ」泊地ヲ出帆スルノ船ハ先ツ該泊地ノ洲ヲ廻行シ河ノ右側ニアル

絶險ノ樹林小山ニ近寄ルヘシ然ルハ河ノ左側ヨリ遠伸セル砂ノ大洲ヲ避ケ得ベシ此洲ハ滿潮ノ時ト雖水面ニ見ユ此處ニ於テ河流數支ニ分カル其中河ノ右側ニ傍フ所ノ支河ハ廣ク廻曲シ金浦ノ市街ニ接行シ小帆船ノ通行シ得ヘキ處ト思ハル此支河ノ入口ニ浮標アリ而シテ此支河ノ左側ニ水ノ黒色ナル處見ユ即チ「マ、ウイ、ユム」嶼ナリ

「マ、ウイ、ユム」嶼ノ北々東ニ列續スル不毛ノ小山近傍ニ到ル迄ハ常ニ河ノ右側ニ沿フテ航スベシ此小山ノ下ヨリ河ノ中央ニ向ヒ約一百碼ヲ距ル處ノ孤岩ヲ避クルカ爲メニ此小山線脈ノ西方岬ヨリ之ニ遠サカリテ行クヘシ此孤岩ハ滿潮ノ始メヨリ水上ニ見ヘサルカ故ニ甚タ危險ナリ此危岩ヲ過キシ後ハ成ル可ク河ノ右側ニ接近スルヲ要ス但シ距岸五十碼此ノ如ク航行シテ約一里半ヲ過クレハ乃チ河ノ左側ニアル六株ノ小樹ヲ見ル是レ好目標タリ此小樹ノ對面ニ到リ稍左側ノ沙洲ニ近寄り凡一里ヲ行クヘシ然ルハ河ノ曲折セル處ニ到ル此處甚タ通行ニ困難ナリ

河ノ左側ニ竹一本ヲ樹ツ此側ニ傍フタル洲ノ端始ヲ示スモノナリ然レモ船ハ此洲ヲ避ケントシテ右側ニ近寄ルヘカラス何トナレハ右側ニモ亦大洲アレハナリ此大洲ノ中央ニハ浮標アリ然レモ尙ホ船此洲ニ上ルコノ危險ヲ避ケントスルニハ滿潮ノ時ニノミ此狹路ニ入ルヘシ而シテ引水者ノ代リニ渡船ヲ備ヒ前導セシムヘシ河ノ右側ニ傍フテ通行スルハ「サク、コル」泊地ニ着スルナリ

「サク、コル」直路

「マ、ウイ、ユム」嶼ヨリ「パン、マル、サム」嶼ニ至ル大約四里半間ヲ「サク、コル」直路ト曰フ其好通路ニ近ク「イミヤ」ト稱フル一大岩アリ此岩ハ英海軍海圖中ニハ之ヲ記載セズト雖モ佛版海圖ニハ「イツリ」岩ト稱ヘ之ヲ掲載セリ

「サク、コル」泊地

此泊地ハ漢江口以内ニ於テ最モ良便ナル泊地ナリ其北西ニ不毛ノ黒色小山アリ此山麓ニ孤石アリ孤石上ニ標ナキカ故ニ河ノ左側ニ近寄ル船ハ危險ナ

リ泊地ハ河側ヨリ一百六十碼ヲ距ル處ニアリ底質泥沙水深二尋ト四分三ニシテ滿潮ノ流勢烈シカラス又之ヨリ河側ニ近寄レハ水俄カニ減淺ス
「サクコル」村ニ美景ノ丘陵アリ北ヨリ南東迄樹木連茂シ此村ノ界ヲナス村中田圃多シ又耕作併ニ菓樹ノ繁植セル好圃河側迄廣延ス
添備品

此村ニ於テ野菜鳥獸菓物等ヲ得ヘシ
潮信

「サクコル」泊地ニ於テハ潮候時八時四十五分ニシテ滿潮流ハ三時十五分間ナリ

「イミヤ」岩佛稱「イソリ」岩

此岩ハ好通路近傍ニ在ルモノニシテ佛國ノ水路誌中ニハ不充分ニモ尙ホ之ヲ記載セリト雖モ英海軍海圖第一千二百五十八號中ニハ絶テ之ヲ載セズ而シテ此岩近傍ノ北濱ニ於テ一岬形ヲ成セル多樹ノ二山嘴ハ大約四分里ノ一

ヲ隔テ、北八十六度西ト南八十六度東トノ方向ニ於テ相對ス又該岩ノ最高部ヨリ前記山嘴ノ南東端東「イミ」壁ハ北二十度東ニ該山嘴ノ南西端西「イミ」壁ハ北八十度西ニ方ル○此岩ハ距濱大約半鏈ノ處ニ在リテ潮退クハ大約四分三ニ至レバ水面上ニ露出ス而シテ其最高部ヨリ水道ノ方ニ向ヒ大約十六碼半ノ間ニ延伸セル石陂ハ低潮ノ時半水面上ニ露出ス故ニ該北濱ヨリ約一鏈以内ノ地ニ接近ス可カラス○該水道内ニ於テハ殆ト常ニ強烈ナル駛潮アルヲ以テ該岩ノ水面下ニ隱沒セルトハ之ヲ識別スルニ甚タ難シ然リト雖モ其好通路ヲ指導スベキ目標ヲ濱上ニ建設スルハ甚タ容易ナリ又該峻壁ノ近傍ニ深サ五鏈乃至七尋ノ一深處アリ
行船法程

「サクコル」泊地ヲ出帆スル時ハ河ノ左側ニ傍フテ通行シ此泊地ノ南東ニ在ル孤岩ヲ過キ而後河ノ左側ノ最近ニ通行スヘシ此孤岩ハ滿潮ニ隱沒ス左側ヨリ約八十七碼ヲ距テ、通行スルニ於テハ許多ノ淺灘ヲ避クルヲ得ヘシ尙ホ

河ノ左側ニ見ヘ「バンマルツム」ト呼ヘル孤立島ヲ過キシ後ニアラサレハ航路ヲ改ムヘカラス但シ此島ノ岸ハ險阻ナリト思ハル之ヲ過キシ後ハ「タブサン」ナル小山ニ向ヒ之ヲ遠望シテ行キ徐々ニ河ノ右側ニ近寄ルヘシ此小山ノ頂ニ美麗ナル墓碑アリ容易ニ識認スルヲ得ベシ此小山ノ下ニ到ラサル前ハ「ヘインジ」ト言ヘル大村ノ對面ヲ通行ス此村ハ河側ニ接列シタル花崗石嶽ノ端末ニアリ此嶽ニ傍フタル處ハ水深約二尋半乃至四尋餘アリ帆船ノ多ク此處ニ碇泊セルヲ以テ考フレハ蓋シ此處ハ安穩ノ泊地ナラン

船ハ此嶽ノ最近處ヲ通行シテ之ヲ過キタル後ハ一小河口ノ對面ニ到ルベシ此小河ノ漸積シタル小砂洲アリ之ヲ避クルニハ河ノ中央線ニ近寄り「シヨニユ」村ニ接スル所ノ不毛ナル小山ニ向テ進ムヘシ此村ニハ朝鮮都府ノ住人ノ別荘多シ小山ノ對面ナル河側ニ廣キ溝アリ其見ル所ハ河ノ如クナレトモ河ニアラス此溝口ノ沙洲ヲ避クル爲メ「シヨニユ」ノ小山ト「タブサン」ナル墓碑ノ小山トノ間ヲ行クヘシ然レモ此處亦河ノ兩側ニ淺瀬アルカ故ニ總テ河ノ中央

ヲ注意通航スヘシ墓碑ノ小山ノ前ニ小島アリ此小島ヲ過キシ後ハ河ノ左側ニ接スル所ノ小山ニ向ヒ通航スヘシ此小山ハ甚タ高カラス其次ニ「ユンチャ」泊地アリ

「ツォフル」直路

此直路ハ「バン、マル、サム」嶼ヨリ「ツォフル」島ノ南東端ニ至ル大概十里ノ間トス但シ「ツォフル」島ハ「アレ、タグイン」近傍ノ「フールス」河ト佛人ノ「ラグー」ト稱フル北濱ノ一河ト相會スルノ處ニアリ

海圖中ニハ精密ニ此直路ヲ掲載セザルモノ、如クナリト雖モ之ヲ以テ航用ニ足レリトス何トナレバ此區ノ河中ニ在ル濶大ナル沙堆ハ動モスレバ變化シ易キカ故ニ該河圖ノ今日ニ於テ正確ナルモ數月ヲ經バ恐クハ不正トナラシ然ルニ勞力ヲ費ヤシ財ヲ抛チ時ヲ消シテ綿密ナル測量ヲナスハ到底徒勞ニ屬スルナリ故ニ其最新海圖ヲ得ントスルヨリ寧ロ此地ニ於テ容易ニ雇ヒ得ベキ熟練ノ引水者ヲ使役スルヲ以テ策ノ宜シキヲ得タルモノトスベシ「ツォ

フル島ノ北西端及ヒ南端近傍ニ該河中ノ最淺處アリ而シテ舊海圖中ニハ、パ
ン、マル、サム、嶼ノ位置正シカラズト雖モ附圖中ニハ殆ト正確ニ之ヲ掲載セリ
「ユンチャン」泊地

此泊地ニ達セサルノ前ニ河底ヲ鍾測スルニ三尋ト四分一乃至四尋半底質泥
沙ナルカ故ニ碇泊スルニ宜シ然レモ「ユンチャン」泊地ハ其近傍ニ人家アルヲ以
テ此泊地ニ碇泊スルヲ可トス但シ此泊地ニ於テハ河ノ左側陡岸ニシテ右側
ハ淺瀬多ク其間甚タ狭シ故ニ碇泊ノ砲艦ハ船體ヲ運轉スルノ場所ナシ若シ
此所ニ碇泊スルハ左側ハ水深クシテ流勢弱キカ故ニ成ルヘク左側ニ近寄
ルヘシ而シテ此處ハ河側斷岸ナリ而シテ渡船一艘ヲ用ヒ河側ヨリ約三十三
碼ノ距離ニ於テ「ユンチャン」ノ小山ヨリ「ボチユ」ノ小山ニ至ル迄河側ニ平行シテ
鍾測セシニ水深二尋ト四分三以上ヲ得タリ
滿潮ノ時間二時半ヲ過キサルモ此處ニ於テハ河側陡險ナルカ故ニ流速凡四
里ニ及ヘリ佛國砲艦「デルレット」號ハ此泊地ニ碇泊セシ時船尾ヨリ二個ノ錨ヲ

投捨セシト云フ

「ユンチャン」ハ京城ヲ距ル三里ナルカ故ニ此泊地ヨリ都城ノ胸壁ヲ遠望スルヲ
ヲ得ベシ但シ此胸壁ハ廣輪ニシテ山頂迄連續ス

潮信

「ユンチャン」泊地ニ於テハ潮候時九時ニシテ滿潮流ハ二時四十五分間ナリ

行船法程

「ユンチャン」洲ハ河中最後ノ難所ナリ船ハ此洲ヲ避クルカ爲メ「ユンチャン」泊地ヨ
リ南東四分三東ニ向ヒ京城外郭ノ街前ニアル小山ヲ以テ孤立樹ノ小山ヲ隱
蔽スヘキ様ニ準睥スル迄ハ此針路ヲ保ツヘシ孤立樹ノ小山ノ對面ニ至ル迄
水深概テ十尺乃至八尺ナリ尙ホ外郭街前ノ小山迄ハ前ノ如ク水淺シ此小山
ノ對面ニ到リ泊地アリ其水深二尋ト四分三或ハ三尋ト四分一ニシテ底質ハ
泥沙ナリ

「マボ」直路

此直路ハ「ツキフル」島ト「ヨンサン」附近ノ埠頭トノ間ヲ曰フ但シ「ヨンサン」ハ京城ヲ距ル最近ヲ約三里ノ河岸ニ在リテ此間ニ最好ノ道路ヲ通ス而シテ現時ノ海圖中ニハ京城其他一千八百六十六年ニ於テ佛國砲艦ノ膠着セシ一岩佛人此ハ之ヲ「マトタル」岩ト曰フ土ノ位置ヲ大ヒニ誤レリ是レ蓋シ土人敵對ノ爲メ測量ヲ施スコノ困難ナリシニ因ルナラン而シテ該岩ノ改正位置ハ當稅關ニ於テ編製セル海圖ニ就テ知ルヲ得ベシ

該直路内「ソングイ」附近水深四尋乃至七尋ノ處ニ便宜ノ錨地アリ又「ソングイ」及ヒ「ヨンサン」間ノ峻壁ニ接シテ十八尺乃至二十尺ノ水深アリ此間多クノ船隻ヲ寄スルニ適當ノ埠頭即テ除波杙ヲ延長スルニ充分ノ餘地アリト雖モ冬期中ハ一時此埠頭ヲ除去セザル可カラズ何トナレバ此埠頭ヲ除去セズ或ハ之ヲ堅牢ニ築造スルニ非ザレバ冬期中氷ノ爲メニ破損スベケレバナリ

「マトタル」岩 佛稱「タル」

此岩ハ北濱ヨリ河幅ノ大約三分一ヲ距ルノ處ニ在ル一大岩ニシテ楊華渡ノ

峻壁ヲ成セル凸出二角ヲ距ルコト俱ニ相同シ但シ此等ノ二角ハ約四分里ノ一ヲ隔テ、北七十七度西ト南七十七度東トニ相對ス蓋シ該岩ハ往時佛國ノ砲艦「タル」「タル」號ノ此地ニ碇泊中廻轉スルルニ乗上ケ滿潮ノ時マテ止マリタルモノニシテ其長サ約一百六十四尺幅約二十六尺四周陡界ニシテ低潮ノ時ハ其上ノ水深ヲ三尺乃至四尺トス該岩ノ正南大約十六尺ヲ距ルノ處ニ錨泊セル一艇ヨリ各處ノ方向ヲ取リシニ楊華渡峻壁ノ南西端ハ北五十度西ニ又揚華渡峻壁ノ南東端上ニ在リテ上ニ一叢林ヲ有セル顯著壁ノ南端ハ北七十度東ニ方レリ而シテ此岩ノ各側ニ可航水道アリ其北側ニアルモノハ河水較深キヲ數尺ナリト雖モ其南側ニ在ルモノハ較、澗大ナルヲ以テ土人ノ艇舟ハ大概子之ヲ用ユ而シテ近時出版ノ海圖中ニハ往々此岩ノ位置ヲ誤レルモノアリ

楊華津

楊華津ハ漢江ノ渡頭ニシテ之ヲ過キテ東ニ行クハ京城ノ南大門ナリ此邊河

ノ幅六町許ニシテ西岸沙洲ナリ江水ハ潮ノ干満ニ從フテ上下シ流勢急激ナ
 ラス舟梁ヲ架スルニ適ス西岸ハ東岸ニ比スレバ人家少ナシ土民河水ヲ汲ン
 テ飲料トス

又上流七八町ニ渡頭アリ三蓋渡ト曰フ東岸帆檣林立人家頗ル稠密ナリ楊華
 津ヨリ京城ニ至ル大約一里半ノ間ハ丘岡連綿陸路凹凸ニシテ平地少ナシ
 潮信

楊華津ニ於テハ潮候時九時三十分ニシテ滿潮流ハ三時間ナリ

「マボ」直路ノ上部

該河ハ「ヨンサン」ノ馬頭ヨリ殆ト一里ノ間南方ニ向ヒ水甚タ淺ク某期節中(低
 潮ノ時)ハ徒涉スルヲ得ベシト雖モ現今ニ於テ該河内平均ノ水深ヲ以テ考フ
 ルハ平時ハ高潮ノ時吃水十尺乃至十二尺ノ船隻ヲ通スベシ又「ヨンサン」ノ
 殆ト正南大約一里ヲ距ルノ南岸ニ「カチル、モ」ト稱フル處アリ此地ニ於テハ數
 多ノ艇舟及ヒ舢舨ヲ造營ス而シテ該河ハ此處ヨリ折レテ殆ト三里ノ間偏南

東ニ向ヒ其水深ハ一ナラズ二尋ヨリ六尋ニ至ル該直路ノ兩岸ハ人口多ク好
 ク耕作ヲ施セリ殊ニ其南岸ニ於テハ大小ノ村落多シ又該河中往來多キ渡頭
 ハ「ノ、トル」ニ在リ此地ニハ一殿堂アリ此直路ハ一尖曲處ニ於テ盡キ夫ヨリ大
 約一里ノ間北方ニ向走ス此地ノ好通路ハ淺水ニシテ水道屈曲セルヲ以テ此
 處ヲ航セント欲スル者ハ先ツ該地方ヲ熟知セザル可カラズ該曲處ノ北岸ハ
 廣大ナル一底沙堆ニシテ其上ニ河水ノ氾濫スルヲアリ又此地南岸ノ一小溪
 ト北濱トノ間ニ往來多キ渡頭アリ○北岸ノ一要地ナル「チャイ、ブン、ゴ」附近ノ水
 道ハ通例河ノ中流ニ在リ而シテ此河ハ該處ヨリ大約三里ノ間北東ニ走り甚
 タ廣濶トナリ一大沙島ヲ圍繞ス但シ此島ハ大雨後ニハ屢々水面下ニ沒スル一
 島ニシテ東方及ビ南方ニ向テ尖出シ沙堆ヲ成ス而シテ此河ハ此等ノ濶大沙
 堆ノ東ヨリ折レテ南東ニ向フ

日本形ノ艇舟ハ「ア、クウイ、トン」ノ急湍ヲ航上スルヲ得ス故ニ其上流ト定期ノ
 貿易ヲ爲スモノハ爲メニ平底ナル長艇ノ設ケアリ但シ急湍ヲ遡行センニハ

網ヲ以テ牽カサル可カラス而シテ該沙島以北ノ水道ハ甚タ淺水ニシテ其北岸ニハ「トッモカ」及ビ「ムスマンク」ト稱フル二大貿易場アリ此處ニ於テ西岸ノ陸地ハ共ニ好ク耕作ヲ施シ數多ノ渡船ニ依テ兩岸ノ貿易甚タ盛ナリ又該河ノ航通ニ適當ナル艇舟ハ夥多ノ貨物ヲ其上流ニ運搬シ材木ノ筏ハ河ヲ下ルヲ目撃セリ○近頃ノ洪水ハ處々堤岸ヲ坍塌シ又其他ノ處ニハ夥シク淤泥流沙ヲ止メ積長増大其高サ耕地ノ處ニ及フモノアリ

本地ノ引水者ニ就テ之ヲ質スニ該河中ニ在ル數多ノ沙泥堆間ナル諸水道ハ特ニ強雨ノ後時アリテハ河水ノ平常ヨリモ約十或ハ晝夜平分時ニ起ル颯風ト大潮時ト合スル際或ハ一千八百八十四年七月廿五日ノ如ク新月後第三日ヲ經テ朝鮮ノ西岸ニ暴吹セル大風ノ大雨ヲ交ヘタル時ニ當リ屢々其變遷スルコアルヤ確實ナリ

以上漢江内ノ大略ヲ記載セリ而シテ是ヨリハ該江口ノ南方ニアル「マリフエ」ル「テニ」及ヒ皇子ノ兩叢島其他「イムベラトリス」及ヒ「プリンズ、ゼローム」兩

海灣ノ前面ニ散在セル數多ノ島嶼ヲ記載スベシ但シ此等無數ノ島嶼列岩間ノ諸水道ハ鹽河ニ達スルノ本航路ヲ成セルモノニシテ當時洋紀一千八百八十三年尙ホ英艦ノ驗測中ナリ

「フエリールス」列嶼海軍海圖第一千二百五十八號ヲ參照スベシ

此列嶼ハ四個ノ小嶼ヨリ成レルモノニシテ皇子叢島ノ南西方ニ位シ共ニ耕地及ヒ住民ヲ有セズ

北西岩

此嶼ハ該列嶼中ノ北西ニ位セルモノニシテ宛モ二嶼ノ如ク見ユト雖モ低潮ニ露出スル所ノ一石陂ニ依テ互ニ相連絡シ全ク一個ノ嶼ナリ而シテ其西部ハ多岩且ツ不齊ニシテ高カラズト雖モ其東部ハ形テ正シク水際陡ニシテ海面上九十八尺ノ高サアリ

北東岩

此岩ハ形テ正シク最モ大ニシテ該列嶼ノ中央ニ位シ其高サ一百七十九尺ア

リ而シテ該岩ノ東約九鏈ヲ距ルノ處ニ一沈岩アリ
南岩

此岩ハ漸次高起シテ圓錐形ヲ成シ約一百十三尺ノ高サニ達ス而シテ其頂巔
ヨリ西ノ方相距六鏈ノ處ニ大低潮ノ時水面上ニ露出スルコト二尺ニ及ベル一
沈岩アリ概位北緯三十六度五十九分東經又南岩ノ西方四里ヲ距ルノ處ニ水
深十四尋ノ地アリ

行船法程

支那海ヨリ朝鮮西海岸ニ到ル際第一ノ目標トスベキモノハ此列嶼ナリ一千
八百六十六年佛國ノ支那海艦隊ハ支那芝罘ヲ拔錨シ朝鮮ニ赴ムクヤアルセ
スト島ニ向テ直航シ夫レヨリフェルリールス列嶼ノ位置ヲ驗測センカ爲メニ
東微南二分一南ニ向テ直航セリ但シ芝罘ヨリフェルリールス列嶼ニ至ルノ距
離ハ約二百里ナルニヨリ芝罘ヲ早朝拔錨スルルハ其翌日午前ニフェルリール
ス列嶼ニ到達スルヲ得ヘシ而シテ日暮前或ハユゼニ一島ノ錨地ニ着スル能

ハサルモ必ラス豊島洋名「フェル」ノ錨地ニ達スルヲ得ヘシ

朝鮮ノ引水者ノ言ニヨレバフェルリールス列嶼ノ北方航路ハ南方ノ航路ヨリ
安寧ナリト但シ此列嶼中ノ最東ニアル島ヨリ東約一里ニ一坐ノ嶼アルヲ遠
望セリ然レモ該嶼ハ此列島ニ赴ムクノ航路外ニアルヲ以テ航海者ノ注意ヲ
要セス

大洲

「フェルリール」ス列嶼ヲ經過スルノ後チ俄然水色變シテ淡黒トナリ海底ノ淺キ
ヲ顯ハセリト云フ即チ此大洲ナリ該嶼ノ南半里ノ處ニ於テ之ヲ鍾測スルニ
水深約十二尋ナリ引水者ノ説ニ據レバ此處ニテ發見シタル大洲ハ遠ク北方
ニ伸ヒ且ツ漸次ニ海岸ヲ離レフェルリールス列嶼ヨリ較遠ク海方ヘ延伸セリ
ト蓋シ此邊ノ水面ハ滿潮ノ時ハ甚タ高シ是レ即チ此洲ノアルニ由テ然ルナ
リ此洲ハ海岸ニ沿フテ大ナル壁ノ如ク現ニ支那北直隸灣ノ諸港ニ於テ此海
岸ト同様ノ風ヲ受ケ且ツ潮ノ干滿モ亦同様ナリト雖モ水面ノ高サハ此海岸

ニ比スレバ三分ノ一ニモ及バザルナリ
 此洲ノ海方へ伸出スルノ遠近ハ確定スルコトヲ得サリシカ「フェルリールス」列嶼
 ヨリ遠ク伸延スルコトナシト思ハル、ナリ而シテ此洲ノ廣狹ヲ推知スルニ足
 ルヘキモノハ獨リ英艦「ローナ」號艦長ノ公示ノミナリト云フ即テ該艦長ハ「フェ
 ルリールス」列嶼ノ北方ニ於テ漢江ノ入口ヲ探索セシニ竟ニ此洲ニ乗リ上ケ
 タリ此時艦ノ位置ヲ測リシニ北緯三十七度二十分東經一百二十三度十二分
 ニシテ且ツ其洲上ニ於テ探錘セシニ水深約三碼ナルコトヲ告示セリ
 洋紀一千八百八十五年九月獨逸海軍水路部告示第三十七號ニ曰ク獨逸國
 ノ軍艦「ナウテイラス」號ノ艦長「アッシエンボルン」ノ報知ニ據レバ海圖上ニ示ス
 濟物浦航路中「フェルリールス」列岩ノ西南西ヨリ約二十四海里ノ處ニ在ル有
 無未詳ノ一淺灘即チ疑問點「ヲ記載セル處ハ其淺灘ニ非ザリシコトヲ今嚴
 發見セリ而シテ其處ノ水深ハ約三十六尋六十六米突ナリト海軍海圖第一二
 第一千八百九十五號及ヒ英海軍海圖

潮信

滿潮ハ始メ北西ヨリ流レ漸々西ニ回流シ殆ト南ニ落ツ干潮ハ始メ北東ヨリ
 流レ東ニ回流シ毎時二里ノ速率ニテ南ニ落ツ而シテ大潮漲ハ大約二十尺ナ
 リ

皇子叢島

此叢島ハ「デセブション」灣ノ北及ヒ牙山灣ノ西即チ「フェルリールス」列嶼ノ北東大
 約八里ノ地ニ散在セル數多ノ島嶼及ヒ列岩ニシテ其最モ南ニ位セルモノヲ
 「キウン、バイ、フール」及ヒ「シヨ、バイ、フール」トス而シテ該叢島内諸島間ノ水道ハ
 未ダ之ヲ驗測セズト雖モ「フェルリールス」列嶼ノ南岩ト水深島洋名「タタ」ノ南東
 八里ニ在ル一小島「エル子スト」島トノ一線以南即チ前記叢島南面ノ地ハ深水
 ニシテ無礙ノ好水道ヲ成ス而シテ該叢島ト「チアセリアウ」堆トノ間及ヒ豐島洋名
 「フド」島トノ北ヨリ鹽河口ニ至ルマデノ水深ヲ五尋乃至十尋トス
 皇子叢島ノ近傍ニ於テハ朔望ノ潮流甚々急速ナルヲ以テ此地ニ航スル所ノ

船舶ハ大ニ警戒ヲ加ヘザル可カラズ
 一千八百六十六年佛國支那艦隊ノ記事ニ據レバ黃海ヨリ來ル時ニ當リ「フェル
 リールス」列嶼ヲ遠望セザルノ前ニ海面上ニ三角形ノ山峯二座抽出スルヲ見
 ル是レ即チ皇子叢島ニ屬スル所ノ島頂メリ其始メ望ム所ノモノハ「シユンジョッ
 プ」島ト稱スルモノナリ此島ハ極メテ峻嶮ナル三角形ニシテ其腹部ハ稜々ト
 シテ其峯邊ハ利刃ノ如シ次ニ望ム所ノモノハ「シヨバイヨール」ト稱スルモノナ
 リ此島ハ「シユンジョッ」島ノ右方ニ見ユ其形狀ハ「シユンジョッ」島ヨリモ整齊ニシ
 テ其頂ハ圓巖ナリ遠ク之ヲ望メバ扣鈕ボタン或ハ圓形ノ屋蓋ニ似タリ而シテ漸ク
 進ミ「フェルリールス」列嶼ヲ遠望スルノ處ニ至ルト雖モ此二島ハ猶ホ未ダ其麓
 脚ヲ露見セザルナリ

「チャツセル」プ、ロー「バット」島一名「シヨバ」

此島ハ「フェルリールス」列嶼ヲ距ル東北東大約八里ノ地ニアリ其形狀甚タ不齊
 ニシテ耕作地及ヒ住民ヲ有セズ島内ニ二高峯アリ其北ニ在ルモノハ高サ約五

百尺英海軍海圖第一千二百五十八號其南ニ在ルモノハ高サ五百十三尺アリ
 而シテ島ノ南東端附近ニハ數多ノ斷崖アリ○島ノ北方ニ位スル諸島ハ其狀
 勢大概該島ト相同シク荒蕪且ツ無人ノ高島ナルモノ、如シ

「リゴール」デ、ゼノイリ「島」一名「シウ」ウ

此島ハ「シヨ、バイ、ヨール」島ヲ距ル東北東大約五里ノ地ニ在ル不齊形島ニシテ
 島内數峯アリ其最モ高キモノハ高サ八百十六尺英海軍海圖第一千二百五
 十七十八アリ而シテ島ノ南端ハ陡界ナリ○該島ノ南端ヲ距ル南微東約一里ニ
 低潮ニ露出スル一岩アリ

水深島洋名「タク、
 チエク、ト」

此島ハ皇子叢島中ノ最大島ニシテ「シヨ、バイ、ヨール」島ヲ距ル北北東十里ノ地
 ニ在リ而シテ其廣袤ハ大約五里ニシテ島内樹木繁茂シ且ツ耕作ヲ施セリ
 「モーラク」島

此島ハ皇子叢島中ノ最北島ニシテ東西長サ約一里半幅半里ナリ

淺灘

「モ」ラク島ノ北西角ヲ距ル西二分一南四里ノ處ヨリ南方ニ向ヒ若干距離ノ間ニ擴張セル一淺灘アリ概位北緯三十七度五十七分東經一百二十五度五十六分灘上ノ水深ハ低潮ノ時僅ニ一尋ナリ又該島ノ頂巔ヲ距ル北西四分一西ノ方六里四分三ノ地ニ於テ一尋ト四分三ノ水深ヲ得タリ

一尋半堆

此堆ハ「モ」ラク島ノ頂巔ヲ距ル東微北四里ノ地ニ在リテ水深島ヨリ「ウ」イットホール群嶼ニ向テ擴張セル淺灘ト連接ス而シテ此堆ハ「モ」ラク島ノ方ニ向テ著シク延伸セルモノ、如シ

秃俠島洋名「ラビト」一名「ジュリエン、デ、ラ、グ、ラ、ウ、イ、ル」

此島ハ南北長サ約二里幅一里ノ一島ニシテ「モ」ラク島ヲ距ル南西微南殆ト四里ノ地ニ在リ

「サ、ヲ、サン」嶼

此嶼ハ秃俠島ノ南西角ヲ距ル西微北四分一北二里半ニ在リ其高サ八十五尺ニシテ概位置ヲ北緯三十七度十二分四分三東經一百二十五度五十五分四分一トス

「チャツセリアウ」堆

此堆ハ「ブレ」ト「ン」列島ヨリ北方ニ向ヒ「チャツセリアウ」列岩低潮露出スニ至リ夫ヨリ東方ニ折レ大約五里ノ間「ブ」ガスト島ノ方ニ向フ其幅平均約一里半ナリ而シテ該堆上兩端ノ水深ハ僅ニ六尺乃至九尺ナリト雖モ其西側近傍ニ於テハ十二尋乃至十五尋又其東側近傍ニ於テハ十一尋乃至十二尋ノ水深アリ之ヲ以テ推スルハ該堆ノ各側共ニ陡界ナルカ如シ○此堆ハ「カ」ロリン及ヒ「デ」セブシオンノ兩灣ヲ遮護シ陸岸トノ間ニ廣サ大約二里水深十二尋餘ノ一水道ヲ成シ其錨地ヲシテ安穩ナラシム

「エル」子スト島

此島ハ「チュ」ー「ブ」島ノ南方一里半ヲ距ルノ地ニ在ル一小島ニシテ高サ約二百

尺アリ

「ジョーアン」島

此島ハ「エル子スト」島ト「チューブ」島トノ間ニアリ其高サハ未ダ確測ヲ經ザレモ「エル子スト」島ヨリ高カラザルガ如シ而シテ其廣サハ僅ニ之ヨリ大ナリ

「チューブ」島

此島ハ「アドルフ」島ノ西方一里ニアリ其長サ東西約一里半ナリ島内二山巔アリ其高キモノハ五百九十尺ナリ

「ソーヘン」島一名「メクエット」島

此島ハ東西長サ約半里高サ約二百二十八尺ノ一島ニシテ豊島ノ北端ヲ距ル西北西大約三里ノ地ニ在リ而シテ島ノ最高巔ハ殆ト島ノ中央ニアリ

「アドルフ」島一名「シヨイチューブ」島

此島ハ「ソーヘン」島ノ北方一里半ニ在リテ較大ナリ而シテ其西端ニ一巔アリ高サ約三百尺島内住民アリ

行船法程

南方ヨリ撻河ニ入ル者ハ「フェルリール」列嶼ノ南嶼ヲ北ニ望ミ東北東ニ進ミテ「シヨバイヨール」島ヲ距ルコト約一里ノ處ヲ經過シ「チャツセリアウ」堆ヲ避ケテ「ソーヘン」島ト豊島トノ間ナル水道ノ中央ニ船ヲ導ヒクヘシ但シ「フェルリール」列嶼ノ南嶼ハ針路ヲ東北東ニ轉スル時ニ於テ著シキ好標タリ乃チ此南嶼ヲ北ニ望ムノ處ニ到レハ此島形ハ大ニ變シ峽谷ヲ以テ相分離セル谷口ノ殆ト水涯ニ至ルカ故ニ方向ヲ東北東ニ變スルノ最好目標タルナリ

此南島ヲ經過セシ後約十里間ハ水深同一ナリ然レモ「シヨバイヨール」島ヲ北西ニ望ムノ處ハ水深俄カニ減シテ四十二尋ヨリ二十一尋ニ變スルニ至ル是レヨリ「ソーヘン」島ト豊島トノ間ニ在ルノ水道ニ到リ又此水道ヲ經過スルノ後ハ針路ヲ東微北ニ轉シ「ブリサン」ヅー、シヤット「礁」ニ向フテ進行スヘシ此間ノ水深ハ總テ整一ナリ

「ホランド」洋名「フェル
豊島」ナンド「島

此島ハ約北緯三十七度八分東經一百二十六度二十分ニ位シ長サ大約四分里ノ三ナリ其高サハ漸ヲ以テ増加シ五百七十二尺ニ至ル島ノ東側ニ耕地アリ又北東端ニ一小村落アリ明治十五年天城艦乗員海軍少佐五藤國幹ノ報道一ス百五六十戸該村落東南ノ溪間ニ流水アリ飲用ニ適ス然レモ潮退豐島ノ東方ニ水面下一尋半乃至三尋ノ一堆アリ而シテ之ト豐島ノ東濱トノ間即チ前記村落ノ對面水深九尋ノ處ニ錨地アリ

此島ノ山頂ハ甚タ高カラスシテ之ヲ遠望シ難シト雖モ其幅甚タ廣キカ故ニ他ノ島ト混セス而シテ其島勢北方ヨリ南方ニ蜿蜒シ朝鮮地方ニ到ル時ノ好目標タリ

泊地

此泊地ハ「ユゼニ」島ノ泊地ヨリ便宜ナリ乃チ大洋ヨリ來ル船ノ爲メニハ其距離近カク又此泊地ヨリ出帆スルニ當テハ「ブリサン、ゾー、シヤット」礁ヲ避ケ「ハット」岩ノ狹路ニ容易ニ入ルヲ得ルナリ豐島ノ北方岬ヨリ半里ヲ隔テ、廻航

セシ後少シク右舷ノ方ヘ向ヒ北方ヨリ南方迄ハ島ニ沿フテ航過スレバ島ノ東岸ニ在ル村ノ東方五鏈ニ大船ノ碇泊スベキ地ヲ得ベシ即チ此泊地ナリ其水深五尋乃至六尋ニシテ泊地ノ東方ニ行クニ從テ愈々深シ底質ハ泥沙ニシテ能ク錨爪ヲ保チ得ベシ小船ハ該海岸ノ近傍ニ於テ直チニ碇泊スルヲ得ヘシ

泊地ノ東方ニ「トリゲール」列嶼即チ六島ト連續スル淺灘アリ此淺灘ハ干潮ノ時水深只九寸八四ナリト雖モ砲艦十艘ハ此泊地ニ投錨スルヲ得ヘシ明治十五年五月海軍少佐ノ報道スル所ニ依レハ該

佛國支那海艦隊ノ漢江通船記ニ曰ク一千八百六十六年十一月十九日及ヒ二十日ニ艦隊ノ七艘ハ北面ノ烈風ヲ避ケ此泊地ニ投錨セシニ海面平穩ニシテ危難ニ遭ハサリキ又豐島ノ北方ニアル群島ハ堡壁ノ如ク散列シテ波浪ヲ障フルカ故ニ激浪ナシ「ラブラス」號ハ村ノ南東八鏈ノ處ニ投錨セシニ滿月ノ頃ニ至リ水深十九尺ニ下リシニ依テ碇泊場ヲ移轉シ乃チ「巴ム」ヲ得

ス淺灘ノ場所前記ニ投錨セリ是レニ由テ之ヲ觀レハ此淺灘ハ豐島ノ南
方ヨリ始マリ「フリヴィール」島嶼ノ北方ニ終ルコトヲ推察スルナリ

行船法程

「フェルリール」列嶼ノ經圈ヲ過キシ後東微北二分一北約十里ニ豐島ヲ遠望シ
得ベシ此山頂ハ前記ノ如キ形是レヨリ直チニ此島ニ向テ航進スヘカラス乃
チ「シヨバイヨール」島ノ方ヘ航シ豐島ヲ右舷ニ見テ航スヘシ「シヨバイヨール」島ノ
上部ハ明ラカニ見ユ而シテ其南岬ハ絶險ナレモ海上ニハ危險ノ處ナシ一千
八百六十六年十二月十二日佛國ノ支那海艦隊ハ「シヨバイヨール」島ノ南方ニ在
ル所ノ碇泊場ヲ得ル能ハスシテ此島ヨリ約三分里ノ二水深十六尋ノ處ヲ航
セリ

航海者若シ「シヨバイヨール」島ノ南方ニ近ツクトハ精細ニ測量シテ豐島ノ北部
ノ左方但シ五度三十分程ニ向ヒテ航スヘシ其然ル所以ハ南方ニ「チャツセリア
ウ」堆「チャツセリアウ」列嶼ノ南アリ北方ニ皇子叢島アリテ其間ノ處々ニ低礁ノ

海面ニ出ツルヲ見甚タ危險ナリ

一千八百六十六年佛國ノ支那海艦隊ノ漢江通船記ニ曰ク我艦隊ノ三隻此
間ヲ航過セシヨリ以前ニ砲艦「タルジフ」號ハ「ブリモゲ」號ノ左方ヨリ二鐘
ヲ距テ、航海シ測量ニ由テ水深六尋迄ノ海底ヲ實驗セシガ鉛錘中途ニシ
テ岩ニ當リ破壊シ全功ヲ得ス故ニ此邊ヲ航海スル時ハ最モ注意スヘシ圖
上艦隊ノ航路ハ水深十尋ヨリ少ナカラサルコトヲ記明シタレモ確定シタル
測量ニアラス故ニ之ヲ確定スル迄ハ航海者最モ心ヲ用ヒテ測量スヘシ
「シヨバイヨール」島ノ南方ヨリ一里ヲ隔テタル處ニ到リ前ニ記スルカ如キ方向
ニテ直進シ豐島ノ北方岬ヲ船ノ東方ニ準視スル様ニ航路ヲ定メ然ル後島岬
ニ向テ進ムヘシ但シ此島ノ岬ニ近ツクコト半里迄ハ危險無ク牙山灣ニ入航ス
ルコトヲ得ヘシ此法程ハ牙山灣記

「フリヴィール」列島

此列島ハ六個ノ小島ヨリ成レルモノニシテ其最大ナルモノハ長サ約半里ア

リ該諸島ノ高サハ各異ニシテ其最高ノモノハ一百八十九尺其南東岩ハ六十尺ナリ又其極北ニ位スルモノハ其北角附近ニ一岩ヲ有ス此岩ハ水面上ニ直立シ高サ約四十尺ナリ

此列島ノ中央ニ位スル島ハ最モ大ニシテ僅カノ耕地及ヒ一小村落アリ總テ此列島ノ近邊ニハ許多ノ暗岩アルヲ見ル

立波島洋名「ト」

此島ハ廣袤約一里半ニシテ豊島ヲ距ル南東殆ト四里ノ地ニ在リ島上一巔アリ其高サ約三百四十五尺ナリ此島ト「デセプション」灣口トノ間ニ數小嶼散布ス

「ヘンリー」島

此島ハ立波島ノ東約三里半一在リ此島ヨリ「フリヴィール」小列島ノ方ニ向テ石礮ノ擴延スルアリ

「ユゼニ」島一名「イバ」

此島ハ豊島ノ東方約七里半ニ在テ南北ニ延長スルコト約一里ト四分三幅約三

分里ノ一ナリ島ノ北端ハ殆ト分離シテ別ニ一小島ヲ成セルガ如シ而シテ其地勢タル直チニ水面上ニ突起セル險崖ニシテ高サ一百尺ナリ

此島ノ最高巔ハ高サ約二百七十五尺島面ハ凹凸ニシテ住民無ク又耕地ヲ見ス島ノ西岸ニ沿フテ一岩堆アリ濱ヲ距ルコト約二鏈半ニシテ低潮ノ時堆上ノ水深ハ僅ニ約三尺ナリ

此島ト「トリ」島トノ間ハ水深一ナラズ其正中水道ニ於テハ十六尋アリト雖モ各島ノ岸ニ接近スルルハ減シテ六尋トナル又「ユゼニ」島ト「フリヴィール」群嶼トノ間ニ於テモ水深不一ニシテ一尋半ヨリ十六尋ニ至ル
泊地

「ユゼニ」島ニ碇泊スルニ此地ハ見ル所水面高ク島内狭少ナレモ別ニ障碍ナシ一千八百六十六年九月并十月中佛國ノ支那海艦隊ノ碇泊セシ處ハ兄弟岩ノ北東方ニアリテ其場所ハ東ヨリ西マテ半里程伸延シ其水深ハ十尋乃至十三尋ナリ又島ノ近傍ニ至レハ水深二十二尋ヲ得然レモ此島ヲ廻リ船ノ西方

即チ「ユゼニ」島ヲ望觀シ得ヘキノ處ニ水深六尋或ハ七尋ノ泊地アルベシト
信スルナリ

「ユゼニ」島ニハ永ク碇泊スルコトヲ得ス何トナレハ此泊地ハ直チニ西風ヲ受
ケ又最モ狭少ナルカ故ニ多數ノ軍艦茲ニ碇泊スル能ハサレハナリ且ツ此島
ニ行ク時ニハ空シク十餘里ノ迂路ヲ廻ルカ故ニ豐島泊地ヲ選取スルコトヲ可
トス

英版支那海針路誌ニ載スル所ノ泊地ハ乃チ兄弟岩ヲ南微東二分一東「フォル
ニール」嶼ヲ南東微東四分三東「レ、シヤツボ」嶼ヲ北西微西ニ望ムノ處ニシテ
水深十一尋其底質ハ甚タ堅シ恐ラクハ岩ナラクハ石ナラクハ然レモ此泊地ヨリ北半里ヲ隔ツ
ル處ハ軟泥ニシテ能ク錨爪ヲ支フト云フ

潮信

「ユゼニ」島泊地ニ於テハ潮候時五時四十九分ニシテ大潮漲ハ三十尺ナリ
行船法程

牙山灣ニ入航スル時ニ若シ日没ニ至ラサルカ又ハ月夜ナル時ハ「ユゼニ」島
ニ行クコトヲ得ベシ此島ハ孤立ニシテ其北西方ニ兄弟岩ト曰ヘル杉形ノ小岩
アリ故ニ容易ニ此島ヲ辨知スルコトヲ得ルナリ而シテ此島ニ到ル航路中危險
ナシ「フリヴィール」島嶼ノ北方ヨリ一里ノ處ヲ通行スルト雖モ必ス海底ノ水深
十六尋餘ヲ有スヘシ

兄弟岩レ一名「レク
ブラウーロン」

此岩ハ高潮面上高サ約十五尺ニシテ「ユゼニ」島ヲ距ル北西半里ノ處ニ在リ
「フォーニール」嶼一名「トリ」

此嶼ハ「ユゼニ」島ノ東方三里半ノ地ニ在ル一小嶼ニシテ其外形ハ黃沙ヨリ
成レルカ如シ其西側ハ殆ト直立シテ大約一百五十三尺ノ高サニ達ス而シテ
此嶼ヨリ南東二里ト四分三ノ間ニハ露出堆ノ擴延セルアリ又嶼ヨリ北西ノ
方一里ト四分一ノ間ニハ淺處及ヒ岩石ノ散在セルアリ

濟扶島一名「シヤ
チユート」洋名「イシ」

此島ハ「トリ」島ノ北微東大約三里半ヲ距ルノ處ニ在リテ低潮ニ露出シ且ツ此島ヨリ西方一里ト四分一ニ擴延セル泥堆上ニ位ス而シテ該兩島間ノ水道ヲ以テ南陽灣ニ入ルノ航路トス又此島ノ北角ヲ「シャノイン」岬ト曰フ

大部島ビ、洋名「レバ」
大部島ビ、デ「イナ」

此島ハ地面凸凹ナル一大島ニシテ住民アリ好ク耕作セルモノ、如シ其南角ハ峻壁ニシテ高サ約七十尺アリ又島ノ沿岸ニハ岩陂羅列セルヲ以テ上陸ニ難シ

此島ノ南西角上ニ顯著ナル樹木アリテ好目標ヲナス此樹木ハ高大ニシテ且ツ孤立セルヲ以テ若干距離ノ地ヨリ能ク視認スルヲ得ベシ

大部島ト小部島トノ間ノ水道内ニ「ロナ」島アリ而シテ此水道ハ甚々深水ナリト雖モ其兩岸共ニ上陸シ難キヲ以テ暫ク無用ニ屬スルモノ、如シ

「ロナ」島

此島ハ大部島ト小部島トノ間ニアリ而シテ此兩島間ノ水道ヲ「ロナ」峽ト曰フ

小部島一名「キエン、シャ」
又「イエン、ヒエン」

此島ハ大部島ノ西方二里ニ在ル不齊形ノ一島ニシテ高サ約五百尺アリ其北西側ハ陡峻ナリ島内耕地アリ且ツ現ニ泉ヨリ流出シテ山面ヲ流ル、一小流ヲ目撃セルヲ以テ之ヲ見ルハ淡水ニ富メルモノ、如シ又島ノ西側ニ一大村落アリ

「ロナ」堆

此堆ハ低潮ニ露出スル一堆ニシテ小部島ノ南端ヨリ南方二里ノ地ニ擴延シ夫ヨリ淺水堆トナリテ東ノ方「シャノイン」岬ニ向テ擴延ス而シテ該堆上ニ二座ノ小岬アリ

南北兩「ウオツチャース」岩

此兩岩ハ鹽河本口ノ東側ニ在ル二岩ニシテ俱ニ高潮面上ノ高サ僅ニ三尺ナリ而シテ其南ニ位スルモノハ小部島ノ北方一里半ニ又其北ニ位スルモノハ南「ウオツチャース」岩ノ北一里ニ在リ

「ラウンド」島

此島ハ北「ウツチャ」岩ノ北東二里ト四分一ニ在リテ高サ二百十三尺アリ而シテ其高起スルコ急ナラズト雖モ島内耕作地ナク唯其東側ニ一小家屋アルノミ

「ラウンド」島附近水深艦「ウオル」一八八十二年六月獨逸軍

六月三十日「ラウンド」島ノ北東方ヨリ南方ヲ經テ南西方ヲ逐次ニ錘測セシニ英海軍海圖第一千二百五十八號即チ海軍海圖ニ載スル所ノ水深即チ四尋四分一、五尋二分一、三尋四分一及ヒ二尋四分三ハ蓋シ處々ニ孤立セル尖岩アリテ其上ニ錘測シタル水深タルニアラザレハ該海圖上ニ指示シタル距離ノ處ニ於テ此ノ如キ水深アラサルコヲ證明セリ

英海軍海圖上「ラウンド」島ノ南方及ヒ南西方ニ於テ水深三尋四分一及ヒ五尋二分一ト記載セルノ地ハ惟フニ「ウオル」號ガ該島ノ南方一里ノ地ニ於テ測得シタル水深ト同様ナラン該號ハ此地ニ於テ七尋八尋四分一及ヒ九尋四分一

ノ水深ヲ得タリ今若シ此地處々ニ針岩存在シテ其岩上ノ水深ハ果シテ英海軍海圖第一千二百五十八號ニ載スル所ノモノト相同シキトスルモ決シテ畏懼スルニ足ラザルナリ何トナレハ此岩ノ北方即チ「ラウンド」島ヲ距ル三百碼乃至四百碼ノ所ヨリ北「ウツチャ」島ノ北方同距離ノ處ニ至ルノ間ハ最大ナル船隻ト雖モ安全ニ通過シ得ヘキ水道アルコ更ニ疑ヒナケレバナリ

圓錐岩

此岩ハ大部島ノ北西角北西ヲ距ル半里ノ處ニアリテ其形ハ圓錐ニ似タルヲ以テ甚ダ認メ易シ蓋シ此岩ハ廣袤小ニシテ水面上ニ突起スルコ六十三尺ナリ

「ヘイコックス」列嶼

此列嶼ハ大部島ノ北東角ヲ距ル北東約一里半ニ在ル二個ノ多岩嶼ニシテ互ニ密接シ容易ニ認メ得ベシ而シテ其東岸ハ較小ナリ

「エドモンド」島

此島ハ「ヘイコックス」列岩ノ南東約一里半ニ在リテ高潮ニ蕩滌スト云フ

「ゲリヴェル」島

此島ハ「ヘイコックス」ノ北東方殆ト五里ニ在リテ高サ一百四十七尺ナリ

「ハット」島 佛稱「レ、シヤ」

此島ハ小部島ヨリ南ノ方距濱約一里ノ地ニ擴延セル淺水堆上ニ在ル小島ニシテ其高サ約六十尺ナリ

「キッテン」岩 佛稱「ブリサン、

此岩ハ豐島ノ北端ヲ距ル北東二分一北二里四分三ノ地ニ在リテ小潮漲ノ時ハ恰モ海面ニ蕩滌スト雖モ大潮漲時ニシテ海面平穩ナル時ハ之ヲ視認スルヲ能ハザルヲ以テ甚ダ危險ナリトス依テ船舶ハ宜シク此地ヲ避ケテ航セザル可カラズ

佛國艦隊ノ報告ニ依レバ此礁ノ位置ハ「レ、シヤット」岩 一名「チャン」ノ南三十三度東一里半ノ距離ニアリ危險ノ礁ニシテ「レ、シヤット」岩ト豐島ノ間ノ航路ヲシテ其

幅半ヲ減セシム又嶮岨ナル一岩塊満潮時後三時間ヲ經テ海水ニ蓋ハレ見ヘサルモノアリ佛艦「アリモター」號ハ其東方ヨリ二鐘ノ距離ニ此礁ヲ廻行シテ水深十一尋ヲ得タリト又此礁ハ西弦高潮ニ於テハ恰モ蕩岩ノ如シ而シテ其水面ニ出ル時ハ豐島ニ於テ明ラカニ之ヲ遠望スルヲ得ベシ且ツ海水ノ蓋ヒタル時ト雖モ一般ノ海面少シク動搖スル時ハ大洋或ハ豐島ヨリ來リ「シヤツボ」島ノ狹路ニ入ラントスル船ハ其岩邊ノ濤聲ヲ聞キテ此礁ノ所在ヲ了知スルヲ得ルナリ之ニ反シテ「ユゼニ」島ヨリハ此礁ヲ容易ニ辨知スルヲ得ス是レ亦「ユゼニ」島ヨリモ豐島ノ泊地ヲ選用スルヲ可トスルノ一證ナリト

「カット」島 一名「チャン」佛稱「レ、シヤット」

此島ハ「キッテン」岩ヲ距ル北西微北一里半ニ在ル一小島ニシテ水面ニ直立シ高サ一百九十八尺ニ達ス又此島ノ西方少距離ノ處ニ高サ約二十尺ノ一岩アリ而シテ此島ト「キッテン」岩トノ間ニ好航路アルガ如ク見ユ

佛國艦隊ノ報告ニ依レバ「レ、シャット」岩^{カッタ}ノ西方ニ一岩アリ高潮上約二十尺
同方ニ又一小島アリ島形整正ニシテ峻壁アリ其高サ九十六尺ナリト
又獨逸國ノ砲艦「イルチス」號艦長少佐「リヨットゲル」ノ報告ニ因レバ該艦ノ濟物
浦ヨリ歸航中「カッタ」岩ノ南方ニ未ダ海圖ニ示サザル一岩アルヲ見出セリ此岩
ハ「カッタ」岩ニ接近シ其距離ハ約五分鍾ノ四十二碼ヨリ一鍾一マデナリト

「ラグエル」列島

此列島ハ「ヒューマン」島ノ南方一里半ニ在ル三座ノ小島ヨリ成リ住民及ヒ耕地
無ク島ノ外境ニ數多ノ岩石アリ

白色岩

小部島及ヒ「ヒューマン」島間ノ水道内ニ一小岩陂アリ其頂白色ニシテ識別ニ容
易ナルヲ以テ一好目標トナル但シ此岩ハ高潮時ニ於テモ其高サ三尺ニシテ
能ク視認シ得ベキナリ

「ヒューマン」島一名「シニーム」
「ヒューマン」島一名「シニーム」

此島ハ小部島ノ西方一里四分三ニ在ル不齊形且ツ多山ノ一島ニシテ北東ヨ
リ南西ニ至ル長サ約一里島内住民及ヒ耕地無ク其最高部ハ高サ約二百三十
二尺ナリ

靈興島一名「マロルス」
又「チャフール」トス

此島ハ「ヒューマン」島ノ西大約二里ニ在ル一大島ニシテ其中部ノ高サ五百五十
七尺ナリ

未測驗ノ狹路

靈興島ト「リップチ」島トノ間ニ於テ大洋ヲ認メ得ベキノ海口アリ支那地方ヨリ
來レル船ノ直航路ナランカ此間海底危險ノ處ヲ見ス引水者ノ説ニヨレバ淺
沙洲多キモ其間ニ大艦ノ通航スルヲ得ベシト然レモ此狹路ヲ通行スルガ爲
メ迂回ノ航路ヲ用ユルノミナラス目標トナスベキ場所ナシ故ニ後來沙洲ニ
標ヲ設クル迄ハ此海路ヲ通行スヘカラス他日若シ此海底ヲ測量スルヲ得バ
乃チ豐島ニ達スルノ便ヲ得テ「ハット」岩ヘ通行ノ難路ヲモ避ケ得ベキヤ必セ

リ

「ワイトホール」群嶼

此群嶼ハ靈興島ノ北約三里ノ地ニ散在セル數小嶼ニシテ其最モ高キモノハ海面上_一百六十二尺ナリ

堆

「ワイトホール」群嶼ノ南角ヨリ西微南ノ方大約三里ノ間ニ水面下一尋半乃至二尋ノ一堆擴延ス而シテ之ト「モーク」島ノ東微北ニ在ル一堆トノ間ハ水深二尋ヨリ二尋四分三ニ至ル

「ワイトホール」群嶼ノ南角ノ靈興島洋名「マ」ノ北西角附近ニアル一嶼トノ間ハ水深十六尋ヨリ二十尋ニ至ル又「ワイトホール」群嶼ヨリ「リッチー」島ノ方ニ向テ擴延スル數堆アリ其二三ハ低潮ノ時水面上ニ露出スルコ一尺ナリ

潮信

「ワイトホール」群嶼ニ於テハ潮候時五時二十分概ニシテ大潮漲ハ二十四尺三

寸ナリ

イシテ

「エムペロル」岩

此岩ハ「ワイトホール」群嶼中其西ニ位セル一小嶼ノ西微北四分一北一里ト四分三ノ地ニ在リテ潮退キ盡ルルハ水面上ニ露出ス

堆

靈興島ノ北西角附近ニ在ル一嶼ヨリ北東微東四分三東ノ方六里四分一ノ間ニ擴延セル數堆アリ處々ニ堆脊ノ水面上_一二尺ニ露出スル處アリ而シテ該堆ノ北東端ハ水面下ニ入ルコ三尋ニシテ「リッチー」島ノ南角ヨリ南西微南相距二里半ノ地ニ方ル又此堆ト「ワイトホール」群嶼及ヒ「リッチー」島間ノ淺灘トノ間ハ水深六尋乃至十尋ニシテ潤サ一里四分三ノ一直水道ヲ成ス

「マリ、フォルテニ」叢島

「フィリップ」島

此島ハ高サ_一百五十尺ニシテ「リッチー」島マリフォルテニ中ノ一大島ノ南方ニ在リ島上整

形ノ一峯アリ

「ルイ」島

此島ハ「リツチ」島ノ北側ニ在リテ高サ一百六十八尺ナリ

永宗島

此島ハ大ニシテ其形状高低整一ナラス其最高處ハ一千尺餘ナリ此高頂ニ樹木ノ一團アリ又島内耕地及ヒ許多ノ小村アリ

此近傍海岸ハ泥洲多クシテ干潮ニハ單舸ト雖モ近接スル能ハス此島ハ月尾島ト對シ漢江ニ入ルノ第一門口タリ其屬嶼「ボシエツト」島ニ城壁ヲ作ル明治九年冬我雲揚艦此地ヲ過キ其砲聲ヲ受ク答戰一場終ニ城ヲ燒テ歸ル後千嶺ヲ本島ニ移シ「ボシエツト」ニハ其舊趾ヲ存セリ

添備品

此島ニ於テ鷄卵野菜等ヲ得ラルヘシ

「ボシエツト」島

此島ハ月尾島ノ北西ニ在リテ濶サ一里半ノ水道ヲ隔テ、相對ス而シテ島ノ西端ハ最モ高ク共高サ約一百尺ニシテ黃色即チ多沙ノ觀ヲ呈ス又島ノ北東側ニ「ケンヲシ」ト稱フル一大村アリ

此島ハ低潮ニ現出セル泥盤ニ依テ永宗島ト連絡ス又萬世橋ト稱セル石橋ヲ架シテ永宗島ト通ス島内城壘アリ永宗城ト稱ス該城ノ周圍八九丁壁ノ高サ七八尺丸石ヲ以テ壘ミ粘土ヲ以テ塗リ銃眼ヲ穿ツ構造粗惡ナリ又城内小丘ノ頂ニ土製ノ胸牆アリ長サ二三間毎ニ砲門ヲ開ラク是レ外舶ヲ防クノ爲メナリト云フ城内二井アリ水質純良ナリ

勿淄島洋名「ボイ」
又「マツチ」

此島ハ「ボシエツト」島ノ北東半里ニ在リテ往時ハ樹木茂密ナリ故ニ當時ノ英版支那海針路誌ニ此島ヲ記シテ曰ク其形境ハ叢樹ヲ有スル陸地ノ如クナリト明治十年十二月海軍所屬船高雄號該地ニ航セシニ島中ノ樹木著シキモノハ悉ク伐除シ唯短少ノ樹木ヲ殘スノミナリト云フ「佛國」ノ支那海艦隊ノ漢江記事
此島ヲ叢樹アリト記

載セ而シテ島ノ高サ約一百二十九尺又一壁壘アリ其高サ約四尺ニシテ島頂ヨリ某距離ニ延亘ス此島ノ東端ハ約北緯三十七度二十九分三十秒東經一百二十六度三十三分四十秒ナリ

泊地

此泊地ハ甚タ廣ク且ツ無難ナリ佛國軍艦ラゲリエル號ハ二ヶ月間此處ニ在留セリ其間北西並ニ南西ノ烈風ヲ受ケタレモ甚シキ害ヲ蒙ラサリキ此泊地ノ西方ニ界スル泥沙洲ハ大洋風波ヲ避クルノ處ナリ此洲ハ「マリフォルチユニ」叢島ト結續スルモノトス海底ノ最深キ處ハ即チ此泊地内勿淄島「セイ」ノ北東ニ在リ然レモ「ブリモゲ」島一名「ボン」栗島及ヒ「マイヨーム」島ノ間ナル海底ニ比スレバ錨爪ヲ受クルヲ半ナラズ故ニ「ラゲリエル」號ハ始メ錨ノ鎖ヲ兩側ニ繫キテ碇泊セリ

同艦ハ此ノ如ク警戒セシカモ「インペラトリス」海灣ノ波浪ト南西方ノ海浪トヲ受クルニ依テ大風ノ時潮浪ノ方向若シ風ニ向フレハ波浪烈シクナルヲ例トス故ニ此軍艦ハ之ニ加フルニ此海ノ最モ烈シキ西風ヲ受ケタルノ時ニ際シテハ栗島洋名「グニル」ノ下ニ在ル所ノ暗礁ニ衝突シ船体ヲ廻轉スルノ間隙ヲ得サリシト云フ

此泊地ニ於テハ喫水十九尺乃至二十三尺ノ船三四艘ハ碇泊スルヲ得ヘシ砲艦ハ十四艘容ニ泊スルヲ得ヘシ

行船法程

黃海ヨリ勿淄島泊地ニ入ルノ法程

黃海ヨリ勿淄島泊地ニ入ラントスル者ハ前已ニ記載セル行船法程ヲ以テ進ミ其後チ「カッタ」嶼ヲ西微南小部島ノ西方接線船ヨリ小部島ノ西傍ヘ屬ヲ北微東ニ望ム時白色岩一名「ラ、タシユ」ト小部島ノ間ヲ通行スルカ爲メニ針ヲ北ニ折リテ進ムヘシ
白色岩ハ充分ニ接近シテ水深十尋ノ處ヲ通航シ得ベシ靈興島洋名「マ」ノ北方接線ヲ西方ニ望ムマテハ此方向ニ進ミ正サニ其接線ヲ西ニ望ムニ至テ針ヲ

北東四分一北ニ轉シ北「ウエデット」嶼ニ進ミ此嶼ト「ラウソンド」島トノ間ヲ經過スルニハ針ヲ北東ニ取リ以テ月尾島「ボイ」島ニ向ヒ進行スベシ此水道ヲ進行スルニ當リテヤ「ラウソンド」島ノ東端ト小部島ノ西端トヲ正サニ一直線ニ望ムヲ以テ最好ノ航標トナス而シテ「インペラトリス」海灣ノ北頭ナル陸地ノ高峯上ニアル一團樹「ボック」ト稱ストヲ東ニ望ム時ニ針ニ北微東ニ轉シ「ボッシュット」島即チ永宗城月尾島及ヒ勿淄島「ボイ」ノ間ニ至リ水道ノ中央ヲ經過シ栗島「グエール」ヲ北東二分一東「ブリモゲ」島ヲ北二分一西勿淄島ヲ南西二分一西月尾島ヲ南二分一東ニ望ムノ處即チ水深十三尋ノ地ニ投錨スヘシ是レ即チ勿淄島ノ泊地ナリ

豐島「フエル」ナヨリ勿淄島「ボイ」ニ至ル法程

航海者ハ成ル可ク滿潮ノ始メニ於テ狹路ニ入ルベシ然ルレハ「テヤセリアウ」岩若クハ「キッテン」岩ヲ認メ得テ其間ヲ通航スルヲ得ヘシ佛艦「キンシャン」號此間ノ海底ヲ測量セシニ無難ナリ此狹路最モ短カシト雖モ軍艦ヲ行リ難シ此狹

路ニ入ラントスル時若シ「キッテン」岩海水ニ覆ハレ見ヘサレハ其礁ノ東方一里四分一ヲ距テ、廻行シ然ル後チ北微西ニ準眸スヘキ白色岩ニ向ヒ航行スヘシ此白色岩ハ「ヒュ」マン島ニ連續スル岩塊中ノ一小岩ニシテ岩上ハ鳥糞ノ爲メニ白色トナリシモノナリ此白色岩ハ海上ヨリ遙望シ得ヘキカ故ニ「ハット」岩ノ西方ナル通航困難ノ狹路ニ入ルノ好目標タリ船ハ「ハット」岩ノ狹路ニ入ランカ爲メニ「キッテン」岩ノ正東ニ在ル時ニハ「ハット」岩ヲ約北二十五度東ニ準眸スヘシ如何ナル場合ニテモ之ヲ北微東ヨリ以北ニ望ミテ航スヘカラス「ハット」岩ハ小部島ノ南方ニ擴延セル沙堆ノ頂ニシテ南西方ニ伸出セリ此堆洲中遠望スヘキモノハ此岩ノミ

船ハ又白色岩ノ經圈ヨリ西方ヘ航セサル様ニ注意スヘシ此處ニ淺灘多シ「ハット」岩ノ西方一里半ノ處ニ進行シ白色岩ヲ距ル大約三鏈ノ處ヲ航過スルヲ宜シトス然ル後チ小部島ヲ過ルマテハ狹路ノ中央ヲ通航スヘシ

尙ホ暫ク航進シ「ラウソンド」島ヲ認ム此島ハ四邊形ヲナシ識別シ易シ勿淄島「ボイ

セハ「ヴェデット」岩ノ北東ニアリ「ヴェデット」ハ南北二岩ヲ稱スルモノニシテ「ハット」岩ノ狭路ヨリ航進スルノ際ハ此二岩ヲ左右ニ見ル其北岩ハ「インペラトリ」ス「灣」底ヨリ「ラウンド」島ニ列スル暗礁ノ線端ヲナスモノニシテ暗礁中ニ岩石ノ處々海上ニ顯ハル、モノアリ航海者宜シク小部島中「トレブ」ノ叢林ノ前ヲ過ギ直チニ此北「ヴェデット」岩ニ向ヒ右舷ヨリ少シク岩ヲ見ル様ニナシテ岩前ヲ距ルヲ三鏈ノ處ヲ通航スヘシ

北「ヴェデット」岩ヲ過キシ後ハ「ラウンド」島ノ東岬ヲ約二鏈隔テ、航スル様ニ針路ヲ定ムベシ佛艦「デルレット」及「キンシヤン」二號ノ實驗ニヨレハ此東角ヨリ前進ノ處ハ甚タ險阻ナリト察セラル又引水者モ此「ラウンド」島ノ西方ハ通行スヘカラスト言ヘリ此島「トリシイ」島ノ間ハ暗礁並ニ泥沙ノ洲多クシテ未タ測定セサルモノナリ故ニ此島ノ西方ハ航行スヘカラス

「ユゼニ」島泊地ヨリ勿淄島ニ至ル法程

「ユゼニ」島ヲ出帆シ勿淄島ニ赴クニハ滿潮ノ始メヲ最モ便ナリトス即チ「キッ

テン」岩ヲ認知シ得ルヲ以テナリ若シ滿潮ノ始メニ航セサルハ此岩ヲ航過スルヲ甚タ難シ其他モ亦前ノ法程ト同様ナリ

海流

總テ此狭路ニ入ルノ航路ハ航海者其遭フ所ノ海流ニ由テ之ヲ改正セサルヲ得ス朝鮮ノ海岸ニ沿フテ航スル船ハ流勢ニ因テ南々西ヨリ北々東へ偏移スルヲ例トス乃チ此海流ハ皇子叢島ニ阻礙セラレ豊島ト「キッテン」岩トノ間ナル狭路ニ激入スルモノナリ其速力毎時四里又此狭路ト「プリンスゼローム」海灣前面ノ海邊ニ於テハ此海流ノ方向ハ東及ヒ西ナリト思考ス

此海流ハ「ハット」岩ノ狭路ニ於テ船ヲ南方ヨリ北方へ押シ流ス且ツ其流勢ハ勿淄島ニ達スルモノハ如シ

「マイユーム」島

此島ハ一小嶼ニシテ北西ヨリ南東ニ至ル長サ約四分里ノ三ナリ泊地

此泊地ハ「マイユーム」島ノ東南東四鏈ニアリテ勿淄島^{セイイ}泊地ニ比スレバ好
長ナリ然レ^モ海底深淺ノ差違アリ且ツ滿潮ノ時水面最モ高起^{凡ソ}八尺八十スル
カ故ニ錨鎖ヲ兩舷ニ繫キ最モ注意シテ碇泊スヘシ之ニ加フルニ泊場狹少ニ
シテ大船ヲ入レントスル^モハ其以前ニ浮標ヲ用ヒ豫シメ投錨ノ處ヲ定ムル
ヲ宜シトス

栗島 ^{洋名「グメル」} ^{一名「サン」} ^{モウチ}

此島ハ勿淄島ノ北東一里四分一ニ在リテ長サ約半里高サ一百六十三尺ナリ
島内一山脈アリ蜿蜒シテ殆ド島ノ全長ニ互ル此山脈ノ北端ハ直立シ南端ハ
漸次ニ傾降セリ島ノ最高嶺ハ殆ト島ノ中央ニ在リテ其上ニ一團樹アリ又島
ノ北端ニ一小分地アリ高潮ニ於テハ此島ト相分離ス
此兩島ハ共ニ峻嶮ナル多岩島ニシテ高潮ニ没スル所ノ一泥堆ヨリ突起スル
カ故ニ高潮ノ時ハ常ニ陸地ト相分カル然レ^モ低潮ニ於テハ無難ニ步行シ得
ベキ浩漠タル泥盤ノ爲メニ陸地ト連絡ス

潮信

栗島ノ南傍ニ於テハ潮候時五時二十分大漲潮三十七尺ナリ此近傍ノ滿潮流
ハ干潮流ヨリ疾クシテ其平均速率毎時二里ナリ九月中大潮ノ節ニ於テ佛艦
「ブリモゲ」號此滿潮流ノ毎時速率ヲ量リシニ四里五分一ナルコトヲ證明シタ
リ又時トシテハ潮漲三十八尺ニ及フコトアリ而シテ潮流ノ勢力ハ滿潮時後二
時間ヲ經タル時最モ大ナリトス

月尾島 ^{洋名「ブリーズ」}

此島ハ「ラウンド」島ヲ距ル北東二分一北七里四分三ニ在リ其高サハ三百八十
五尺ニシテ其形チ漸次ニ高ク其最高處ニ一團樹アリ容易ニ識認シ得ヘシ又
西側ハ東側ニ比スレバ稍平斜ニシテ此處ニ低長ナル家屋アリ其見ル所石造
ノ兵營ナルカ如シ東側ニ小漁村アリテ此處常ニ數艘ノ矮船アルヲ見ル島内
人家四五十戸アリ

此島ト陸岸トノ間ハ高潮ノ時ハ矮船ヲ通シ得ベシ ^{海軍海圖第七十九號ヲ參觀スベシ}

五月及ヒ六月中ハ南西風偏盛シ時アリテハ數日間強吹スルコアリ又風雨針ハ二十九寸七〇ト二十九寸八〇トノ間ヲ昇降ス

潮信

月尾島ニ於テハ潮候時四時四十七分概大潮漲二十九尺八寸小潮漲二十四尺小潮干滿差十七尺六寸イナチニシテ干滿兩潮流ノ速率ハ三節半ナリ

行船法程

朝鮮ノ西岸ニ沿フテ南方ヨリ皇子叢島ニ向ヒ航進スルモノハ先ツ「クリッフォル」列島ヲ經過スルナリ此列島ハ忠清道海岸北緯三十六度四十五分ノ地ニ在テ殆ト一列ニ東ヨリ西ニ點置シタル八個ノ小島ニシテ皆甚タ高カラサル岩島ナリ此諸島中極東ニアルモノヨリ北東ニ方リテ之ヨリ較大ニシテ高キ一島アリ此島ト諸島トノ間ヲ通過セシニ障礙ナカリキ然レモ此島ノ北東方ニ低クシテ大ナル二個ノ岩礁ヲ見タリ故ニ此間ヲ經過セシ後ハ直チニ「シヨバイ」ヨール島ニ向テ航進スベシ既ニ「シヨバイ」ヨール島ヲ離ルハ二三里ノ地ニ到

ラハ針ヲ轉シテ「メクエット」島ニ向ヒ豐島洋名「フエル」ナンドノ北岬ヲ東ニ望ムマテ航進スベシ是レ乃チ「チャセリアウ」堆及ヒ同名ノ礁ヲ避ケンカ爲メナリ又「シヨバイ」ヨール島ト「メクエット」島トノ直線ヨリ北方ニ入り皇子叢島中ノ淺處ニ注意スヘシ

「チャセリアウ」礁ハ「チャセリアウ」堆ノ北方ニ在テ豐島ノ南角ヨリ西南西二分一西四里ヲ隔ツ其礁脈甚タ廣カラス四方險深ニシテ于潮ノ終時ニ非ザレハ見ユルコナシ故ニ滿潮ニ在リテハ甚タ危險ナリト「ス」日進艦ハ此礁ノ北凡二里ヲ離レテ航過シタリ

豐島ノ北角ヲ距ルコ半里ノ處ヲ航スルニ障礙ナシ又其東側村落ノ海岸ヲ距ルコ五鍵ノ處ハ水深五尋半乃至六尋半ニシテ適宜ノ泊地タリ淡水ハ豐島ノ東側ニ於テ容易ニ之ヲ得ベキモ其他近傍ノ島陸ニテハ總テ得ルコ能ハス豐島ヲ航過セシ後チ最モ注意スヘキ者ヲ「ブリ」サン「ゾー」シヤット「岩」ト爲ス此岩ハ「レ」シヤット「岩」ノ南三十三度東一里半ノ處ニアリテ滿潮ニハ水面下ニ沒ス故